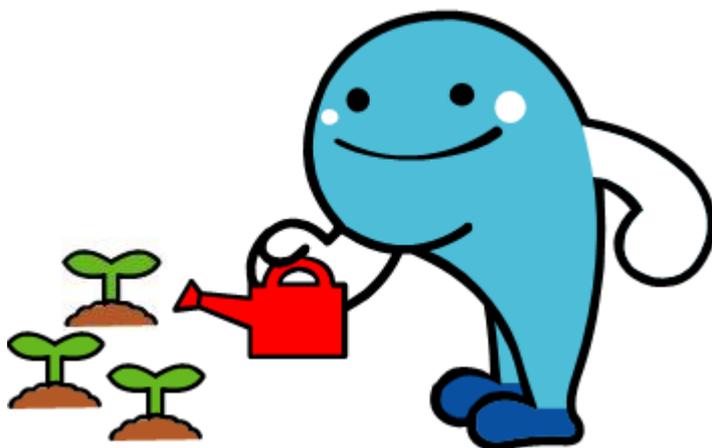


正念場！

変わろう・変えよう・産業と暮らし
高知県産業振興計画 **ver.3**

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》



平成 23 年 3 月

高 知 県

【目次】

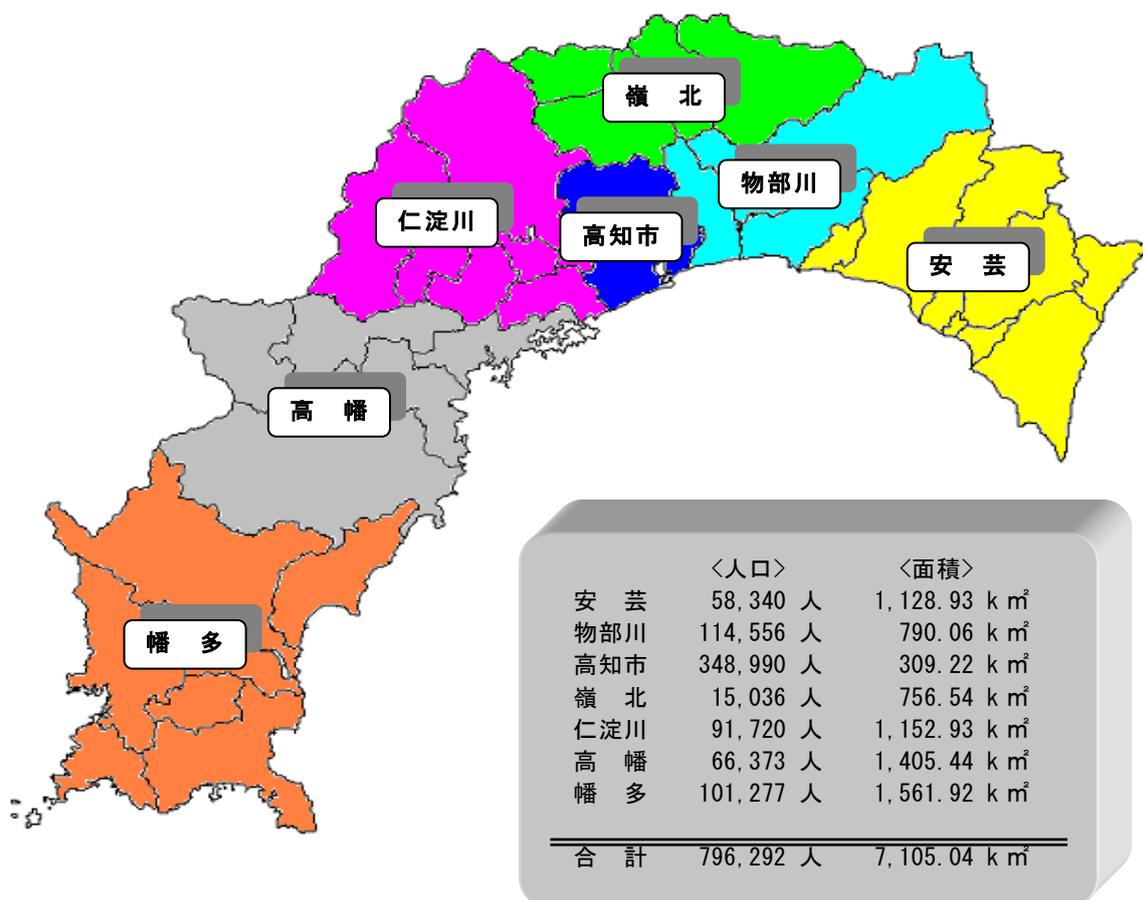
I	地域区分	1
II	各地域の展望と具体的な取組	3
1	安芸地域	3
2	物部川地域	3 5
3	高知市地域	6 1
4	嶺北地域	8 3
5	仁淀川地域	1 0 9
6	高幡地域	1 3 5
7	幡多地域	1 6 9
	<付属資料>	
	用語の解説	2 0 3
	推進経過	2 1 0
	地域アクションプランフォローアップ会議委員名簿	2 1 2

I 地域区分

地域アクションプランは、県内を7つの地域（ブロック）に区分して、それぞれの地域ごとに策定しています。

この7つの地域区分は、地域の文化や特色といった地域性、広域行政圏としての市町村の結びつきやまとまり、また、生活圈や商圈、通学圏などといったこれまで社会的に形成されてきたつながりを重視して区分したものです。

地域名	市 町 村 名	()は市町村数
安 芸 地域	室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村	(9)
物部川 地域	南国市、香南市、香美市	(3)
高知市 地域	高知市	(1)
嶺 北 地域	本山町、大豊町、土佐町、大川村	(4)
仁淀川 地域	土佐市、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村	(6)
高 幡 地域	須崎市、中土佐町、禰原町、津野町、四万十町	(5)
幡 多 地域	宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町	(6)



※人口はH17 国勢調査による

地域アクションプランの動向

地域アクションプランは、高知県を7つの地域に区分し、それぞれの地域ごとに、その特徴を活かした産業振興の取り組みを進めていくものです。

また、実行の段階で随時検証し、より大きな成果につなげていくための見直しや、各地域での新たな取り組みの追加を適宜行いながら、広く地域の暮らしを支えていける産業としての成長を目指しています。

今回の改定では、地域からの新しい取り組みの追加や、既存の取り組みを成長戦略において県域での対応としていくことなどによる削除、また取組みを進める中でより効率的・効果的に進めていくためにプランを統合・分割したことなどにより、現時点(平成23年3月)で**228事業**となりました。

「具体的な取組」における仕分(記号)の解説

各取り組みの平成23年3月時点の取り組みの熟度を示すものです。
取り組みの各段階に応じた必要な支援を行う際の目安となります。

A・・・平成23年度において、事業活動などに本格的に着手する**段階**
(生産、加工、流通、販売など)

B・・・平成23年度において、事業活動などの企画、立案に着手する**段階**
(企画、戦略づくりなど)

C・・・平成23年度において、具体的な取組内容の検討を継続する**段階**

Ⅱ 各地域の展望と具体的な取組

1 安芸地域

1 安芸地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

当地域は、山・川・海の恵まれた自然を活かし、古くから第一次産業を中心に栄えてきましたが、その衰退とともに人口流出が進み、9市町村合計で58,000人余りの人口は、2030年にはおよそ6割の35,000人まで減少するという非常に厳しい予測が立っています。

加えて、生産年齢人口に関しては、同年の見込み値では現在の約半数と、県内で最も減少率が高く、地域の産業の担い手不足が危惧されています。

こうした中でも比較的優位にある農業では、平野部はナスを中心とするハウス園芸地帯として、山間部は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。しかしながら、農業者の系統離れなどにより産地のまとまりが失われつつあり、支え合い、教え合いの喪失や、市場への影響力の低下が大きな課題となっています。

森林率が約88%と本県の中でも比較的高い当地域では、かつては「魚梁瀬スギ」など優良な天然資源が豊富にあることを背景に、林業・木材産業が大いに栄えました。

しかしながら、天然資源の枯渇とともに川下における木材産業は衰退し、また、川上の林業は木材価格の低迷等により、非常に厳しい環境に置かれています。

一方、国際的な木材の需給の変化や、地球温暖化防止のために果たす森林の役割の重要性などから、国産材の利用についても見直されてきています。

水産業は、かつて基幹産業として栄えた遠洋まぐろ延縄漁業の衰退とともに、釣り漁業や定置網漁業などの沿岸漁業主体へと転換が図られつつあります。しかし、近年は、水揚げや魚価の低迷、燃油や漁具に要する経費の増大などで漁業所得が低迷しており、後継者不足と漁業者の高齢化が深刻化しています。

工業については、漁業用機械や酒造等の地域の特性を活かした企業が根付いていますが、海洋深層水関連産業や一部の工業団地を除いて製造業の集積といえる規模には至っていません。

また、これまで、安芸市や室戸市が当地域の商業機能の中心的役割を一定果たしてきましたが、小規模事業者が主体であり、消費者ニーズが多様化する中で、高知市など地域外への買物客の流出が進んでいます。

観光に関しては、自然、歴史、文化遺産など魅力ある観光資源があるものの、幹線道が単線であることと圏内宿泊キャパシティが小さいことから典型的な通過型観光地域となっています。地質資源や森林、清流など地域の資源をより魅力的に観光客に伝えるためには、圏域を一体とした取組が求められます。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

山・川・海と恵まれた自然環境がもたらす産物を最大限に活かしながら、「安全・安心」や「健康」といった消費動向も踏まえたうえで、地域の産業の振興を図っていきます。

農業については、平野部のナスと山間部のユズを中心に振興を図っていきます。ナスに関しては、優良品種の導入による品質の向上及び収量の増加を図るとともに、まとまりのある産地づくりを推進します。一方、中山間地域の暮らしを支えるユズについては、生産性や品質の向上のための新植・改植や、将来に渡ってユズ園を適正に管理していくための仕組みづくりなどを進めていきます。

あわせて、園芸品目を中心に、環境保全型農業のさらなる推進に取り組んでいきます。

林業に関しては、「森の工場」づくりを推進し、事業者や担い手の育成を図ることで、素材の増産に取り組むとともに、加工においても消費者ニーズに対応した品質の向上や流通コストの低減に努め、林業・木材産業の再生に取り組めます。

また、重油の代替燃料として注目されている木質バイオマスの有効活用や、高級品として紀州産と並び称される備長炭の生産体制の強化と販売促進にも取り組んでいきます。

水産業に関しては、高級魚であるキンメダイの消費拡大と販売促進を図る一方、低価格魚の付加価値を高めるため、加工業者との連携による販売事業を展開します。

また、新たな漁業の導入など、従来の漁業からの転換を図る意欲的な漁業者を支援していくほか、豊かな海洋資源を活かしたダイビング事業など、観光分野と連携した取組も積極的に進めていきます。

商工業分野では、地域の強みである室戸海洋深層水、ユズや木材等の一次産品を活かし、この特性を企業誘致やブランド化につなげるよう、農商工連携による地域資源を活用した加工品開発や販路の拡大に取り組めます。

加えて、道の駅の情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取組を進めていきます。

地域の代表的な景勝地の一つである室戸岬や歴史文化を色濃く残した町並みを誇る観光分野では、新たな観光資源である「魚梁瀬森林鉄道遺産」や「室戸ジオパーク」を磨き上げ、「モネの庭」のような新しいコンセプトの施設に加えて、近年地域で取組が進みつつある体験型観光など、地域が有する多くの資源を有機的に結びつけ、競争力のある商品として売っていけるための仕組みづくりや、「ごめん・なはり線」を活用した取組などを進めます。

また、昨年の中NHK大河ドラマ「龍馬伝」によるにぎわいを一過性で終わらせることなくさらに広げるため、「志国高知龍馬ふるさと博」の開催に合わせて、県内の関連する地域と密接に連携して交流人口の拡大に積極的に取り組んでいきます。

こうしたさまざまな取組を通じて、若者がとどまることのできる地域を目指していきます。

(3) 重点的に取り組む施策

- 二つの日本一を有する産地機能の維持・強化
(まとまりのあるナスの産地づくり、ユズを中心とした中山間地域の農業振興)
- 環境保全型農業のさらなる推進
- 豊かな森林資源を活かす林業再生への取組
(林業再生事業(「森の工場」づくりなど)、林業加工品の販売促進など)
- 漁家所得向上への取組
(キンメダイのブランド化に向けた取組、低価格魚の付加価値を高めるための加工業者との連携、新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上など)
- 1.5次産業化の推進
(道の駅「田野駅屋」の機能強化、特産品「イチジク」による地域の活性化など)
- 広域的に連携した観光の仕組みづくり
(体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備、地域資源を活用した加工品等の販売との密接化など)

(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
ナス(土佐鷹)の作付面積	H19 : 11 ha	H23 : 80 ha
ユズの生産量	H16~17 平均 : 4,085 t	H22~23 平均 : 3,924 t
林業素材生産量	H18 : 92,000 m ³	H23 : 103,000 m ³
間伐面積	H19 : 1,590 ha	H23 : 2,000 ha
主要水産物の単価	H19 : 345 円	H23 : 362 円
深層水関連商品売上額	H19 : 148 億円	H23 : 155 億円
圏内主要施設訪問者数 ※ 県調査	H19 : 100,000 人	H23 : 130,000 人
圏内宿泊者数 ※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ	H19 : 127,000 人	H23 : 140,000 人

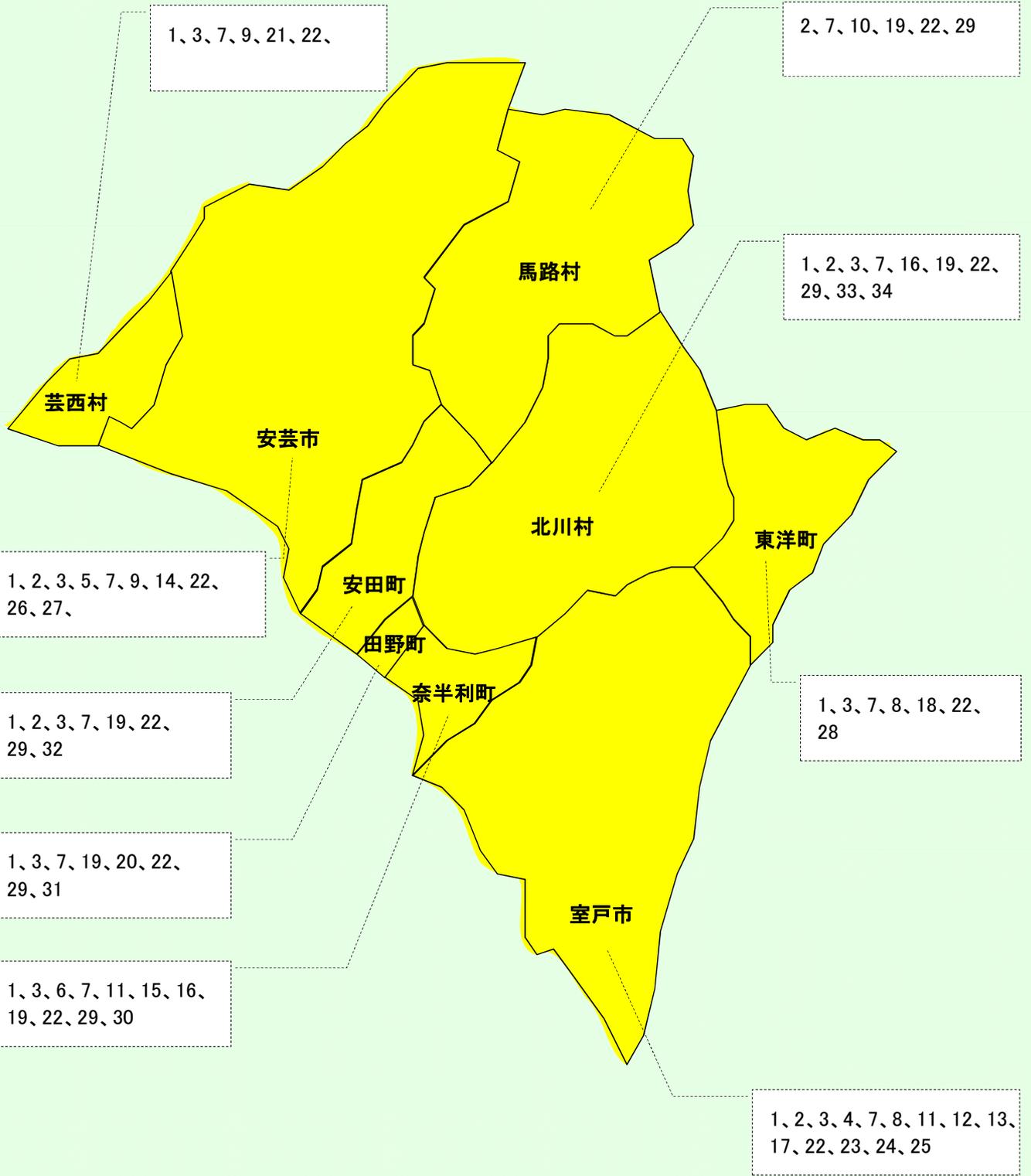
(注) : 「主要な指標及び目標」は、各産業分野を包括的するものなどを掲げているため、「(5) 具体的な取組」で個別に掲げている「指標及び目標」とは、一致していないものもあります。(以下、各地域とも同じ)

(5) 具体的な取組

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
1	まとまりのあるナスの産地づくり	●	●	●	●	●	●	●		●
2	ユズを中心とした中山間地域の農業振興	●	●				●	●	●	
3	環境保全型農業の推進	●	●	●	●	●	●	●		●
4	西山きんとき芋販売促進事業	●								
5	土佐ジローの生産拡大と地域の活性化		●							
6	特産品「イチジク」による地域の活性化				●					
7	林業再生事業	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	土佐備長炭生産・出荷・販売体制の強化事業	●		●						
9	木質バイオマス活用事業		●							●
10	林業加工品の販売促進								●	
11	キンメダイのブランド化に向けた取組	●			●					
12	スジアオノリのブランド化の取組	●								
13	低価格な定置網漁獲物の販売戦略	●								
14	新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上		●							
15	「加領郷」ブランドによる地域の活性化				●					
16	河川の周年利用による地域経済の活性化				●			●		
17	海洋深層水の利用拡大	●								
18	海の駅「東洋町」の活性化			●						
19	中芸地域食資源を活用した新商品開発及び地域ブランド化				●	●	●	●	●	
20	道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)					●				
21	地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化									●
22	体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備	●	●	●	●	●	●	●	●	●
23	地質資源を活かした交流人口の増加(世界ジオパーク認証に向けた取組)	●								
24	「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大	●								
25	「シレストむろと」を核とした健康観光産業	●								
26	『龍馬伝』から『志国高知龍馬ふるさと博』への観光推進		●							
27	スポーツキャンプのまちづくり		●							
28	ダイビングの受け皿づくりによる交流人口の拡大			●						
29	魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大				●	●	●	●	●	
30	「ふるさと海岸」を中心とする海洋資源を活用した観光事業				●					
31	体験型観光への取組 ～大野台地は、えいところ！～					●				
32	古民家と地場産品販売施設等を活かした交流人口の拡大						●			
33	龍馬伝を活かした観光振興							●		
34	世界に2つの「モネの庭」誘客強化事業							●		



【安芸地域】



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>1 まとまりのあるナスの産地づくり</p> <p>《室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村》</p>	<p>農家とJAとの信頼関係を構築し、地域の課題解決に向けJAを中心とした活動や、部会及び研究会など生産組織の活性化を主体的に行えるナス産地を目指す。</p>	<p>・JA土佐あき ・県(安芸農業振興センター)</p>	<p>◆土佐あき地域園芸戦略推進会議における管内産地の課題解決</p> <p>◆部会及び研究会など生産組織の活動目標や課題の明確化</p>
<p>2 ユズを中心とした中山間地域の農業振興</p> <p>《室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村》</p>	<p>日本一のユズ産地である高知県東部地域にあって、ユズの振興を通じて中山間地域の農業振興を図っていく。</p>	<p>・市町村 ・JA土佐あき ・JA馬路村 ・県(安芸農業振興センター)</p>	<p>◆新植、改植の推進</p> <p>◆将来に渡ってユズ園を管理する仕組みづくり</p> <p>◆鳥獣害対策への支援</p> <p>◆生産履歴記帳の推進や搾汁施設の改良</p> <p>◆「北川村ゆず振興ビジョン」の具体化に向けた推進体制の整備</p> <p>◆ゆず茶製造ラインの整備(JA馬路村)</p> <p>◆ゆず酢の販売強化とゆず皮活用策の検討(JA土佐あき)</p>
<p>3 環境保全型農業の推進</p> <p>《室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村》</p>	<p>環境負荷の低減を図るとともに、消費者の安全・安心志向に対応するため、環境保全型農業の先進地として、更なる推進に努める。</p>	<p>・JA土佐あき ・環境保全型農業実践農家グループ ・県(安芸農業振興センター)</p>	<p>◆環境保全型農業推進のためのビジョン作成及び共有</p> <p>◆安全・安心の取組推進</p> <p>◆IPM技術の確立及び普及</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>土佐あき地域園芸戦略推進会議における管内産地の課題解決部会及び研究会など生産組織の活動目標や課題の明確化</p> <p>実行チームの設置</p>	<p>実行チームを中心とした取組</p>			<p>実行チームを中心とした自主的活動</p>	<p>系統出荷率 (H19 52%) エコシステム栽培農家数 (H19 429戸) 土佐鷹の作付面積 (H19 11ha)</p>	<p>62% 600戸 80ha</p>	A
	<p>新植、改植の推進 優良母樹の選定と確保に向けた仕組みづくり、新植及び改植の推進</p>			<p>改植の推進</p>	<p>集落営農組織及び農作業受委託組織の育成 (H19 -)</p>	<p>3組織</p>	A
<p>将来に渡ってユズ園を管理する仕組みづくり 経営の見直し支援、農作業受委託の仕組みづくり</p>				<p>集落営農組織及び農作業受委託組織の育成</p>	<p>生産履歴記帳率 (H20 90.9%)</p>	<p>100%</p>	
	<p>鳥獣害対策への支援 シカ防除柵とシカ肉処理加工施設(北川村)の設置</p>			<p>シカ防除柵の設置</p>			
	<p>生産履歴記帳の推進や搾汁施設の改良 搾汁施設の改良(北川村)</p>			<p>生産履歴記帳の推進</p>			
					<p>「北川村ゆず振興ビジョン」の具体化に向けた推進体制の整備 具現化に向けた地域住民の合意形成と実践活動</p>		
					<p>ゆず茶製造ラインの整備 (JA馬路村) ゆず皮供給体制の整備 (JA馬路村) ゆず酢の販売強化とゆず皮活用策の検討 (JA土佐あき)</p>		
<p>環境保全型農業推進のためのビジョン作成及び共有 土佐あき地域園芸戦略推進会議を中心とした環境保全型農業の推進のためのビジョンの作成及び共有</p>					<p>天敵導入農家割合 (H19ナス 21.0%) (H19ピーマン 63.5%) H21ピーマン100%達成</p>	<p>ナス 70%</p>	
<p>安全・安心の取組推進</p>					<p>エコシステム栽培農家数 (H19 537戸) ※ナス・ピーマン等</p>	<p>690戸</p>	A
<p>天敵導入農家数の増加、エコシステム栽培の推進、こうち環境・安全・安心点検シートの実施</p>							
<p>IPM技術の確立及び普及 土着天敵を用いたIPM技術による防除対策の確立(実証圃)</p>	<p>土着天敵を用いたIPM技術による防除対策の確立と普及(実証圃、現地検討会)</p>			<p>土着天敵を用いたIPM技術による防除対策の普及(現地検討会)</p>	<p>こうち環境・安全・安心点検シート実施率 (H19 3%)</p>	<p>100%</p>	

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
4 西山きんとき芋販売促進事業 《室戸市》	販売促進活動や加工への挑戦、地域団体商標“西山きんとき”の取得等を通じて、知名度の向上を図り、農家所得を向上させる。	・JA土佐あき(吉良川支所芋部会)	◆認証・認定取得 ◆加工品開発 ◆販売促進
5 土佐ジローの生産拡大と地域の活性化 《安芸市》	現状の生産規模では大手卸業者等からの注文に対応できていないため、肉、卵ともに、生産量の倍増を目指す。あわせて、新たな加工商品の開発も検討していく。	・(有)はたやま夢楽	◆施設整備等(肉用、採卵用鶏舎等) ◆加工品への取組
6 特産品「イチジク」による地域の活性化 《奈半利町》	かつては転作作物としてイチジク栽培に取り組んできたが、高齢化が進む中、生産量も大きく減少している。「奈半利町＝イチジク」のイメージを定着させ、地域活性化に結びつける。	・JA土佐あき(奈半利支所) ・奈半利町	◆イチジクの町「なはり」の定着 ◆加工品の開発 ◆地元での利用促進
7 林業再生事業 《安芸地域全域》	地域に豊富にある森林資源を活かし、地域の林業再生を図る。	・各森林組合	◆効率的な施業の実施 ◆新規就業者の確保・育成 ◆全木集材システムの構築

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>認証・認定取得</p> <p>生産農家のエコファーマー認定、地域ブランド商標登録</p>	<p>加工品開発</p> <p>道の駅「キラメッセ室戸」と芋ケンピ等の加工品共同開発</p>				<p>エコファーマー認定農家数 (H19 0戸)</p> <p>加工品アイテム数 (H20 -)</p> <p>出荷量 (H18・19年産平均 241t)</p>	<p>25戸</p> <p>3品目</p> <p>290t</p>	A
<p>販売促進</p> <p>チラシ作成、試食宣伝</p>	<p>試食宣伝等PR活動、インターネット販売</p>						
			<p>施設整備等</p> <p>肉用鶏舎・育雛鶏舎等の増築、作業・資材庫、飼料攪拌機の整備等</p>	<p>採卵鶏舎・育雛舎の増築、加工向け保管施設・堆肥舎の整備等</p> <p>加工品への取組</p> <p>加工品への取組(燻製) 新たな加工商品の開発</p>	<p>肉出荷羽数 (H19 12,290羽)</p> <p>卵出荷個数 (H19 11万個)</p> <p>加工品(燻製)生産数量 (H19 140羽)</p>		A
<p>イチジクの町「なはり」の定着</p>	<p>苗木の配布</p> <p>加工品の開発</p> <p>加工品の開発</p>				<p>系統出荷量 (H20 2トン)</p> <p>加工品 (H20 2アイテム)</p>	<p>6トン</p> <p>3アイテム</p>	B
		<p>地元での利用促進</p> <p>物産館等での販売、町内レストラン・ホテルでの食材活用</p>					
	<p>効率的な施業の実施</p> <p>新規就業者の確保・育成</p> <p>全木集材システムの構築</p> <p>森の工場の推進、高性能林業機械の導入、作業道の開設等基盤整備、低コスト生産技術の構築、施業プランナーの育成と提案型施業の確立、緑の雇用事業の活用、就労環境の改善、列状間伐・小面積皆伐</p>				<p>林業素材生産量 (H18 92,000㎡)</p> <p>間伐面積 (H19 1,590ha)</p>	<p>103,000㎡</p> <p>2,000ha</p>	A

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>8 土佐備長炭生産・出荷・販売体制の強化事業 《室戸市、東洋町》</p>	<p>紀州産に比べ知名度の低い土佐備長炭の価格交渉力の向上や販売の促進を図る。</p>	<p>・高知県特用林産協会 ・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭生産組合</p>	<p>◆土佐備長炭のPR活動 ◆共同出荷、原木共同購入の検討 ◆生産環境の整備 ◆生産施設等の整備</p>
<p>9 木質バイオマス活用事業 《安芸市、芸西村》</p>	<p>林地残材、製材過程で排出された樹皮、端材等を熱エネルギーとして利用していく。</p>	<p>・芸西村 ・安芸市 ・森林組合 ・高知バイオマスファーム ・㈲安岡重機</p>	<p>◆林地残材の搬出システムの構築 ◆木質ペレットボイラーの導入 ◆木質ペレット工場の建設及び製造</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
	<p>土佐備長炭のPR活動</p> <p>使用店への看板の設置、大都市圏への売込み</p> <p>・パンフレット作成 ・ポスター作製 ・看板作製</p>				<p>上土佐備長炭の生産量 (H18 309t)</p>	<p>800t</p>	<p>A</p>
	<p>共同出荷、原木共同購入の検討</p> <p>2市町の生産者での共同体制の検討</p>						
	<p>生産環境の整備</p> <p>原木生産のための作業道の開設</p>						
	<p>生産施設等の整備</p> <p>炭窯の新設 4基</p>	<p>炭窯の新設 2基 製品保管倉庫 1棟</p>	<p>炭窯の新設 4基</p>				
	<p>林地残材の搬出システムの構築</p> <p>林地残材の搬出システムの構築、木質バイオマスの需要の把握</p>				<p>未利用森林資源の活用 (H19 0m³)</p>	<p>5000m³</p>	<p>B</p>
	<p>木質ペレットボイラーの導入(芸西村・安芸市)</p> <p>高知バイオマスファーム(H21=25台、H22=22台)</p>	<p>安芸市(9台)</p>					
	<p>木質ペレット工場の建設(安芸市)</p> <p>安岡重機 (生産量 1,000t/年)</p>						
				<p>木質ペレット製造(生産量 1,000t/年)</p>			

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>10 林業加工品の販売促進 《馬路村》</p>	<p>林業加工品の販売を促進し、事業体の経営安定を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エコアス馬路村 ・馬路村森林組合 ・馬路林材加工協同組合 	<ul style="list-style-type: none"> ◆光回線の導入による作業の効率化 ◆新商品の開発 ◆小売店顧客の拡大
<p>11 キンメダイのブランド化に向けた取組 《室戸市、奈半利町》</p>	<p>将来的に地域ブランドとして確立することを見据え、消費拡大と販売を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芸東水産業改良普及協議会 	<ul style="list-style-type: none"> ◆推進体制の確立 ◆県内市場の拡大 ◆県外市場の開拓 ◆地域ブランドの確立

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>光回線の導入による作業の効率化</p> <p>メールでのデータ送受信、インターネットでの情報取得のスピード化</p>	<p>新商品の開発</p> <p>定期的な新商品の開発</p>				木材木製品の出荷額 (H19 236百万円)	264百万円	A
<p>小売店顧客の拡大</p> <p>国際見本市への出展</p>	<p>販路の開拓 (PR活動等)</p> <p>工芸品の新商品の開発 (骨壺、ベッド)</p> <p>PR用パンフレット作成</p> <p>・PR、営業活動 ・インターネットでの情報発信 ・アンテナショップ、展示会への出展</p>						
<p>推進体制の確立</p> <p>取組主体・協力体制の確立</p>	<p>県内市場の拡大</p> <p>県内市場の情報収集と実態把握</p>	<p>室戸産キンメダイのPRとキンメダイの消費拡大</p>					B
	<p>県外市場の開拓</p> <p>県外市場の情報収集と実態把握</p>	<p>室戸産キンメダイのPRとキンメダイの消費拡大</p>					
	<p>地域ブランドの確立</p> <p>他県の取組の情報収集と実態把握</p>	<p>ブランドの「売り」の明確化、定義付けと規格化</p>	<p>商標登録</p>	<p>鮮度・品質の向上、特選品の検討</p>			
	<p>キンメダイ脂肪含有量の測定</p>	<p>調理師会などと連携したキンメダイ名物料理・加工品の検討</p>					

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>12 スジアオノリのブランド化の取組 《室戸市》</p>	<p>軌道に乗りつつあるスジアオノリの販路拡大、商品開発に取り組む。</p>	<p>・高知県漁協(高岡支所) ・スジアオノリ養殖支援チーム</p>	<p>◆アオノリ小袋販売の本格化に伴う販路開拓 ◆アオノリ粉を利用した商品開発 ◆知名度アップのためのPR活動</p>
<p>13 低価格な定置網漁獲物の販売戦略 《室戸市》</p>	<p>定置網の漁獲主体である低価格魚の利用用途の拡大により、魚価の向上を図る。</p>	<p>・陶タカシン水産 ・高知県漁業</p>	<p>◆検討組織の立上げ ◆水揚げ状況調査の実施 ◆高知県漁業と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討、加工品製造販売、販路開拓 ◆アドバイザーの招聘による商品開発と販売戦略の検討 ◆加工施設の整備</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>アオノリ小袋販売の本格化に伴う販路開拓</p> <p>県内の販路拡大</p> <p>県外の販路開拓</p> <p>県アンテナショップへの出品</p> <p>アオノリ粉を利用した商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品会社・加工業者などとのタイアップによる商品開発 ・地元女性グループに加工を委託するなどの方法による独自の商品開発 <p>地元調理師会などと連携したアオノリ名物料理・加工品の検討</p> <p>知名度アップのためのPR活動</p> <p>HPの作成</p> <p>販促グッズの作成</p> <p>観光産業との連携</p>					スジアオノリ販売額 (H19 5百万円)	22百万円	A
<p>検討組織の立上げ</p> <p>加工業者、漁協、行政で構成する「芸東水産物加工・販売検討会」の開催</p> <p>水揚げ状況調査の実施</p> <p>多獲性低価格魚の水揚げ状況調査の実施</p> <p>商品開発、販売戦略の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「芸東水産物加工・販売検討会」による事業内容の検討 ・高知県漁業と加工業者が連携した水産加工品の商品開発、販売戦略の検討、加工品製造販売、販路開拓 ・アドバイザーの招聘による商品開発と販売戦略の検討 <p>加工施設の整備</p>							B

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>14 新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上 《安芸市》</p>	<p>シラス漁の盛んな地域であるが近年水揚げが減少してきているため、複合的漁業操業なども含めたシラス漁家の漁業所得の向上を図る。</p>	<p>・漁業生産事業体(青年漁業者研究グループ、安芸地区女性起業家グループほか) ・安芸地区活性化協議会(仮称) ・漁協 ・水産加工業者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆冷凍ドロマ加工などの付加価値向上の取組の展開 ◆技術指導 ◆試験操業、漁業資源としての見直し ◆高収益流通販売の先進地視察 ◆漁場特性や操業技術の習熟 ◆高収益流通販売への実証事業 ◆シラス魚価向上に向けた検討・活動の総合的な組織と仕組みづくり ◆シラス魚価の向上のための生産性の向上 ◆シラス鮮度保持 ◆安心・安全なシラス加工品の販売 ◆シラス加工品の処理能力アップ ◆アカムツ深海縄漁業の確立と適切な流通販売の確立
<p>15 「加領郷」ブランドによる地域の活性化 《奈半利町》</p>	<p>地元の誰もが知っているが域外ではあまり知れ渡っていない地域の宝物を、そのまましくは手を加えることで、加領郷の特産品として売り出していく。</p>	<p>・高知県漁協(加領郷支所) ・奈半利町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆検討組織の立上げ ◆加領郷ブランドの確立 ◆直販所機能の拡充

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>時的に早いシラス漁期における冷凍ドロマ加工などの付加価値向上の取組の展開</p> <p>シラス加工に関する情報収集・視察研修</p> <p>冷凍ドロマ等加工販売実証事業</p> <p>シラス魚価向上に向けた検討・活動の総合的な組織と仕組みづくり</p> <p>女性起業化グループ「安芸おじゃ娘」の加工販売実証</p> <p>シラス鮮度保持に向けた検討</p> <p>シラス処理能力のアップに向けた検討</p> <p>安心・安全なシラス加工品の販売</p> <p>技術指導 試験操業、漁業資源としての見通し 高収益流通販売の先進地視察 漁場特性や操業技術の習熟 高収益流通販売への実証事業</p> <p>アカムツ深海縄漁業の確立と適切な流通販売の確立</p> <p>深海縄操業形態の確立及びその他の新たな漁業の導入、流通販売事業体の確立整備、シラス機船船曳網漁業を柱とした複合漁業操業形態の確立と漁業収益の増大・安定化、その他の漁業(籠漁業)への取組</p> <p>アドバイザー派遣による青年漁業者グループの深海縄習熟促進</p> <p>漁業者・同団体・企業との連携の模索と実施</p>							B
<p>検討組織の立上げ</p> <p>関係者による打合せ</p> <p>「加領郷活性化検討会」の設立</p> <p>加領郷ブランドの確立</p> <p>加領郷ブランドの選定と定義付け</p> <p>特産品の開発、加領郷ブランドの選定</p> <p>販促グッズの作成</p> <p>販促グッズの作成</p> <p>加領郷ブランドのPR</p> <p>直販所機能の拡充</p> <p>漁民センターの加工・調理機能の充実</p> <p>新直販所実現に向けた調査・検討</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
16 河川の周年利用による地域経済の活性化 《奈半利町、北川村》	アユ漁の終了後、何も行われていない中下流域の漁場にアマゴを放流し、アユ漁が解禁となるまで「アマゴの冬季釣り場」として有効活用を図ることによって、地域の賑わいを創出する。	・奈半利川淡水漁協 ・県(漁業振興課)	◆内水面漁業調整規則の改正に必要な調査の実施 ◆水産庁との協議による内水面漁業調整規則の変更
17 海洋深層水の利用拡大 《室戸市》	室戸海洋深層水のブランド化を推進し、他地域との差別化や市場の信頼性を高めるため、供給地域の拡大の検討、機能性解明等のための共同研究等を行う。	・室戸市 ・県(工業振興課、海洋深層水研究所)	◆販路、供給地域の拡大 ◆企業、研究機関等との連携等
18 海の駅「東洋町」の活性化 《東洋町》	現在、仮設店舗で試験営業を行っている海の駅「東洋町」の施設整備を行い、地場産品の販売や軽食の提供、観光案内等を行う交流拠点施設としていく。	・東洋町 ・㈱東洋リ・ポルト	◆施設の整備等 ◆地域の情報発信
19 中芸地域食資源を活用した新商品開発及び地域ブランド化 《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》	地域特産品(酒粕等)の商品化と製造工程の確立及び販売体制の確立 ・試作商品の製品化への取り組み(ネーミング・パッケージ・販売価格等) ・販売場所及び体制の確立	・民間企業	◆製造業者の確定と管理体制の強化 ◆試作商品の製品化への取り組み(ネーミング・パッケージ・販売価格等) ◆販売場所及び体制の確立

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
	<p>規則の改正に必要な調査の実施</p> <p>当該水域においてアマゴが産卵していないことの確認、標識放流による成長と釣果の確認</p>						B
		<p>水産庁との協議による規則の変更</p> <p>協議及び規則変更</p>		<p>事業化</p>			
<p>これからの取組に向けた関係者での協議</p>	<p>高度清浄化に向けた検討</p>				<p>深層水関連商品売上額 (H19 148億円)</p>	<p>155億円</p>	B
<p>これからの取組に向けた関係者での協議</p>	<p>供給域拡大のための意思統一、深層水商品の販路拡大</p>	<p>供給域拡大のための制度の変更、深層水商品の販路拡大</p>		<p>深層水商品の販路拡大</p>			
<p>これからの取組に向けた関係者での協議</p>	<p>企業・研究機関等との共同研究の検討・実施、企業誘致の推進</p>	<p>企業・研究機関等との共同研究の実施、企業誘致の推進</p>					
<p>施設の整備等</p> <p>仮設店舗での試験営業、本格的な施設整備</p>	<p>軽食部門の開設、地場産品を活用した食品加工</p>						
							B
					<p>地域の情報発信</p> <p>インターネットなどを活用した地域の情報発信</p>		
	<p>地域資源の発掘</p>	<p>実施体制の整備</p> <p>試作商品の製品化</p> <p>販路の確保</p>		<p>量的販売体制の確立</p>			C

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>20 道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信) 《田野町》</p>	<p>他の直販所との差別化を図るために特産品、加工品の開発や近隣観光への波及を図る地域情報発信機能の強化を図り、道の駅「田野駅屋」の機能強化を図る。</p>	<p>・田野町 ・田野駅屋</p>	<p>◆地場産品加工施設を活用した特産品の開発、販売 ◆情報発信機能の強化 ◆人材育成</p>
<p>21 地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化 《芸西村》</p>	<p>地場産品直販所「かっぱ市」の花弁コーナーにおいて、その種類と出品量の増加により独自性を出し、地域経済の活性化を図る。 村内で生産される農産物等(ピーマン・黒砂糖等)を使用した新たな商品を企画開発し、村内産品の付加価値を高める。</p>	<p>・芸西村 ・芸西商工会 ・(有)かっぱ市</p>	<p>◆「かっぱ市」の花弁コーナーの拡充 ◆新たな商品の企画開発</p>
<p>22 体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備 《安芸地域全域》</p>	<p>旅行形態が団体旅行から個人グループ旅行に変化し、旅行者のニーズが多様化する中で、「そこにしかない魅力」を地域から提案していくため、テーマとターゲットに合わせた体験型観光の旅行商品化と効果的な販売及び受入体制の確立を行っていく。</p>	<p>・安芸広域市町村圏事務組合 ・民間団体</p>	<p>◆テーマ別(自然・体験・歴史・文化・遍路等)、ターゲット別(年代・グループ・規模等)の旅行商品化 ◆観光情報、広報ツールの充実 ◆ランドオペレーター機能の体制整備 ◆観光圏への取組</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>地場産品加工施設を活用した特産品の開発、販売</p> <p>加工関連団体の意識高揚に向けた取組、アンケート等によるニーズの把握、加工施設の指定管理に向けた検討</p> <p>特産品開発に向けた勉強会と商品試作(アドバイザーの活用)、関係法令の勉強会</p> <p>試作商品の販売</p> <p>商品(加工品、特産品等)の本格的な販売</p> <p>情報発信機能の強化</p> <p>情報コーナー拡張(施設整備)</p> <p>観光・宿泊施設との連携による情報の共有化、ガイドマップやHPでの情報発信による観光施設への誘導</p> <p>人材育成</p> <p>加工施設指定管理者の決定と人材育成(スキルアップ研修、先進地視察研修等)</p>							A
<p>花卉コーナーの拡充</p> <p>花卉コーナー、ストックヤードの拡充検討</p> <p>事業着手・完成</p> <p>安定供給の仕組みづくり</p> <p>村内農産物等を使った新商品の開発</p>							A
<p>テーマ別、ターゲット別の旅行商品化</p> <p>整備手法の検討</p> <p>観光コンベンション協会の協力を得て旅行商品化</p> <p>観光コンベンション協会、県外事務所等と連携した営業活動</p> <p>観光情報、広報ツールの充実</p> <p>整備手法の検討</p> <p>観光情報の一元的受発信のシステム化と広報ツールの充実</p> <p>ランドオペレーター機能の体制整備</p> <p>整備手法の検討</p> <p>先行他地域の情報収集と交流研修、地域コーディネーター候補者のリストアップとネットワーク化</p> <p>ランドオペレーター人材の雇用+研修育成</p> <p>観光圏への取組</p> <p>観光圏の検討・体制整備</p>					ランドオペレーター機能の確立	専任職員の確保と人材育成	A

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>23 地質資源を活かした交流人口の増加(世界ジオパーク認証に向けた取組)</p> <p>《室戸市》</p>	<p>室戸岬周辺の、地球のプレート運動により形成された世界的にも珍しい地質が間近に見られる恵まれた環境を活かし、ユネスコの推奨する世界ジオパークの認証に向けて取り組み、交流人口の拡大を図っていく。</p>	<p>・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市 ・室戸市観光協会</p>	<p>◆受入体制の整備(ソフト)</p> <p>◆受入体制の整備(ハード)</p>
<p>24 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大</p> <p>《室戸市》</p>	<p>岬の両側の海域にスポットがあり、また関西圏からのアクセスも4～5時間という恵まれた環境を活かし、ダイビング客の受け皿づくりに取り組み、交流人口の拡大を図る。</p>	<p>・高知県漁協(調整中) ・NPO室戸ドルフィンプロジェクト</p>	<p>◆漁業者の理解を得る取組</p> <p>◆関係機関との調整</p> <p>◆漁協が主体となったダイビング事業運営</p> <p>◆PR活動</p> <p>◆ドルフィンセンターの機能充実</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>受入体制の整備(ソフト)</p> <p>推進体制づくり、市民への勉強会実施、調査事業</p>	<p>地域の盛り上がり、運営体制の強化、国内外へのPR強化</p> <p>ガイド用教材作成、ガイド育成、ジオパークを活用したイベントの開催</p> <p>ガイドブック・HP・DVDの作成・広報用ディスプレイ設置</p> <p>案内システムの構築及び端末整備</p>	<p>ガイドブック・HP・DVDを活かした情報発信</p>	<p>案内看板設置、遊歩道の整備及び補修</p> <p>ミュージアムの整備展示内容の充実</p>	<p>受入体制の整備(ハード)</p>	<p>世界ジオパーク認証</p> <p>ジオパーク交流人口(H19 ー)</p>	<p>ー</p> <p>10,000人</p>	<p>A</p>
<p>漁業者の理解を得る取組関係機関との調整</p> <p>ダイビングマップ作成、事業モデル検討</p>	<p>漁協が主体となったダイビング事業運営PR活動</p> <p>漁業者及び事業関係者の理解を得る取組、事業モデル検討及びルールづくり</p> <p>ドルフィンセンターの機能充実</p> <p>室戸ドルフィンセンターの機能強化、広報</p>	<p>ダイビングセンター整備、タラップ等整備、情報発信</p> <p>トイレ及び更衣室整備、ビーチエントリースポットへの手すり設置</p>	<p>管理棟、調餌棟、シャワー棟、パンフレット作成、広告等</p>	<p>ダイビング入込み客数(H20 2,000人)</p> <p>室戸ドルフィンセンター来場者数(H19 25,000人)</p>	<p>5,000人</p> <p>30,000人</p>	<p>A</p>	

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
25 「シレストむろと」を核とした健康観光産業 《室戸市》	室戸にある海洋深層水や食などの“もの”をつなぎ合わせて、シレストむろとを核として人が心身ともに健康を取り戻すことができる仕組みと体制を構築し、健康観光産業づくりにつなげていく。	・次世代の湯治場検討協議会	◆海洋深層水健康増進プログラムの策定 ◆室戸での滞在を楽しむ体験メニューと体制の構築 ◆PR、情報発信手法の構築 ◆旅行商品化
26 『龍馬伝』から『志国高知 龍馬ふるさと博』への観光推進 《安芸市》	これまでの観光施設に加え、大河ドラマ「龍馬伝」で改めて、観光地として認知された岩崎弥太郎を売り出し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図っていく。	・安芸市 ・生産団体 ・加工業者 ・作陶家 ・安芸市観光協会 ・安芸市ボランティアガイド ・安芸「釜あげちりめん」楽会 ・「はばたけ弥太郎・龍馬伝」安芸市推進委員会	◆地域資源（一次産品、酒、陶芸等）を活用した特産品等の開発 ◆周遊ルートの確立 ◆観光協会の事務局体制の強化 ◆安芸観光情報センターの設置（安芸市の観光情報及び安芸市町村圏のエントランス機能及びコンシェルジュ機能の発揮） 岩崎家と三菱グループの関係の展示コーナーの設置 ◆地域食材（ナス、土佐ジロー等）の売り出し 安芸ナスや土佐ジロー等を利用したB級グルメの開発・売り出し ◆高知県及び安芸広域市町村圏事務組合と連携した県外旅行エージェントへのPR活動 ◆体験型観光素材の発掘、充実及び連携予約の一元化やコーディネート体制の整備 ◆小中学生の修学旅行の受入れ体制の整備

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>海洋深層水健康増進プログラムの策定</p> <p>健康増進プログラムづくり</p> <p>全国大手企業に対するプログラムのPR、四季のヘルシーメニュー開発及びヘルシーメニュー支援ソフトの製作、健康イベントの開催</p>					<p>次世代の湯治場体験者数 (H20 420泊)</p>		A
<p>室戸での滞在を楽しむ体験メニューと体制の構築</p> <p>地元の受入体制の整備、モニターによる効果検証</p> <p>旅行代理店との提携、時期限定健康増進ツアーの実施、長期滞在モニターによる検証、レンタサイクルの検討、営業人員の配置</p> <p>窓口体制の整備</p> <p>インストラクター配置</p>							
<p>PR、情報発信手法の構築</p> <p>HP・冊子の作成</p> <p>各種マスメディアを通じての情報発信</p>							
<p>地域資源を活用した特産品等の開発 周遊ルートの確立</p> <p>「はばたけ弥太郎・龍馬伝」推進委員会を設立し今後の対応策を検討</p> <p>商品試作、販路開拓、施設(サイン等)の整備</p> <p>商品化、販売</p> <p>ドラマ放送期間(H22.1月~12月)</p> <p>観光協会の事務局体制の強化</p> <p>事務局長の設置</p> <p>事務局体制の強化により、観光振興の推進</p> <p>県東部地域の広域観光案内の拠点施設として整備ボランティアガイドの事務所併設</p> <p>釜あげちりめん井のフラッシュアップ 地場産品(ナス、土佐ジロー)を活用した食の開発</p> <p>県外旅行エージェント等へのPR</p> <p>既存体験観光素材のリストアップ、新規観光素材の発掘</p> <p>体験観光受入れのための基礎知識研修、指導レベル向上のための研修、モニターツアーの受入れ</p> <p>民泊受入れ農家等の募集、組織化、受入れのための研修</p> <p>体験観光メニューの充実と合わせた受入れ体制の確立、宿泊モニターとしての県内学生の受入れ</p>							A

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
27 スポーツキャンプのまちづくり 《安芸市》	タイガースキャンプの存続のみならず、社会人や大学などのノンプロ野球部のキャンプ誘致、特に龍馬伝を機に、三菱グループへの働き掛けなど、スポーツキャンプのまちづくりを推進する。	・安芸市	◆施設(球場等)の改修 ◆社会人や大学等に対するプロモーション活動
28 ダイビングの受け皿づくりによる交流人口の拡大 《東洋町》	岬の両側の海域にスポットがあり、また関西圏からのアクセスも4～5時間という恵まれた環境を活かし、ダイビング客の受け皿づくりに取り組み、交流人口の拡大を図る。	・未定(漁協を想定)	◆漁業者の理解を得る取組 ◆関係機関との調整 ◆PR活動等
29 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大 《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》	森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会	◆重要文化財登録へ向けた活動 ◆遺産を活用した地域振興への取組
30 「ふるさと海岸」を中心とする海洋資源を活用した観光事業 《奈半利町》	サンゴウォッチングやこれまでインストラクター養成等に取り組んできた海洋レクを充実することにより交流人口の増加を図る。	・奈半利町漁協 ・なはり観光文化協会 ・奈半利町	◆検討組織の立上げ ◆体験観光型拠点施設等の整備 ◆東部全体の旅行商品化の動きとの連携 ◆PR活動

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
	<p>施設(球場等)の改修</p> <p>ドーム屋根全体改修、メイングラウンド観客席改修、サブグラウンドへの本部席・ベンチ新設、ラパーフェンス改修</p>	<p>レフト側観客席増設、防球ネット設置他</p>	<p>観客席の増設</p>				B
	<p>社会人や大学等に対するプロモーション活動</p>						
		<p>基本計画</p>	<p>計画的改修</p>				
		<p>社会人や大学等に対するプロモーション活動</p>					
	<p>漁業者の理解を得る取組 関係機関との調整</p> <p>漁業者への説明、講習会・先進事例紹介、関係者によるダイビングルールづくり</p>	<p>PR活動等</p>					C
		<p>PR活動、施設整備</p>					
<p>重要文化財登録へ向けた活動</p> <p>資料の収集、地域住民への理解の促進、シンポジウム等の開催</p>							A
		<p>遺産を活用した地域振興への取組</p>					
	<p>遺産を活用した交流事業の計画づくり、地域マネジメント組織づくり、観光事業者等とのネットワークづくり</p>	<p>事務局体制の自立、サポーター組織の確立、散策ガイドの養成、モニターツアー等の実施、シンポジウム等の開催</p>	<p>開通100周年イベントの開催、地域ガイドの育成、ビジターセンター等の設置</p>	<p>森林鉄道遺産散策エコツアーの企画・試行、自立的事業展開戦略の確立</p>			
<p>町内観光コースの検討(模擬ツアーの実施)</p>	<p>検討組織の立上げ</p> <p>住民主体による検討会の設置、町内における「総合的な体験プログラム」の検討・構築</p> <p>体験観光型拠点施設等の整備</p> <p>シュノーケリング等の拠点施設整備</p>						B
		<p>東部全体の旅行商品化の動きとの連携</p> <p>他の体験メニュー等と組み合わせたプログラムの開発</p>					
		<p>PR活動</p> <p>県内外の観光関係者へのPR</p>					

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
31 体験型観光への取組 ～大野台地は、えいとこ ろ！～ 《田野町》	高齢化による地域衰退、耕作放棄地の増加に対応するため、教育ファームや食育の視点を取り入れた体験メニューの実施により、交流人口の拡大を図り、将来のオーナー制の観光農園化も視野に入れた取組を行う。	・大野倶楽部	◆大野台地の魅力再発見と体験メニュープログラムづくり ◆情報発信の強化
32 古民家と地場産品販売施設等を活かした交流人口の拡大 《安田町》	各施設の連携による面的効果の発揮で、町内の他の観光・文化的資産への波及を目指す。	・安田町 ・地域団体等	◆地域コミュニティや交流人口拡大のための拠点整備及び活用 ◆ボランティアガイドの育成 ◆地場産品販売施設等との連携の仕組みづくり ◆地域の魅力を活かした特産品の開発と販売
33 龍馬伝を活かした観光振興 《北川村》	中岡慎太郎館での企画展の開催を軸に、村内や関係市町村での関連イベントを行い、観光振興につなげていく。	・北川村 ・龍馬伝・慎太郎推進協議会	◆中岡慎太郎館での企画展の開催等 ◆物産販売（おもてなし） ◆散策ルートの設定 ◆中岡慎太郎館のリニューアル
34 世界に2つの「モノの庭」 誘客強化事業 《北川村》	「北川村『モノの庭』マルモッタン」は世界で唯一、クロード・モネ財団、アカデミー・デ・ボザールから公認されている庭園として、開園10年間で入園者数が100万人を超える東部地域有数の観光施設となっている。 しかし、開園1年間で20万人を超える予想以上の集客でスタートしたが、入園者は年々減少してきており、H16年度は7万9千人、「光の庭」を開園したH20年度も7万2千人、H22年度は5万2千人程度と予想されている。 ゆえに、早期に集客力を回復させることが当面の最重要課題である。 そこで、主に県外での周知活動や、来園への新たな動機付けにつながる施設整備やイベントの実施によって集客力を高める。	・北川村 ・(株)きたがわジャルダン	◆多目的ホールの整備 ◆県外でのテレビ放送による周知活動 ◆イベントの開催

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値 (H23)	
<p>大野台地の魅力再発見と体験メニュープログラムづくり</p> <p>食品衛生関係法令勉強会、食品営業許可取得、保険加入</p> <p>アドバイザー等の活用によるメニューづくり、安芸広域での旅行商品メニューづくりとの連携</p> <p>体験メニューの試行</p> <p>体験メニューの本格実施</p> <p>情報発信の強化</p> <p>体験内容教材の作成(パネル・ビデオ・冊子)、HP・チラシ等による情報発信</p> <p>解説・誘導案内看板等の設置</p> <p>体験内容等のHP・チラシ等による情報発信</p>							A
<p>地域コミュニティや交流人口拡大のための拠点整備及び活用</p> <p>旧柏原邸の歴史的調査及び修復実施設計、旧柏原邸の活用策の検討、お遍路さん休憩所の試行</p> <p>旧柏原邸の修復</p> <p>旧柏原邸の活用(町並みガイド、お遍路さん休憩所等)</p> <p>ボランティアガイドの育成</p> <p>町並みガイド育成</p> <p>町並みガイド育成、体制づくり</p> <p>地場産品販売施設等との連携の仕組みづくり</p> <p>地場産品販売施設の整備</p> <p>地場産品販売施設等との連携の仕組みづくり</p> <p>地域コーディネーターの育成</p> <p>地域の魅力を活かした特産品の開発と販売</p> <p>特産品の開発、人材育成</p> <p>特産品の開発及び販売</p> <p>完全天日塩施設の整備、運営の検討</p>							B
<p>中岡慎太郎館での企画展の開催等 物産販売(おもてなし)散策ルートの設定</p> <p>推進のための体制づくり、観光業者への売込み</p> <p>企画展の開催、北川村ゆずサンサングループと連携したおもてなし活動(田舎寿司などの郷土料理)、中岡慎太郎館周辺での散策コースの設定</p> <p>中岡慎太郎館のリニューアル</p> <p>ドラマ放送期間(H22.1月～12月)</p>							A
<p>多目的ホールの整備</p> <p>レストランオープンデッキへのルーフ設置 小庭園の整備</p> <p>県外でのテレビ放送</p> <p>イベントの開催</p> <p>マスコミ等を使った周知活動</p>							A

Ⅱ 各地域の展望と具体的な取組

2 物部川地域

2 物部川地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

物部川の流域に位置する当地域は、上流域は豊かな森林資源を活かした林業やユズ栽培、肥沃な下流域は県内でも有数の園芸地帯として栄えてきました。

その下流域に位置する旧野市町（香南市）など、高知市近郊に位置し開発が進む地域では、2030年の推計人口でも減少率は比較的緩やかですが、上流域の旧物部村地域（香美市）では、人口が半数近くまで減少することが予想されています。

農業では、水稻、ニラ、ネギ、シシトウ、ショウガ、ユズ、ミカンなどさまざまな作物が栽培されており、なかでもニラ、シシトウ、ショウガ、ユズは全国規模の産地として知られています。しかしながら、価格の低迷や後継者不足に加え、最近の経済情勢による生産コストの急激な上昇により、農業所得のさらなる低下や離農などが危惧されています。

他県より10年ほど植栽時期が早い本県の中でも、物部川の上流域は特に早くから造林が進み、成熟期を迎えた森林が多く存在します。木材は国際的な需給の状況や、地球温暖化の防止などに対する森林への関心の高さから国産材が見直されてきており、时期的優位性を最大限に活かしてこれらを有利に販売していくためには、今以上の素材生産を行う必要があります、このための仕組みづくりが急がれます。

漁獲の減少に加え、魚価の低迷や急激な燃料の高騰により大変厳しい状況に置かれている水産業では、現状を打開するために、産地市場での魚価向上対策や、鮮魚出荷中心であったためにこれまであまり重点的に取り組んでこなかった加工分野などへの、新たな展開が求められます。

工業では、空港や高速道路といった交通インフラが最も整備されている地域に工業団地が整備されるなど産業基盤が充実しており、ものづくり製造業や半導体等の先端産業、情報産業の工業集積が県内でも非常に高く、3市の製造品出荷額等は県全体の4割を占めるなど、本県の工業をリードする重要な地域となっています。

一方で、土佐打刃物やフラフ製造といった本県を代表する伝統産業も地域に息づいていますが、社会情勢の変化に伴う需要の減少や、後継者の不足といった課題を抱えています。

また、小規模事業者が多い商業では、隣接する高知市の大型量販店などに消費者が流出し、商店街は空き店舗が目につくようになってきています。

観光分野においては、山・川・海といった自然や、歴史・文化・スポーツなどの観光資源に恵まれているものの、これらを有機的に結び付け「物語」としてのメッセージを観光客に十分伝えきれていない状況です。このため、地域内にある空港や高速道路インターチェンジを利用して訪れる観光客に、地域の魅力を効果的に伝えていくための仕組みや組織が必要とされています。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

当地域を構成する3市が物部川という一つの流域に位置する利点を最大限に活かすため、上流域から下流域まで連携を緊密にして、多様性のある産業の振興を図っていきます。

農業では、当地域の強みであるニラ、ネギ、シシトウなどの園芸作物を中心に、農業収入の増加や高品質化、有利販売への取組など、園芸産地として品目ごとにまとまりの再構築を図るとともに、消費側から信頼される産地を目指して、生産から流通・販売までを見通した対策を進めます。

また、高齢化の進んでいる中山間地域では、高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化にも取り組めます。

林業においては、「森の工場」づくりを推進し、事業体や担い手の育成を図ることで、素材の増産に取り組むとともに、加工においても消費者ニーズに対応した品質の向上や流通コストの低減に努め、林業・木材産業の再生に取り組めます。また、労働力の不足を解消するため、公共事業等の減少により異業種への転換が求められている建設業などからも参入しやすい環境を整備します。

さらに、素材生産時に発生する木質バイオマスの有効活用について、検討を進めていきます。

水産業では、この地域の基幹的な魚種の一つであるシイラについて、漁協自らが入札に参加して浜値の向上を図るとともに、民間企業との連携による加工事業にも取り組み、漁業者の所得向上を図っていきます。

工業では、高知工科大学や高知高専などの高等教育機関や公設試験研究機関、産業振興センターなどの産業支援機関と連携して既存工業の高度化を進めるとともに、産業人材の安定的な供給に向けた取組を進めていきます。また、不足する工業団地の開発を計画的に実施し、更なる産業集積を推進していきます。

伝統産業である土佐打刃物やフラフについては、海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓、こうした取組を通じてのブランド力の確立などのチャレンジを進めていくとともに、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組んでいきます。

また、農商工各分野の事業者が連携して、潜在力のある地域資源を活用した特色のある商品化を推進し、観光の取組と一体となって人を呼び込む賑わいの仕組みづくりを構築して、地域商業の活性化を図っていきます。

観光面においては、交通の要衝という地の利、のいち動物公園やアンパンマンミュージアム、龍河洞など県内で有数の集客力を誇る施設、県下で最も早くから開けた地域としての歴史と文化、取組が進みつつある体験観光メニューなどを有機的に組み合わせたツアールートを商品化していきます。

また、より広域的な視点から、高知市を含む広域行政組合の枠組みの活用や、隣接する安芸広域圏とも連携を図ります。

(3) 重点的に取り組む施策

- 産地のまとまりを基調とした生産から販売までを見通した取組
(園芸主幹品目の生産性及び品質の向上、販売促進対策)
- 玉出し日本一の産地機能の維持・強化
(ユズを中心とした中山間地域の農業の振興)
- 地産地消・食育の推進
(地産地消・食育の推進、生産者と消費者をつなぐ場づくり)
- 豊富な地域資源を活用した1.5次産業化の推進
(農産物加工等への取組、シイラの加工商材活用など)
- 地域に育つ県産材の有効活用
(民有林における間伐の推進、木質バイオマスの活用に向けての取組など)
- 歴史と伝統ある地場産業の振興
(地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興)
- 広域連携を視野に入れた観光ネットワークづくり
(体験観光型メニューの滞在型旅行商品化、観光交流の受け皿づくりなど)

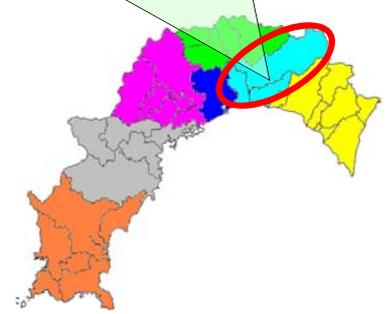
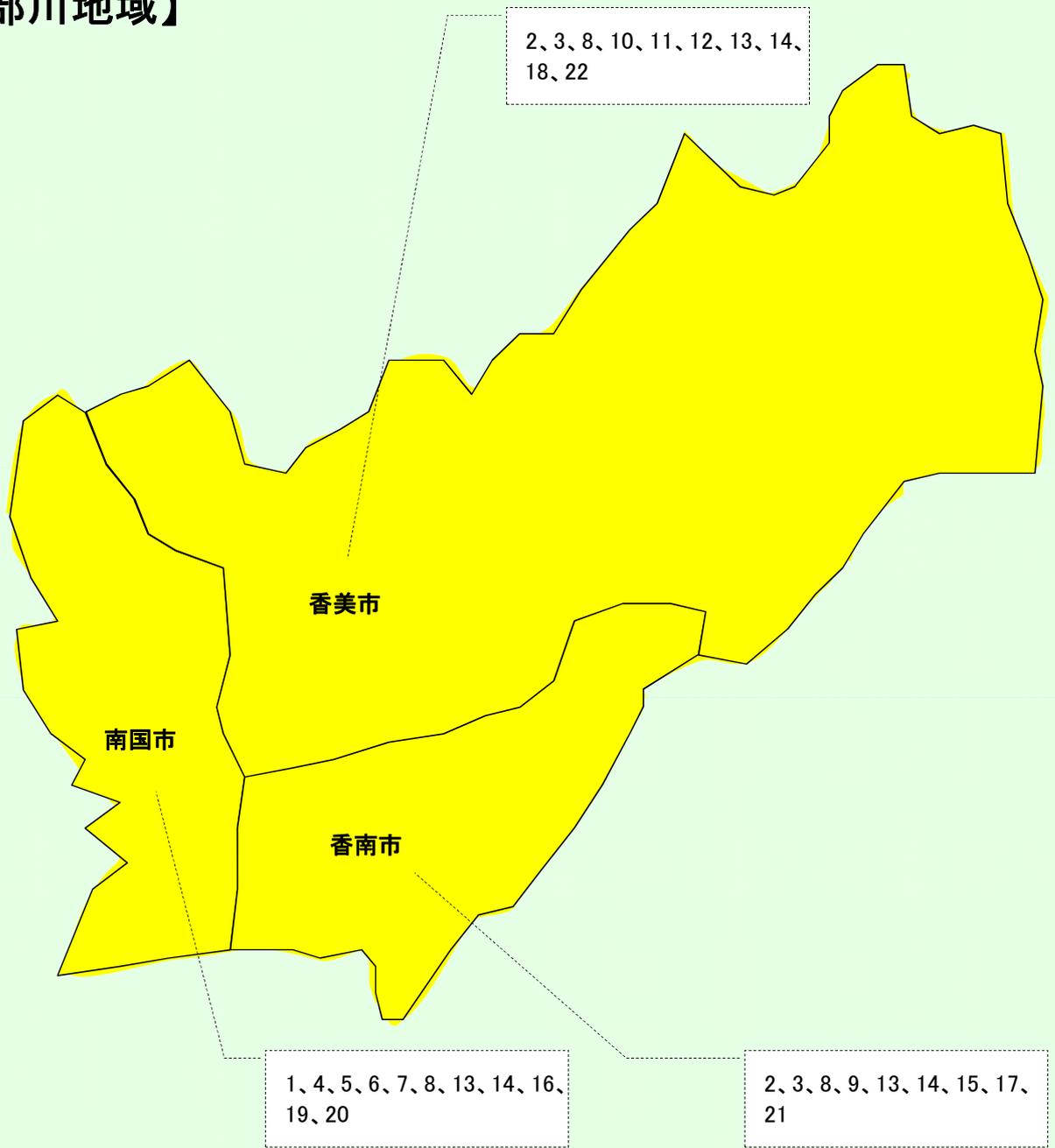
(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
認定農業者数(主業農家に占める割合)	H19: 61.0%	H23: 65.5%
こうち型集落営農組織数	H19: 0組織	H23: 1組織
新規に商品化した加工食品数	H19: —	H23: 40品目
加工原料として漁協のシイラ販売額	H19: —円	H23: 1,500万円
整備済「森の工場」面積	H19: 3,561ha	H23: 8,400ha
ペレット利用量	H19: —	H23: 1,230t
圏内主要施設訪問者数 ※県調査	H19: 67万人	H23: 85万人

(5) 具体的な取組

No.	項目	南国市	香南市	香美市
1	南国市の園芸主幹品目の振興	●		
2	香南市・香美市の基幹園芸品目の販売力向上対策		●	●
3	香南市・香美市の基幹園芸品目の産地力強化		●	●
4	地産地消・食育の推進	●		
5	生産者と消費者をつなぐ場づくり ～まずは農家レストラン～	●		
6	地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～	●		
7	「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み	●		
8	大学生による地域応援団(サポーター)づくり	●	●	●
9	農産物加工等への取組計画		●	
10	高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化			●
11	生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策			●
12	香美市ブランドの確立・特産品づくり			●
13	民有林における間伐の推進	●	●	●
14	木質バイオマスの活用に向けての取組(需用者開発)	●	●	●
15	シイラの加工商材活用		●	
16	「ごめん」をブランド化 ～トライアングルゾーンの活性化～	●		
17	香南市コミュニティガイド事業		●	
18	地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興			●
19	観光交流のネットワークづくり(観光推進体制の確立強化)	●		
20	歴史的資源を活用した地域活性化への取組 ～土佐のまほろば～	●		
21	体験観光型メニューの滞在型旅行商品化アクションプラン		●	
22	観光交流の受け皿づくり			●

【物部川地域】



【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
1 南国市の園芸主幹品目の振興 《南国市》	コスト上昇分をいかにカバーして、農家の維持、農業所得の向上や産地維持を図っていくか、南国市地域園芸戦略推進会議を核として、品目毎の生産・流通・販売上の課題解決に取り組む。	・南国市 ・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市 ・県(中央東農業振興センター)	◆生産上の対策 ◆流通・販売上の対策
2 香南市・香美市の基幹園芸品目の販売力向上対策 《香南市、香美市》	香美市・香南市には、エメラルドメロンや山北ミカン、やっこネギなど高知県を代表するような園芸品目がある。こうした品目について、生産体制の強化とあわせて、ブランド化を含めた新たな販売戦略を構築し、県内外の市場における知名度と販売力の向上を図る。	・香南市 ・香美市 ・JA土佐香美 ・県(中央東農業振興センター)	◆生産性強化の対策 ・新技術の積極的な導入 ・環境保全型農業技術の導入 ◆知名度・販売力の向上対策 ・商品規格やパッケージの改善 ・新たな市場の開拓 ・ブランド化への支援
3 香南市・香美市の基幹園芸品目の産地力強化 《香南市、香美市》	JA土佐香美管内の園芸品目は、県下最大の産地であるニラの他、ピーマン、大葉、キュウリなど様々な品目が産地を形成している。こうした状況の中で、農業所得の向上や産地の維持・拡大を図るためには、それぞれの品目で産地ぐるみでまとまりをもって、環境保全型農業技術や新技術の導入に取り組むとともに選果場の機能強化など、産地力の向上に向けた取り組みを総合的に進める。 また、食の安全・安心への取り組みとあわせて、「人と環境に優しい園芸産地」としての土佐香美ブランドを構築し、市場での有利販売に取り組む。	・香南市 ・香美市 ・JA土佐香美 ・県(中央東農業振興センター)	◆生産上の対策 ・環境保全型農業技術の導入 ・降温資材や新品種の導入 ・木質ペレットボイラーやヒートポンプなど省エネ技術の導入 ◆流通・販売上の対策 ・トレサビリティシステムの導入 ・クロージャーやパーシャル包装など特色ある流通形態の検討

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け	
					指標	目標値(H23)		
<p>生産上の対策 流通・販売上の対策</p> <p>地域園芸戦略会議で品 目別総合戦略の策定</p>						<p>シントウ販売額 (H19 13.4億円)</p> <p>ニラ販売額 (H19 3.9億円)</p> <p>オクラ販売額 (H19 1.8億円)</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>	13.4億円 4.0億円 1.8億円	A
<p>生産性強化の対策 知名度・販売力の向上対策</p> <p>地域園芸戦略会議で品 目別総合戦略の策定</p>	<p>先行品目の選定と具体的 な取り組み方針の決定</p>		<p>・生産上の対策(増収、高品質生産向上対策、生産コスト低減技術、環境保全型農業の 推進)</p> <p>・流通、販売上の対策(ブランド力の強化、有利販売につながる市場や量販店、実需者 との連携)</p>			<p>エメラルドメロン 販売額 (H19 4.8億円)</p> <p>フルーツマト販 売額 (H19 2.5億円)</p> <p>ネギ類販売額 (H19 17.1億円)</p> <p>ミカン販売額 (H19 23.1億円)</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>	5.0億円 2.7億円 18.0億円 24.0億円	A
<p>生産上の対策 流通・販売上の対策</p> <p>地域園芸戦略会議で品 目別総合戦略の策定</p>						<p>ニラ販売額 (H19 22.9億円)</p> <p>ナス類販売額 (H19 2.7億円)</p> <p>ピーマン販売額 (H19 2.3億円)</p> <p>トルコギキョウ販 売額 (H19 1.7億円)</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>	28.0億円 2.8億円 2.0億円 2.0億円	A

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>4 地産地消・食育の推進 《南国市》</p>	<p>これまで先進的な活動を行ってきたが、野菜の供給割合は5.5%に留まっており、地産地消のさらなる推進のため、組織の連携強化等を図っていく。</p>	<p>・南国市 ・(株)道の駅南国 ・JA南国市・JA長岡・JA十市 ・南国市地産地消推進協議会 ・南国市地域雇用創出推進協議会</p>	<p>◆学校給食への食材供給体制の整備及び供給拡大 ◆業務筋(中食・外食・病院等)への供給体制の整備 ◆地産地消(食育)フェア,地産地消推進協議会の事業等による地域内外へのPR・広報</p>
<p>5 生産者と消費者をつなぐ場づくり ～まずは農家レストラン～ 《南国市》</p>	<p>地産地消、安全安心への関心の高まりを背景に、地域の豊富な食材を活かし、生産者と消費者をつなぐ仕組みとして「農家レストラン」を立ち上げ、農業、商工業、観光の活性化を図る。</p>	<p>・(株)道の駅南国 ・農業者を中心とする女性グループ等 ・JA南国市・JA長岡・JA十市 ・南国市</p>	<p>◆農家レストランの立ち上げ ◆農家レストランを中心とした農業振興 ◆農業振興のための総合的な拠点づくり</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
<p>学校給食への食材供給体制の整備及び供給拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場食材の学校への配送業務の開始、取扱量の拡大 ・過年度の給食食材のデータ整理及び分析 					<p>学校給食における地元野菜の供給割合(H19年度金額ベース5.5%)</p> <p>業務筋への供給(H21新規)</p>	<p>11%</p> <p>8事業体</p>	B
<p>業務筋(中食・外食・病院等)への食材供給体制の整備及び供給拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受発注、食材確保等の仕組みづくり ・業務引継先の検討 ・地域雇用創造実現事業との連携 ・業務移管 							
<p>地産地消(食育)フェア・地産地消推進協議会等による地域内外へのPR・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消推進協議会の設立 ・学校給食、外食、消費者等、分野別の部会制による検討 ・地産地消PR活動の展開(「地産地消推進の店」等) 							
<p>農家レストランの立上げ</p> <p>農家レストランを中心とした農業振興</p> <p>農業振興のための総合的な拠点づくり</p> <p>基本コンセプトの検討・確立、レストラン運営主体の決定</p>					<p>(南国市版)農家レストランの立上げ</p> <p>隣接直販店の売上額</p>	<p>1か所</p> <p>5%アップ(H20年度比)</p>	B
<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン運営開始 ・レストランを中心とした「消費者と生産者をつなぐ仕組み」や「地域の農産物の消費拡大の仕組み」の確立 <p>農業振興のための総合的な拠点づくりへの取組(農業体験・研修・農業観光等)</p>							

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>6 地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～ 《南国市》</p>	<p>農商工の連携を強化するとともに、農産物の新たな生産・地域内への供給体制を整備し、加工を通じた特産品づくりを促進する。</p>	<p>・南国市地域雇用創出推進協議会 ・JA南国市・JA長岡・JA十市 ・南国市 ・なんこく空の駅推進協議会 ・(株)道の駅南国</p>	<p>◆農商工連携による食品加工への取り組みの基盤づくり ◆アンテナショップの検討 特産品の情報発信 ◆JA出資等による農業生産法人の設立 ◆モニター組織を活用した特産品づくりの促進 ◆地域ブランドの確立</p>
<p>7 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み</p>	<p>・大河ドラマ「龍馬伝」を契機に再燃する龍馬ブームを好機と捉え、豊富な園芸野菜を使った「ご当地グルメ」として、龍馬に関する逸話や先達の地等の歴史的背景を活用した「シャモ鍋」を新たに創出し、「地産「来」消」による交流人口拡大を図るとともに効果的なメディア露出などによる情報発信を強化する。</p> <p>・また、シャモの飼育・ブランド化を通じて休耕田を活用した養鶏や飼料米栽培、さらには葉物野菜の出荷残渣の飼料化や鶏糞の土壌還元等の可能性を検討し、主に中山間地域での新たな農業手法を検討する。</p> <p>・流通の少ないシャモ肉は少数生産であっても高級食材として取引されるため、飼育環境のトレーサビリティ等による高付加価値化を図り、「ブランド鶏肉」としての外商戦略を展開していく。</p>	<p>・ごめんシャモ研究会 ・南国市商工会 ・南国市</p>	<p>◆「ごめんケンカシャモ鍋」のご当地グルメの確立 ◆「ごめんケンカシャモ」の高付加価値化・安定供給体制の確立 ◆加工品への取り組み着手 ◆高級食材としての外商戦略づくり</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
					<p>農商工連携による食品加工への取り組みの基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 流通に載っていない商品及び人材の発掘、地域資源のデータベース化などによるコーディネート機能の確立 空弁コンクール等の実施による特産品づくりのきっかけづくり リキュール・濁酒特区申請による新商品づくり → 試作品づくりから本格的生産販売へ 	<p>地域産品を使用した加工食品の商品化 (H21新規)</p> <p>20品目</p>	B
				<p>アンテナショップの検討</p> <p>「道の駅」の実証実験もいっつつ、既存の商品や開発した特産品について「道の駅」での販売増加を推進するとともに、ホームページにおいて紹介する</p>	<p>アンテナショップの立ち上げ</p> <p>10品目</p> <p>1件</p>		
				<p>JA出資等による農業生産法人の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人設立に向けた検討・計画づくり 設立に向けた準備法人設立 円滑な業務移管及び運営の安定化 地域雇用創出実現事業を活用した農業生産・加工等の実証 	<p>JA出資型農業生産法人の設立</p> <p>1法人</p> <p>生産法人の中食・外食産業等への食材供給 (H21新規)</p> <p>8事業者及び学校給食</p>		
				<p>モニター組織を活用した特産品づくりの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> モニター組織づくり シヤモ鍋、ピワリキュール等の特産品のブラッシュアップ 			
				<p>地域ブランドの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 認証の仕組みづくり 地産地消をキーワードとした取り組み 			
					<p>「ごめんケンカシヤモ鍋」のご当地グルメの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内のイベント等での振る舞い・出店販売等を通じたPR、及びメディアへの情報発信等による積極的な露出 市内加盟飲食店(ごめんシヤモ鍋社中)による提供開始(11月)シヤモ鍋マップ作成やイベント・マスコミ活用によるPR展開 定義(社中八策)の管理(チェック)同志(加盟店)の増加活動 	<p>「ごめんシヤモ鍋社中」加盟店舗数(南国市でのシヤモ鍋提供店舗数)</p> <p>10店舗</p>	A
				<p>「ごめんケンカシヤモ」の高付加価値化・安定供給体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 本格飼育開始、飼料米生育実証及びシヤモの食鳥処理から販売体制の整備、処理過程記録簿等の検討 飼料米の給餌実証による飼育マニュアルの確立及び生育管理体制の確立 委託飼育方式から契約飼育方式(買取方式)への転換検討 飼育部門の独立(契約飼育への移行)品質(ブランド)の維持管理 食鳥処理能力の拡大(処理委託先の複数化も視野) 	<p>社中でのシヤモ鍋以外のオリジナルメニュー提供数</p> <p>1品/1店舗以上</p> <p>シヤモ目標飼育羽数 (H21 70羽)</p> <p>2,000羽</p>		
				<p>加工品への取り組み着手</p> <ul style="list-style-type: none"> 先行加工品(例: 鍋セット)の試作・試販 前年度取組みの検証 先行品の商品化 他の加工品への展開 			
				<p>高級食材としての外商戦略づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント参加・メディア露出等を通じたPR活動活動 ⇒ タイムリーな話題(トピックス)づくり 東京ASや県人会を活用した先行品等の販売(モニタリング) 東京AS等を通じた都市圏外食産業への販売セールス ネット販売等の外商チャネルの検討 			

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>8 大学生による地域応援団（サポーター）づくり 《物部川地域全域》</p>	<p>地域内に大学が立地することから、在学中に地域資源（農産品・地場産品）に親しみ、地域の良さを学んでもらい、卒業後も“第二の故郷”として全国各地から物部川地域をサポートする『地域応援団（サポーター）』になってもらえる仕組みをつくる。</p>	<p>NPO法人 「人と地域の研究所」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆在学中の関わりづくり ◆卒業後のフォローアップ ◆支援組織（ネットワーク）の形成
<p>9 農産物加工等への取組計画 《香南市》</p>	<p>ミカン等柑橘類、ニラ、芋、チャマメ、ショウガ、はなゆ、ブルーベリー、ナス、どろめなど、地域特産の農産物等の加工を通じて付加価値を高め、地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。</p>	<p>・香南市観光協会 ・食品加工グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆特産品研究会の立上げ ◆地域ブランド商品の製造、流通・販売
<p>10 高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化 《香美市》</p>	<p>谷相集落をモデル集落とし、高齢者とともに農業で生活できる地域づくりに取り組み、将来にわたって中山間地域の集落で生活できる「こうち型集落営農」の実現を目指す。</p>	<p>・県（中央東農業振興センター）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆集落営農の推進 ◆農作業受委託の推進 ◆売れる米作りの推進と有利販売 ◆園芸品目の導入と普及推進 ◆交流活動の推進

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
<p>在学中の関わりづくり</p> <p>学生のニーズや大学として取り組む場合の仕組み等について協議、モデル的な取組の実施</p>	<p>在学中の取組内容の検討</p>	<p>検討内容を踏まえた実践</p>			<p>支援組織数</p> <p>1</p>	A	
		<p>卒業後のフォローアップ</p> <p>情報発信の仕組みの検討</p> <p>情報発信 (HP、季刊誌) のシステムの構築</p>					
		<p>支援組織 (ネットワーク) の形成</p> <p>関係者間での調整作業</p> <p>支援組織の立上げ</p> <p>高知工科大学で「地域共生概論」を実践</p>	<p>ふるさとインターンシップ事業の活用</p> <p>支援組織による応援団のサポート</p>				
<p>特産品研究会の立上げ</p> <p>香南市特産品研究会の立上げ、マーケティングリサーチ</p> <p>商品開発・販売等に関する企画書づくり、素材調達計画の検討、素材の集荷方法等の確認</p> <p>企画書に基づく試作品製造及びモニタリング販売</p> <p>商品化が決定した加工製品の製造及びカタログ販売の実施</p> <p>県内外への売出し戦略の検討</p> <p>香南市観光協会による事業継承</p> <p>香南市地域雇用創造協議会 (実現事業) のアドバイザーとして、高知大学 国際・地域連携センター 産学官連携部門長が就任</p>		<p>地域ブランド商品の製造、流通・販売</p>			<p>開発加工製品サンプル数 (H19 ー)</p> <p>10品目</p> <p>商品化製品数 (H19 ー)</p> <p>10品目</p>	A	
<p>集落営農の推進</p> <p>農作業受委託の推進</p> <p>売れる米作りの推進と有利販売</p> <p>園芸品目の導入と普及推進</p> <p>交流活動の推進</p> <p>ビジョン策定、園芸品目の実証展示、集落営農組織の設立準備</p>	<p>組織運営支援、園芸品目の導入</p>	<p>園芸品目の生産・拡大</p>	<p>園芸品目の定着と所得向上、「こうち型集落営農組織」への誘導</p>	<p>園芸品目の定着と所得向上、「こうち型集落営農組織」の充実</p>	<p>こうち型集落営農組織数 (H19 ー)</p> <p>1組織</p>	A	

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>11 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策</p> <p>《香美市》</p>	<p>香美市物部町を中心としたユズは、国内最大の青果出荷（玉出し）ユズの産地であるが、生産者の高齢化などから、生産の維持が困難になっている。このため農作業受委託などの仕組みづくりを通じて、作業者を確保し産地の維持発展を図る。</p> <p>また、従来に関東、関西地区への市場出荷に加えて、関東以北などの新たな市場の開拓を行い、新たな需要の掘り起こしと選果場の機能強化による商品開発を行う。</p> <p>近年、ユズ園での鳥獣害の発生が多くなっており、こうした対策を取り入れた新系統品種の実証ほを設置する。</p>	<p>・香美市 ・香美市雇用創造協議会（農作業受委託チーム） ・JA土佐香美 ・県（中央東農業振興センター）</p>	<p>◆ユズ産地の生産対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用労働システム（モデル）づくり ・鳥獣害対策を取り入れた実証ほの設置 <p>◆集・出荷及び販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集・出荷場の機能強化 ・新たなパッケージ等商品開発の推進 ・新市場及び流通チャネルの開拓
<p>12 香美市ブランドの確立・特産品づくり</p> <p>《香美市》</p>	<p>香美市ブランドの確立、特産品づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る</p>	<p>・香美市地域雇用創造協議会 ・食品加工グループ</p>	<p>◆地域特産品の加工・販売の仕組みづくり</p> <p>◆新たな加工食品の開発・販売</p> <p>◆シカ肉の活用に向けた取組</p>
<p>13 民有林における間伐の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p>	<p>効率的な施業の実現を図るとともに、林業事業体の経営基盤の整備や担い手の育成を図り、素材の増産等に取り組む。</p>	<p>・各森林組合 ・林業事業体等 ・異業種（建設業等）</p>	<p>◆森の工場の推進</p> <p>◆林業事業体の育成</p> <p>◆担い手の育成確保</p> <p>◆放置林の解消</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
<p>ユズ産地の生産対策 集・出荷及び販売体制 の強化</p> <p>地域園芸戦略会議で品 目別総合戦略の策定 JA土佐香美柚子生産 部会ユズ産地協議会で ユズ産地構造改革計画 の策定</p>	<p>・受託作業の実施に向 けた体制の検討 ・選果機の整備等、集 出荷場の機能強化 ・モデル実証ほの検討</p> <p>・中央果実基金事業によるマーケティング等、市場の開拓</p>	<p>◆生産上の対策 ・受委託作業システムの構築・運用 ・優良系統の生産振興 ・実証ほの検討・運営 ◆流通・販売上の対策 ・新商品(新パッケージ)の開発 ・新市場及び流通チャネルの開拓</p>			<p>ユズ販売額 (H19 5.0億円)</p> <p>新たな商品開発 (H21新規)</p>	<p>5.1億円</p> <p>2品目</p>	A
<p>地域特産品の加工・販売の仕組みづくり</p> <p>詳細について関係者での検討</p>	<p>ネットショップ「土佐の香美市のバザールぜよ」による販売</p> <p>新たな加工食品の開発・販売</p> <p>商品開発・販売等に関する企画書づくり</p> <p>企画書に基づく試作品製造及びモニタリング販売</p> <p>商品化が決定した加工製品の製造及び販売 県内外への売出し戦略の検討</p> <p>シカ肉の活用に向けた取組</p> <p>加工用原料(シカ肉)の調達方法の検討及び試作品製造</p> <p>処理場の改修</p> <p>商品化が決定した加工製品の製造及び販売</p>	<p>香美市地域雇用創造協議会の雇用した地域求職者等の既存企業等への就職もしくは起業による事業継承</p> <p>香美市地域雇用創造協議会の雇用した地域求職者等の既存企業等への就職もしくは起業による事業継承</p>			<p>開発加工製品サンプル数 (H21新規)</p> <p>商品化製品数 (H21新規)</p>	<p>10品目</p> <p>10品目</p>	A
<p>森の工場の推進 林業事業体の育成 担い手の育成確保 放置林の解消</p>	<p>森の工場及び森林施業計画の樹立、林業事業体の育成、担い手の確保</p>				<p>整備済「森の工場」面積 (H19 3,561ha)</p>	<p>8,400ha</p>	A

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>14 木質バイオマスの活用に向けた取組 (需用者開発)</p> <p>《物部川地域全域》</p>	<p>「香南香美地域新エネルギービジョン」を踏まえて、上流域の豊富な森林資源と下流域に一大園芸地帯が広がる立地条件を生かした「エネルギーの地産地消」によるCo2排出削減と地域振興を念頭に、各種事業を活用して、木質ボイラーの実需者開発を行う。</p> <p>また、地域の林地残材等を活用した木質燃料の供給基地づくりに向けた検討を行う。</p>	<p>・香南市 ・香美市 ・南国市</p>	<p>◆木質バイオマスの利用の検討</p> <p>◆燃料供給基地づくりに向けた検討</p> <p>◆木質燃料の実需者開発</p> <p>①園芸用ボイラー等の設置 (H21～23:グリーンニューデール事業:加速化基金事業等)</p> <p>②域内JAが行う木質ボイラー設置に向けた意向調査(H21)</p> <p>③香南市(低炭素地域づくり面的対策推進事業)によるペレット実証実験(H21～)</p> <p>④香美市・香南市・南国市(緑の分権改革推進事業)による各種ペレット実証試験(H22)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>実用ボイラー導入による運用状況・実証試験、農家の意向調査の結果が出そうH23以降に燃料供給基地づくりに向けた検討</p>
<p>15 シイラの加工商材活用</p> <p>《香南市》</p>	<p>シイラの加工による浜値の向上と付加価値の増加を通じて、漁業者の所得の向上を図る</p>	<p>・高知県漁協(手結支所)</p>	<p>◆漁協による入札に参加</p> <p>◆前処理加工の実施</p> <p>◆施設整備の実施</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
<p>木質バイオマスの利用の検討</p> <p>・香南香美地域新エネルギービジョン詳細ビジョン策定調査</p>	<p>・低炭素地域づくり面的対策推進事業</p>	<p>・緑の分権改革推進事業による木質バイオマスの利用の検討</p>	<p>燃料供給基地づくりに向けた検討</p> <p>・実用機導入の運用状況 ・各種ソフト事業による実証試験等の成果 ・農家意向調査 などを踏まえて、木質燃料の基地づくりに向けた検討</p> <p>木質燃料の安定供給システムの検討</p>	<p>ペレット利用量 (H21 -)</p>	1230t/年	A	
<p>木質燃料の実需者開発</p> <p>・木質ペレットボイラー導入の検討(南国市・香美市・香南市)</p> <p>木質ペレットボイラーの導入(グリーンニューデール事業等)</p> <p>・木質ペレットボイラー導入(南国市・香美市・香南市) H21:1台 H22・H23:15台(予定) ・木質チップボイラー導入(香美市・南国市) H21:1台 H22・H23:1台(予定)</p> <p>・国の新規事業等を活用した利用者拡大の検討</p>							
<p>漁協による入札への参加 前処理加工の実施 施設整備の実施</p> <p>入札への参加、加工グループの組織化、施設の構造等についての協議、前処理加工品の販売</p>	<p>既存共同作業場の改修</p>				<p>加工原料として 漁協のシラ販売額 (H19 -)</p>	1,500万円	A
<p>前処理加工品の販売</p> <p>周年稼働に向けた体制整備の検討</p> <p>周年稼働の実施</p> <p>新商品の開発を含めた事業展開の検討</p>							

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
16 「ごめん」をブランド化 ～トライアングルゾーンの活性化～ 《南国市》	「ごめん」というユニークな地名を活かし、人を呼び込み、商店街を活性化する。	・ごめん町まちづくり委員会 ・ごめん生姜アメ研究会 ・南国市商工会 ・南国市商工会後免支部 ・後免町公民館検討委員会(仮称) ・南国市 等	◆地域ブランドの検討 地域を巻き込んだ仕組みづくり ◆中核的な地域資源(商品・サービス)の検討による魅力度アップ 軽トラ市の定期開催等 ◆「にぎわい」拠点の検討
17 香南市コミュニティガイド 事業 《香南市》	自衛隊移転に伴う新たな住民の一大流入を契機に、商店・飲食店・サービス店等において、地域に滞在するうえで欠かせない生活情報を提供することにより、大型量販店等との差別化を図り、活力のある商店街づくりを目指す。	・香南市商工会	◆勉強会の開催 ◆消費者への告知ツールの開発等 ◆参加型コミュニティイベントの開催
18 地場産業(土佐打刃物、 フラフ)の振興 《香美市》	海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓のほか、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。	・香美市地域雇用創造協議会 ・高知県土佐刃物連合協同組合 ・香美市商工会 ・フラフ製造業者	◆新商品の開発及び新たな販路開拓 ◆次世代を担う人材の育成

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
<p>地域ブランドの検討 中核的な地域資源(商品・サービス)の検討による魅力度アップ</p> <p>・中核的な地域資源の活用 「ごめん」という地名、空き店舗、高知農業高校アンテナショップ、やなせたかしロード及びキャラクター、ゴメンジャー等 ・サービスの検討と情報発信の方法の検討 「やなせたかしロード」、「はがきでごめんなさいコンクール」「軽トラ市」などの充実・ブラッシュアップによるイメージ戦略づくり</p>					軽トラ市の定期的な開催	3回/年	B
<p>・地区外の住民を巻き込んだ応援団の組織化 ・ごめんブランドにむけた「ごめん」イメージの統一と情報発信</p> <p>「にぎわい」拠点の検討</p> <p>・中心市街地における空き店舗や「ごめん町公民館」を活用した「にぎわい」創出の計画づくり</p>					ごめん応援団の設立	1組織	
<p>勉強会の開催</p> <p>地域に根ざした個店ならではのサービスの検討</p> <p>地域に根ざした個店ならではのサービスの実践</p> <p>消費者への告知ツールの開発等</p> <p>マップ付き生活情報ガイド(冊子)の作成及び配布、シンボルマーク作成及びステッカー貼出し</p> <p>マップ付き生活情報ガイドの普及・検証、ガイドと連携した地域通貨やクーポン等の導入検討</p> <p>マップ付き生活情報ガイドの改訂版作成</p> <p>地域通貨やクーポン等の導入</p> <p>参加型コミュニティイベントの開催</p> <p>観光協会等とタイアップした参加型コミュニティイベントの開催</p>					◆香南市商工会加盟店の増加 (H20 : 596店)	650	A
<p>新商品の開発及び新たな販路開拓</p> <p>・「協働の森」ロゴ入り打刃物の製作、「協働の森」協定関係者への売り込み ・工科大学生の土佐打刃物商品開発研究事業による新商品の試作・提案 ・各種イベント等での土佐打刃物商品の販促活動の実施 ・フラフ染体験の旅行商品化の検討 ・フラフ産地のPRの充実</p> <p>高知工科大学:商品開発サークルと香美市地域雇用創造協議会との連携により「土佐打刃物の商品開発と販売拡大戦略」研究事業を実施</p>					土佐打刃物製造業後継者育成にかかる事業計画	1件	B
<p>次世代を担う人材の育成</p> <p>・土佐打刃物製造の後継者育成に関する事業計画の検討</p> <p>・土佐打刃物製造の後継者育成に関する事業計画に基づく具体的対応</p>							

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>19 観光交流のネットワークづくり(観光推進体制の確立強化)</p> <p>《南国市》</p>	<p>交通の要衝という恵まれた立地環境を活かし、地域内の観光資源をつなぎ、外に売り出していくための体制整備を図る。</p>	<p>・南国市地域雇用創出推進協議会 ・南国市観光協会 ・市内各観光に関わる者 ・市内各飲食店 ・(株)道の駅南国 ・なんこく空の駅推進協議会</p>	<p>◆地域内でのネットワークづくり 「観光」で地域経済を活性化するという機運の盛り上げ</p> <p>◆体験型観光などのメニューづくり</p> <p>◆売り出していくための戦略づくり 歴史資源を前面に出した情報発信 ～まず長宗我部から～</p>
<p>20 歴史的資源を活用した地域活性化への取組 ～土佐のまほろば～</p> <p>《南国市》</p>	<p>地域が誇る歴史的な資源を活用し、「語り部」の育成などに取り組み、関係者が一つになって交流人口の拡大による地域活性化につなげていくために取り組んでいく。</p>	<p>・南国市地域雇用創出推進協議会 ・土佐のまほろば地区振興協議会 ・土佐のまほろば風景街道協議会 ・南国市観光協会</p>	<p>◆地域のコンセプトの再確認</p> <p>◆中核的な地域資源(仕組み・施設等)の検討</p> <p>◆観光ガイド組織の立ち上げ</p>
<p>21 体験観光型メニューの滞在型旅行商品化アクションプラン</p> <p>《香南市》</p>	<p>市内各地でいくつかの体験メニューの開発・実施が進みつつあるが、実施主体ごとに個別にPR等を行っている段階であるため、一元的に情報管理、発信を行うなど、観光商品化に向けて機能強化を図る。</p>	<p>・香南市観光協会 ・地域の体験メニュー等提供団体 ・高知県観光コンベンション協会</p>	<p>◆体験メニューのブラッシュアップ</p> <p>◆旅行商品化に必要な観光情報の一元把握</p> <p>◆旅行商品企画の造成</p> <p>◆地域の観光情報の発信</p> <p>◆商店街のクレジットカードの利用環境の整備</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
<p>地域内でのネットワークづくり 体験型観光などのメニューづくり 売り出していくための戦略づくり</p> <p>・観光協会内での実際に観光に関わる者による検討部会立ち上げと定例会の実施及び共同イベントの実施 ・フリーペーパー、シャモ料理の開発提供などによる情報発信を通じた気運の醸成とネットワーク拡大</p> <p>・観光基本計画の策定 関連団体との検討および周知</p> <p>・モニター組織を活用した体験学習型観光コースづくり ・観光協会のホームページ開設による県内外への情報発信 ・観光協会の機能充実のための体制づくり</p> <p>・推進体制(コーディネーター組織)を中心とした基本計画及び事業実践</p>					観光ネットワークへの参加団体数 (H21新規)	50	B
					観光基本計画の作成	1	
					観光コーディネーター組織の確立	1組織	
<p>地域のコンセプトの再確認 中核的な地域資源(仕組み・施設等)の検討 観光ガイド組織の立ち上げ</p> <p>・観光ガイドの養成 ・既存イベントのブラッシュアップ</p> <p>・観光ボランティアガイドの実践活動 ・長宗我部フェスなどでの積極的な情報発信 ・旅行代理店との連携 ・観光ボランティアガイド組織の立ち上げ・機能強化 ・歴史的資源を活かした体験学習型観光のメニューづくり</p>					観光ボランティアガイド組織の設立	1組織	B
<p>体験メニューのブラッシュアップ</p> <p>成功事例等研修会 まちの案内人講座ほか5講座の実施</p> <p>旅行商品化に必要な観光情報の一元把握</p> <p>メニューのタリフ化 タリフ集・体験マップ作成 タリフ集の修正・追加</p> <p>旅行商品企画の造成</p> <p>商品化検討会の立上げ</p> <p>検討会でのコースプラン作成</p> <p>県コンベンション協会を通じた販売 香南市観光協会を通じた販売</p> <p>地域の観光情報の発信</p> <p>香南市地域情報センター等を活用したPRの展開</p> <p>商店街のクレジットカードの利用環境の整備</p> <p>商工会による信販会社との一括契約による利用環境の検討</p>					商品造成数(日帰り、1泊2日、2泊3日×3ターゲット)	10タイプ以上	A
					年間プロモーション活動 県外(主に東京・大阪)	年間6回以上	

【物部川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
22 観光交流の受け皿づくり 《香美市》	観光情報の一元化と観光ネットワークの強化を通じて、香美市を滞在型・体験型観光のフィールドとし、地域の所得の向上と雇用の創出を図る。	・香美市地域雇用創造協議会 ・香美市観光協会 ・地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体 ・香美市 ・高知県観光コンベンション協会	◆観光情報の充実及び一元化 ◆観光ネットワークづくり

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分け
					指標	目標値 (H23)	
観光情報の充実及び一元化 観光ネットワークづくり	 <ul style="list-style-type: none"> ・観光シーズの洗い出し ・観光情報のタリフ化 ・モニターツアーの実施によるニーズの把握と検証 ・ワーキングホリディ等の新たな取組の試行 ・ホームページの作成等、観光情報の発信強化 ・観光ネットワークづくり 				観光コーディネーター等を行う組織	1組織	

B

Ⅱ 各地域の展望と具体的な取組

3 高知市地域

3 高知市地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

当地域は「平成の大合併」により、都市部を中心とした県域の中核機能をはじめ、田園地域と中山間地域を併せ持つ、バランスのとれた都市となりました。

総人口はほぼ横ばいで推移しており、平成17年の国勢調査では348,990人で、県全体の4割余りを占めています。65歳以上の高齢者は20.8%で、県平均を下回っているものの、他地域と同様に高齢化が進行しています。

総生産額は県全体の約45%を占めていますが、部門別の構成比は第1次産業が1%にも満たないのに対し、第3次産業が90%を超えるという突出した形になっています。

農業については、平野部では、水稻、野菜、花き等の早出しを主体とする営農形態となっています。北部の中山間地域では、地理的な特性を活かして、ユズや四方竹の生産・加工、有機による野菜づくりなどが行われ、大消費地に近い地の利を活かして、直販所や曜市等を通じた地産地消の取組が進められています。また、ショウガ等新たな加工に向けた検討や商品化の取組もはじまりました。

南部の里山地域と中山間地域では酪農が行われており、出荷される牛乳は、県内で加工・販売・消費されていますが、酪農関係者による加工に向けた取組もスタートしました。

林業については、総面積の約60%を占める森林の約半分が杉やヒノキといった人工林で、早急な整備が必要となっており、林道、作業道等の基盤整備や森林組合を中心とした間伐などが進められていますが、木材価格の低迷をはじめ、担い手の高齢化などによる後継者不足等の課題があります。その一方で、国際的な木材の需給の状況や、地球温暖化の防止等に対する森林への関心の高さなどを背景に、国産材を見直す動きが見られます。

大消費地を抱え、水産物を供給する漁業は大きな役割を担っていますが、魚価の低迷や漁場環境の悪化、担い手の高齢化などにより、漁業者の経営環境は厳しさを増しています。

商業については、特に、中心商店街や近隣商店街では、郊外型の大規模小売店の影響も重なって、空店舗の増加や歩行者通行量の減少など衰退傾向が見られるため、中心市街地の活性化について検討が行われています。

製造業は、製紙業や機械、窯業、化学工業等を中心に操業が行われ、高い技術力によって全国展開している企業もありますが、全般的には伸び悩みの傾向にあります。

観光面では、「高知城」や「はりまや橋」、「桂浜」などの名所、「よさこい祭り」をはじめとする様々なイベントのほか、「坂本龍馬」などの「歴史」や「食」など、本県を代表するような観光資源を多く有していますが、効果的な情報発信や周辺地域との広域での連携、豊かな自然を生かした体験型観光など観光客の多様化するニーズへの対応が課題となっています。また、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送や「龍馬博」の開催による追い風を最大限に生かし切る取組も求められています。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

県都・中核市としての都市機能や役割を十分に果たしつつ、「住んでよし、訪れてよし」のにぎわいあふれるまちづくりを目指します。

具体的には、豊かな素材を活かした1.5次産業の振興やバイオマスの活用促進等による循環型都市の構築、環境技術系企業の振興及び誘致、環境にやさしくにぎわいあふれるコンパクトシティを目指した中心市街地の活性化、高知らしい歴史・文化・自然・食を体感できる観光振興などの取組を進めます。

特に、平成23年度からは、はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリアを活性化の重点地域と位置づけたプランに基づき、「歴史」、「文化」、「食」といった強みを余すことなく活用した事業を展開することにより、県民・市民に支持される「おまち」の再興、観光客を呼べるまちづくりを通じて、県都の中心部の活性化を図ります。

農業については、平野部では、水稻、野菜、花き等の基幹作物を中心に、より生産性の高い経営体の育成を図るとともに、加工を推進します。中山間地域では、基幹産業として、ユズや四方竹の生産の拡大、加工を促進するとともに、鏡川の源流域としてECO農業を展開するなど、都市部への食料供給基地として、地産地消・地産外商をより一層推進します。

酪農を主とした畜産業は、経営安定化に向け、飼料の自給率の向上や牛乳に高い付加価値を付ける取組を進めます。

林業分野では、「森の工場」を核にして事業体や担い手の育成を図るとともに、森林組合を中心に、建設業者等の異業種の参入・連携による新たな仕組みづくりに取り組むことで、施業地の集約化を促進し、間伐の面的な拡大と素材の増産を図ります。また、加工や流通においても、地域が共同して品質の向上やコストの低減などに取り組み、県産材の需要の拡大につなげることで、林業・木材産業の再生を図ります。さらには、森林資源の有効利用のため、竹バイオマス等の活用促進に向けた取組を進めます。

水産業分野では、漁業関係者の所得の向上を図るため、地元の漁獲物や加工品の消費拡大に向けた取組を進めます。

商業については、中心商店街でのアンテナショップの事業展開への支援などにより、商店街全体の魅力を高める取組を進めます。

製造業においては、付加価値の高い工業製品の開発や、1.5次産業の推進による新たなビジネスの創出、さらには、経営力の強化等に向けた支援を行うことによって地場産業を育成し、市場の開拓・拡大を図りながら、外貨の獲得を目指します。

観光分野では、高知市地域に集中して存在する「高知城」や「桂浜」等の代表的な観光地を中心にしながら、近隣地域で人気のある観光施設やカヌー体験等の体験プログラムの取組とも連携し、多様な魅力ある広域の観光エリアとして、効果的な情報発信を行い、滞在型・体験型観光を積極的に推進します。また、「龍馬伝」の放送、「龍馬博」開催による効果を最大限に生かすべく、全国に誇れる「食」や「よさこい」、「坂本龍馬」などを軸に魅力ある誘客の仕組みづくりを推進していきます。

(3) 重点的に取り組む施策

- 地域の特色を活かした多様な農業の展開と加工への取組
(基幹品目の生産性及び品質の向上、加工品の開発、中山間農業の活性化、E C O 農業の推進、地産地消の推進)
- 「森の工場」などによる間伐の面的な拡大
(事業体や担い手の育成、異業種の参入・連携の仕組みづくり)
- 地域資源を活用した1.5次産業の振興
(沖ウルメ、メヒカリ、冷凍ドロメの加工など)
- 中心市街地の活性化
(東西軸エリア活性化プランの推進)
- 機械・金属を中心とした「ものづくり企業」による地産外商の推進
(受注拡大や販路拡大による雇用の創出)
- 魅力ある観光戦略の展開
(食観光の推進、よさこい祭りの有効活用、「龍馬伝」を契機とした龍馬の新たな魅力づくり、ポスト「龍馬博」に向けた新たな歴史・文化資源の磨き上げと活用、滞在型・体験型観光の推進)

(4) 主要な指標及び目標

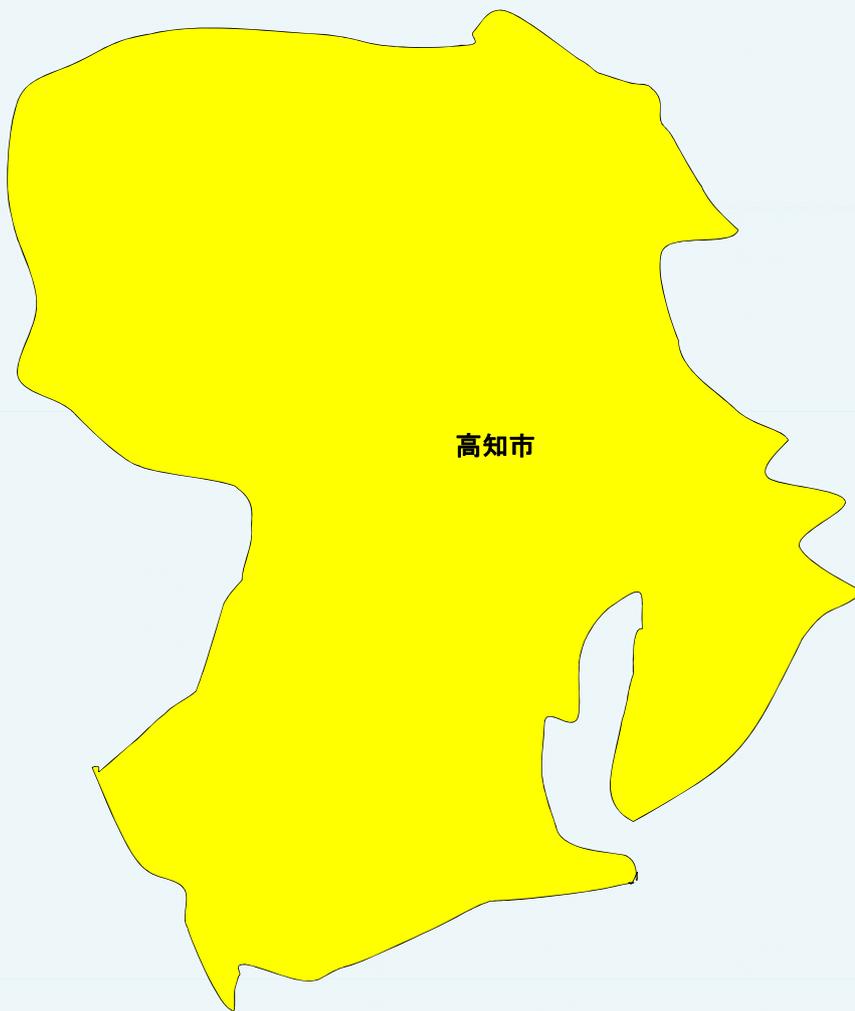
項 目	実 績	目 標
主業農家に占める認定農業者の割合	H20 : 40%	H23 : 45%
ショウガの販売額	H19 : 21.4億円	H23 : 23.3億円
ユズの販売額	H19 : 1.6億円	H23 : 1.7億円
有機J A S 認定事業者数 (累計)	H19まで : 2事業者	H23まで : 5事業者
間伐の実施面積	H19 : 285ha	H23 : 250ha
うち森の工場の間伐面積	H19 : 5ha	H23 : 25ha
" 素材生産量	H19 : 210m ³	H23 : 2,000m ³
中心商店街の空き店舗率	H20 : 15.3%	H23 : 増加傾向に歯止め
商店街等の通行量 (夏期・休日)	H20 : 5.6万人/日	H23 : 減少傾向に歯止め
観光客入込み数	H19 : 230万人	H23 : 300万人

(5) 具体的な取組

No.	項目
1	地域の基幹品目の振興
2	ショウガの安定供給と消費拡大
3	ユズを核とした中山間農業の活性化
4	中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進
5	四方竹のブランド化による中山間地域の振興
6	鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と薬草の里づくり
7	春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上
8	稲ホールクroppサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活
9	生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出
10	民有林における間伐の推進
11	県産材の地域における需要拡大
12	高知市バイオマスタウン構想の実施
13	底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大
14	冷凍ドロメの販路拡大
15	販路拡大支援の充実
16	土佐のものづくり企業による地産外商の推進
17	工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化
18	環境に優しい未活用資源の有効活用
19	はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化
20	中心商店街でのアンテナショップの運営
21	多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり
22	おまちに関する情報発信の充実
23	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上
24	清流鏡川や浦戸湾などの地域資源の活用と近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進
25	「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立
26	映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致
27	観光情報の集約と情報発信力の強化
28	「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大
29	温泉開発による観光地としての魅力の向上
30	「龍馬伝」を契機とした観光の振興
31	食による観光の推進と地域物産との連携
32	土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上と情報発信



【高知市地域】



1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、
21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
1 地域の基幹品目の振興	農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。	・JA高知市 ・JA高知春野 など	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 ◆第二次・三次産業との連携による加工品開発、消費拡大PR
2 ショウガの安定供給と消費拡大	基幹品目であるショウガ(露地ショウガ、ハウスショウガ)の安定生産と供給、第二次産業との連携による消費拡大とPRのための取組を進め、農家所得の向上を図る。	・JA高知市 ・JA高知春野 ・高知市 ・加工業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆安定生産と供給 ◆第二次・三次産業との連携による加工品開発、消費拡大PR
3 ユズを核とした中山間農業の活性化	中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大に対応できる施設整備や担い手の振興策等の「ユズ振興総合対策」の実施により、中山間地域の活性化を図る。	・JA高知市 ・JA高知市土佐山柚子生産組合 ・高知県園芸連	<ul style="list-style-type: none"> ◆ユズ搾汁施設の整備 ◆優良母樹の確保と優良苗の生産供給体制の整備 ◆出荷予測システムの見直しによる予測精度の向上と販売強化 ◆有機に準じた栽培支援 ◆ユズ振興計画の実現

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
<p>生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策</p> <p>基本的栽培技術の指導、新品種の検討及び普及、IPM(総合的病害虫管理)技術の確立及び普及、低コスト省力化技術の普及、まとまりのある園芸産地育成事業の実施、異常気候対策・鳥獣対策の推進</p> <p>《基幹品目》 キュウリ、ショウガ、メロン、トマト、イチゴ、ユズ、新高ナシ、ユリ、グロリオサ、水稲</p>					主業農家に占める認定農業者の割合 (H20 40%)	45%	A	
<p>高知ブランドをPRする流通・販売対策</p> <p>鮮度保持技術の確立及び普及、安全・安心ブランドのアピール活動、消費宣伝活動、試食宣伝活動</p> <p>第二次・三次産業との連携による加工品開発、消費拡大PR</p> <p>加工品の検討・開発、消費拡大PR</p>					基幹10品目の販売額 (H19 99億円)	99億円		
<p>安定生産と供給</p> <p>臭化メチル代替技術の確立による安定生産</p> <p>「こうち環境・安全・安心点検シート」の実施による品質の向上及び安定</p> <p>洗浄機及び関連設備の追加整備</p> <p>貯蔵施設の整備による供給体制の確立</p> <p>第二次・三次産業との連携による加工品開発、消費拡大PR</p> <p>加工品の検討・開発、消費拡大PR</p> <p>搾汁設備の整備</p>					ショウガの販売額 (H19 21.4億円)	23.3億円		A
<p>ユズ搾汁施設の整備</p> <p>搾汁工場の計画</p> <p>搾汁工場及び付帯設備の整備・稼働</p> <p>稼働・県版HACCP認証取得</p> <p>優良母樹の確保と優良苗の生産供給体制の整備</p> <p>母樹候補苗の育成、選抜</p> <p>母樹指定、選抜、母樹定植、管理</p> <p>管理</p> <p>出荷予測システムの見直しによる予測精度の向上と販売強化</p> <p>方法の見直し(県下統一)</p> <p>方法の見直し(県下統一)</p> <p>実践</p> <p>有機に準じた栽培支援</p> <p>GAP(適正農業規範)作成の支援</p> <p>有機・GAP学習会</p> <p>有機・GAPの普及、実践</p> <p>ユズ振興計画の実現</p> <p>(中間評価)</p> <p>実践</p> <p>(見直し)</p>					うち露地ショウガ (H19 11.8億円)	11.8億円	A	
					うちハウスショウガ (H19 9.6億円)	11.5億円		
					ユズの販売額 (H19 1.6億円)	1.7億円		

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
4 中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進	集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・こうち型集落営農モデル組織(七ツ淵、梅ノ木) ・集落営農組織 	<ul style="list-style-type: none"> ◆こうち型集落営農モデル組織の育成 ◆集落営農組織の育成
5 四方竹のブランド化による中山間地域の振興	全国的に希少性の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)夢産地とさやま開発公社 ・七ツ淵加工組合 ・土佐山四方竹生産組合 	<ul style="list-style-type: none"> ◆生産と地域加工の促進 ◆加工処理技術の改善と販路の拡大
6 鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と薬草の里づくり	「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、加工・流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・高知市 ・(財)夢産地とさやま開発公社 ・鏡直販店組合 など 	<ul style="list-style-type: none"> ◆有機市民農園の開設・運営 ◆鏡川源流域での有機の里づくり ◆流通・販路の整備と新たな仕組みづくり ◆薬用植物栽培の導入

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>こうち型集落営農モデル組織の育成</p> <p>集落営農推進委員会の設置、集落実態調査、推奨品目(ニラ)の実証、営農計画の策定 など</p> <p>機械類の共同利用や共同作業の拡大、施設園芸ハウスや機械類の導入</p> <p>園芸品目等の定着と拡大、共同利用機械の導入、共同作業と受託の拡大</p> <p>こうち型集落営農の他集落への波及</p>					こうち型集落営農モデル組織(H20新規)	2組織	A
<p>集落営農組織の育成</p> <p>対象集落の選定及び意向調査の実施</p> <p>集落ビジョン及び営農計画の策定</p> <p>集落営農10組織の育成</p>					集落営農組織(累計)(H19 1組織)	10組織	
<p>生産と地域加工の促進</p> <p>加工施設として可能性のある施設の選定と活用プランの検討、関係機関との調整</p> <p>加工施設の整備</p> <p>加工施設の整備、移動</p>					四方竹の販売額(H19 3,360万円)	4,200万円	A
<p>加工処理技術の習得</p> <p>加工処理技術の改善と販路の拡大</p> <p>加工施設の改善、残渣処理施設の設置</p> <p>鮮度保持対策技術の開発</p> <p>鮮度保持対策技術の試行と販路の開拓</p> <p>鮮度保持対策技術の実践と販路の開拓</p>					*当初目標 3,700万円		
<p>有機市民農園の開設・運営</p> <p>適地調査の実施</p> <p>開設</p> <p>運営</p>					有機JAS認定事業者数(累計)(H19 2事業者)	5事業者	A
<p>鏡川源流域での有機の里づくり</p> <p>(財)夢産地とさやま開発公社による有機農業の実証</p> <p>(財)夢産地とさやま開発公社の経営及び生産体制の支援</p> <p>流通・販売戦略の展開</p> <p>加工品の開発・販売</p> <p>土づくりセンターの拡充</p> <p>新規就農者及び営農グループの育成</p> <p>有機農業の栽培技術の普及推進</p> <p>ECO農業推進検討委員会の設置</p> <p>県が行う「有機栽培技術の体系化」との連携</p>							
<p>流通・販路の整備と新たな仕組みづくり</p> <p>民間及び協議会によるモデル的な取組の実施</p> <p>モデル事例の継続実施の支援</p> <p>地産地消体制の強化</p> <p>薬用植物栽培の導入</p> <p>ホバオケラの試作と経済性の検討、ミシマサイコの普及</p> <p>産地の形成、流通の過程で必要となる施設、機械の整備</p>							

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
7 春野地区の農産物(トマト等)の付加価値向上	新たな価値を創造する野菜・果実の地区内生産と地区内農産物を活用した新たなレシピや加工品を開発するとともに、当該加工品などの販売を行う「マルシェ併設農産物加工場」を整備することで、6次産業化による春野産農産物の新たな販路確保と農家所得の向上、雇用の創出による地域の活性化を図る。	・民間事業者	◆地域内農産物を活用した新たなレシピと加工品の開発 ◆加工に適した野菜等の生産体制の整備 ◆マルシェ併設農産物加工場の整備
8 稲ホールクroppサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活	稲WCS(稲発酵粗飼料)の生産・供給により、酪農家の粗飼料自給率の向上を図るとともに、稲WCSを給餌した牛乳として付加価値を高めることで、酪農家の経営安定化を図る。	・高知市酪農農業協同組合	◆酪農飼料の自給率の向上及び牛乳の高付加価値化
9 生乳加工品の製造・販売による新しい酪農経営モデルの創出	地場産品を活用した安心・安全な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場としての牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。	・高知市酪農農業協同組合	◆地場産品による生乳加工品の製造・販売 ◆観光地及び教育の場としての牧場の活用
10 民有林における間伐の推進	建設業者等の異業種と連携した「森の工場」などによって間伐を進めるとともに、個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進により、放置林の解消につなげる。	・高知市森林組合 ・林業事業体 ・異業種(建設業者等) ・高知市 など	◆「森の工場」を核とした間伐の推進 ◆「森の工場」の拡大に向けた異業種とのコラボレーションの促進 ◆個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進
11 県産材の地域における需要拡大	県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材・木製品の地産地消を推進する。	・高知市 ・県(中央東林業事務所) ・民間事業者	◆地域内での需要拡大に向けた取組

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
					農産加工品の販売額 (H22新規)	1,855万円 (H23加工場稼働につき6ヶ月の目標)	A
					地域内農産物を活用した新たなレシピと加工品の開発		
					地域内農産物を活用した新たなレシピと加工品の開発		
					加工に適した野菜等の生産体制の整備		
					農産物の生産体制構築と安定生産・供給		
					マルシェ併設農産物加工場の整備		
					6次産業化に向けた計画の検討、関係機関との協議		
					マルシェ併設農産物加工場の整備・稼働		
					酪農飼料の自給率の向上及び牛乳の高付加価値化		
					稲WCSの実証(14ha)		
					稲WCSの生産(30ha、600t)		
					専用コンバイン・ラッピングマシン・堆肥散布機の導入		
					生産組織の育成		
					市民への牛乳の提供		
					他地域での生産拡大(新規生産集団(耕種)の育成)		
					菓子類の製造・販売		
					菓子製造の調査・研究		
					菓子製造機器の導入		
					生乳加工品の製造・販売		
					観光地及び教育の場としての牧場の活用		
					酪農教育ファーム等のふれあい機能の拡大		
					「森の工場」を核とした間伐の推進		
					森の工場の拡大、森林施業プランナーの育成、高性能林業機械の効率的な運用等		
					「森の工場」の拡大に向けた異業種とのコラボレーションの促進		
					各事業体への説明、検討会等の開催		
					新規参画事業体による各種事業の実施		
					個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進		
					検討委員会の設置、事業の手法のシステム化		
					事業実施に向けた企業の意向調査等、事業化		
					地域内での需要拡大に向けた取組		
					県産材の利用推進と使用の働きかけ(PR活動)		
					地域材を活用した木造住宅の建築促進による木材の需要拡大		

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
12 高知市バイオマスタウン構想の実施	木質バイオマスの利用拡大により、林地残材などの未活用資源の有効活用につなげるとともに、荒廃した竹林を整備し、伐採した竹をバイオマスとして有効活用することにより、竹による里山の生態系等への被害の拡大を防ぎ、もって循環型社会の形成や農山村の振興を図る。	・高知市 ・県(中央東林業事務所) ・民間事業者	◆木質バイオマスの利用拡大 ◆竹バイオマスの有効活用に向けた取組
13 底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大	高知市御豊瀬地区の底曳網による漁獲物の消費拡大に向けた取組を進め、漁家経営の安定化を図る。	・漁業者グループ	◆底曳網による漁獲物の消費拡大に向けた取組
14 冷凍ドロメの販路拡大	冷凍ドロメの販路の拡大を図り、生産量を増やすことによって、漁家所得の安定や向上につなげる。	・春野冷凍加工グループ ・どろめっ娘	◆販路拡大に向けた仕組みづくり
15 販路拡大支援の充実	地域産品の県外への販路拡大に向けた取組を進め、外貨を獲得することにより、産業の活性化につなげる。	・高知市	◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」の実施
16 土佐のものづくり企業による地産外商の推進	機械・金属を中心とした「ものづくり企業」の受注拡大や販路拡大に向けた取組により、地産産業の活性化を図り、雇用機会の増大を目指す。	・高知市雇用創出促進協議会<H22まで> ・高知市((財)高知県産業振興センター)<H23から>	◆ものづくり企業の受注拡大や販路拡大に向けた支援
17 工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化	販路の拡大や経費削減、人材育成に関するセミナーや研修など、企業等の課題に対応する情報の一元的な提供により、競争力の強化につなげる。	・高知市	◆企業等が求める産業政策に関する情報の一元的な提供
18 環境に優しい未活用資源の有効活用	各産業の連携によって、未活用食材を使った商品開発の取組を検討し、「地産地消」「地産外商」「1.5次産業」の推進を図り、産業振興を目指す。	・高知市 ・関係団体 など	◆未活用食材の商品化に向けた新市場の開拓 ◆食品加工に対する支援

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
	木質バイオマスの利用拡大 木質バイオマスの需要の把握・利用先の発掘						B
	竹バイオマスの有効活用に向けた取組 「高知市バイオマスタウン構想」の策定 事業主体への働きかけ、事業実現に向けた検討及び実施						B
	底曳網による漁獲物の消費拡大に向けた取組 事業実施主体及び生産体制の検討 加工場の検討・整備・稼働 需要拡大のためのPR活動						B
	販路拡大に向けた仕組みづくり 生産体制の強化に向けた協議 事業実施主体の決定、生産量を増やす体制の確立 生産体制の実証 販売戦略の検討 販売促進活動						B
	「こうち販路拡大チャレンジ事業」の実施 要綱の改正 事業の実施・認定事業者へのセミナー等の情報提供						B
	ものづくり企業の受注拡大や販路拡大に向けた支援 アドバイザーの確保、対象企業等の把握・リスト化、県外メーカーのリストアップ、参加企業等による実務者会の整備 県外メーカーの調査・調整等、商談会参加企業の募集 県外での商談会の開催 県外の見本市への出展企業の募集、調整等 県外の見本市への製品の出展 企業の設備状況等の情報収集 企業紹介パンフレットの作成 企業紹介ホームページの作成、管理・運営						A
	企業等が求める産業政策に関する情報の一元的な提供 情報一元化の事業計画づくり 情報一元化事業の実施						B
	未活用食材の商品化に向けた新市場の開拓 商品化実現への支援、マッチング 食品加工に対する支援 産業支援制度の活用による商品開発、製造、販売の支援						B

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容	
19	はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランに基づく中心部の活性化	「おまちの再興」「観光客を呼べるまちづくり」を目指し、「東西軸エリア活性化プラン」に基づき、官民協働でプランを推進し、幅広い経済効果やビジネスチャンスに繋げる。	高知市 ・県 ・民間事業者	◆東西軸エリア活性化プランの推進
20	中心商店街でのアンテナショップの運営	中心商店街において、常設のアンテナショップを開設し、地域製品の販売促進や都市部の住民を対象にしたマーケットリサーチにより、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加に資する。	・民間事業者	◆常設のアンテナショップの運営
21	多彩なイベントや演出等によるおまちのにぎわいづくり	せり出し市等の多彩なイベントや、フラフ等による季節的な演出などにより、おまちのにぎわいを創出する。	・商店街振興組合 など	◆せり出し商いプロジェクトの推進 ◆フラフ等で季節ごとの演出
22	おまちに関する情報発信の充実	おまちに関する情報を、より多くの人に届けるために、ガイドブック、ホームページ、ブログ等を幅広く活用し、総合的な情報発信を行う。	・民間 ・高知市	◆おまちの情報発信
23	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上	新たな高知市中心市街地活性化基本計画を策定し、多様な主体の参画のもとに、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取組を進める。	・民間事業者 ・高知市 ・関係団体 など	◆高知市中心市街地活性化基本計画の推進

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
	<p>東西軸エリア活性化プランの推進</p> <p>プランの検討・策定</p>			<p>46の事業の展開</p> <p>(1)スポット・地域ごとに実施するもの ・高知城：歴史をテーマとした新たな拠点づくり、お城の魅力向上、お城周辺のにぎわい・回遊性確保 ・追手筋：日曜市の活性化 ・追手前小学校跡地：追手前小学校跡地の活用 ・アーケード、おびさんロード：おまちの拠点づくり、おまちのにぎわいづくり、おまちの店舗対策、来街者にやさしい商店街づくり ・中央公園：中央公園の魅力アップ ・はりまや橋：はりまや橋のイメージアップ</p> <p>(2)エリア全域で実施するもの ・よさこい祭り：よさこい祭りの聖地づくり ・まんが文化：まんが文化によるにぎわいづくり ・土佐の食文化：土佐の食・酒文化のパワーアップ ・土佐の偉人：土佐の偉人のアピール</p> <p>(3)連携して実施するもの ・快適空間形成：誰もが快適に過ごせる空間づくり ・まち歩き：まち歩きの促進 ・公共交通：公共交通との連携</p>	<p>中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%)</p> <p>中心商店街等の通行量(夏期・休日) (H20 5.6万人/日)</p> <p>観光客の入込み数 (H19 230万人)</p>	<p>増加傾向に歯止め</p> <p>減少傾向に歯止め</p> <p>300万人</p>	A	
	<p>常設のアンテナショップの開設</p> <p>関係機関による協議、開設場所の調整</p>	<p>開設</p>	<p>常設のアンテナショップの運営</p> <p>アンテナショップでの地産地消・地産外販の促進、コミュニティ事業、中心商店街支援事業などの実施</p>					A
	<p>せり出し商いプロジェクトの推進</p>			<p>中心商店街でイベントと商売が一体化した事業について、関係者との協議</p> <p>21年度に続く事業内容の検討、関係者との協議・調整及び実施</p> <p>値引き市や100円商店街などのイベントの実施</p> <p>イベントの定例化、拡大化</p> <p>フラフ等で季節ごとの演出</p> <p>季節ごとに各種テーマにあわせた、商店街でのフラフ等を活用した演出の実施</p>				A
		<p>おまちの情報発信</p> <p>ガイドブック・広告の作成、中心商店街のホームページの立ち上げ、ギャラリーマップの配布</p>		<p>総合的な情報発信の実施</p>				A
	<p>高知市中心市街地活性化基本計画の推進</p> <p>高知市中心市街地活性化基本計画(素案)の作成</p>			<p>高知市中心市街地活性化基本計画の策定</p>				B

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
24	清流鏡川や浦戸湾などの地域資源の活用と近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進	地域住民・団体等 ・高知市 ・周辺市町村	◆地域資源を活かした滞在型・体験型観光の推進 ◆広域観光の推進
25	「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立	・高知市 ・高知県産「オリジナル鳴子」ブランド化検討協議会 ・高知市 ・関係団体	◆「よさこい」の海外への情報発信 ◆「よさこい」ブランドの確立 ◆年間を通じた「よさこい」の魅力づくり
26	映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致	・高知市 ・高知市旅館ホテル協同組合	◆映画の製作への支援とロケ地の観光ルート化
27	観光情報の集約と情報発信力の強化	・高知市 ・高知県旅館ホテル生活衛生同業組合 ・こうちユビキタス観光コンテンツ協同組合	◆観光及び物産に関する情報の集約と多様で効果的な情報発信
28	「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大	・高知エンジン実行委員会<H22から> ・高知市	◆「エンジン01」会員への高知の魅力のアピールを通じた県外観光客の誘致

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
地域資源を活かした滞在型・体験型観光の推進		資源の発掘、磨き上げ、商品化					
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
	広域観光の推進			周辺市町村等とのネットワークの強化による情報発信機能の強化、PR活動の充実、周遊ルートづくり			
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
	「よさこい」の海外への情報発信			外国人観光客誘致を対象としたインバウンドフェアへの参加、宣伝PR			
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
	「よさこい」ブランドの確立			「鳴子」のブランド化			
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
				年間を通じた「よさこい」の魅力づくり まちなかよさこい等の一元的な情報発信や本番以外で使用できる共用地方車等の検討・実施			
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
				映画の製作への支援とロケ地の観光ルート化 「よさこい」を題材にした映画の製作への支援 映画のロケ 映画の上映 ロケ地の観光ルート化への取組			
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
				観光及び物産に関する情報の集約と多様で効果的な情報発信 あらゆる情報の集約と情報発信のあり方の検討 Webマガジン「旅色」高知版の構築・掲載 魅力ある情報の発信 ユビキタス観光システムの構築、運用			
					観光客の入込み数 (H19 230万人)	300万人	A
				「エンジン01」会員への高知の魅力のアピールを通じた県外観光客の誘致 「オープンカレッジin高知」準備委員会及び実行委員会の発足、先進地調査 「オープンカレッジ」プレイベントの開催、「オープンカレッジ」の開催 「オープンカレッジ」の開催期間中の会員への高知の「食」の魅力のアピール 「エンジン01」会員とのネットワークを活かした、交流人口の拡大及び地場産品のPR			

【高知市地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
29 温泉開発による観光地としての魅力の向上	観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。	・高知市旅館ホテル協同組合(高知市旅館ホテル温泉協同組合)	◆温泉の開発と活用
30 「龍馬伝」を契機とした観光の振興	坂本龍馬の志や生き様に触れようと、全国から数多くの龍馬ファンや観光客が訪れる中で、2010年のNHKの大河ドラマ「龍馬伝」を契機として、さらなる観光振興につなげる。	・高知市 ・高知市観光協会 ・特定非営利活動法人土佐観光ガイドボランティア協会 ・特定非営利活動法人きりこまち都市づくり	◆龍馬の新たな魅力づくりと観光客の受入体制の充実 ・龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～ ・高知市観光遊覧船 ◆外国人観光客の受入体制の整備
31 食による観光の推進と地域物産との連携	高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。	・高知市 ・はりまや橋商店街振興組合	◆地域物産の活用と名産品の育成
32 土佐の偉人ゆかりの地の魅力向上と情報発信	坂本龍馬を始めとする土佐の偉人ゆかりの地の魅力を高めるとともに、県外に情報発信することで、観光客の誘客を図る。	・高知市 関係団体 ・全国龍馬ファンの集い実行委員会 ・瑞山記念館運営委員会	◆長宗我部関連等の魅力づくり ◆龍馬関連イベントの充実 ◆武市半平太の生家周辺の観光資源の磨き上げ

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
					観光客の入込み数〔再掲〕 (H19 230万人)	300万人	B
	温泉の開発と活用	実現に向けた検討及び実施					
	龍馬の新たな魅力づくりと観光客の受入体制の充実						
	○龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～ まち歩きコースや案内看板等の整備 ○高知市観光遊覧船 高知市観光遊覧船の運営体制の強化	龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～の魅力向上	高知市観光遊覧船の魅力向上	外国人観光客の受入体制の整備 観光案内版の外国語表記の推進、外国語による観光情報の発信			
		「土佐・龍馬であい博」の開催、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送	「志国高知龍馬ふるさと博」の開催	NHK大河ドラマ「龍馬伝」の海外での放送			A
		地域物産の活用と名産品の育成					A
	検討会の設置、新たな「食」のメニューコンテストの実施及び試作 間伐材を利用した「はりまや箸」の製造ルートの確保	名物料理提供店舗のネットワークづくり、マーケティング 「はりまや箸」の提供	名物料理提供店舗のマップづくりなど情報発信の強化				A
		長宗我部関連等の魅力づくり	関連史跡等の整備				A
		長宗我部ゆかりのマップ作成、レンタサイクルの検討等					A
		龍馬関連イベントの充実					A
		全国龍馬ファンの集い高知大会の準備	全国龍馬ファンの集い高知大会の開催				A
				武市半平太の生家周辺の観光資源の磨き上げ 瑞山記念館の展示のリニューアル			A

Ⅱ 各地域の展望と具体的な取組

4 嶺北地域

4 嶺北地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

当地域の総人口は著しい減少傾向にあり、平成 17 年の国勢調査では 15,036 人となっています。また、少子化及び高齢化が急速に進行し、人口構成は 65 歳以上の高齢者が 43.6%を占め、生産年齢人口は 47.7%にとどまっています。

基幹産業である第一次産業では、環境保全型農業や森林認証（SGEC）の取得など、先進的な取組が進められていますが、全体としては、就業者の高齢化及び後継者不足などの課題があります。

農業は、水稻の単作経営を中心に、野菜や花きの栽培が行われていますが、価格の低迷が続き、生産額は減少傾向にあります。また、畜産業についても、長引く市場価格の低迷や飼料の高騰などにより、厳しい経営状況にあります。

当地域の豊富な森林資源は、他地域に比べ成熟度が高いものの、木材価格の低迷などによって、厳しい林業経営を強いられています。その一方で、国際的な木材の需給の状況や地球温暖化の防止等に対する森林への関心の高さなどを背景にした国産材の見直しの動きや、大型製材工場等の進出の動きも見られます。

商工業は、基幹産業である農業・畜産業・林業の低迷や過疎化による購買力の減少に加え、道路事情の変化などによる地域外への購買力の流出により、厳しい状況にあります。その一方で、独自のアイデアで商品開発を行い、インターネットを活用した販売方法で成果を上げている事業体も見受けられます。

観光面では、豊かな自然環境に加え、様々な歴史・文化的資源を有しており、近年は、ラフティング等の新たなレジャーも定着しつつありますが、短期通過型の観光客の増加にとどまっており、地域経済への波及効果は不十分な状況にあります。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

当地域では、豊かな自然環境や地域資源など、地域が共有してきた財産を新たな視点でとらえ、“れいほく”として広域的に組み合わせ、“環境”をキーワードにした産業の展開を図ります。また、碁石茶や米粉の製造・販売など、中山間地域の暮らしを支える多角的なビジネスの構築を目指します。

農業分野では、「れいほく八菜」などの環境保全型農業を推進し、先進地としての確立を図ることにより、所得の向上を目指します。また、農業生産の維持や担い手の確保等に向け、JA出資型法人を設立し、所得の向上や就業機会の創出に取り組みます。畜産の分野においては、「土佐褐毛和種」や「大川黒牛」といった伝統ある畜産業の経営安定化への取組を進めるとともに、新たな畜産業として「土佐はちきん地鶏」の生産拠点を目指します。

林業分野では、「森の工場」を中心にして事業体や担い手の育成を図り、恵まれた森林資源の適正な育成管理を行いながら、計画的な木材の増産に取り組めます。また、木材の高付加価値化のための森林認証（SGEC）の取得の拡大や、住宅の基本構造体をキット商品化した「れいほくスケルトン」など、地域で共同して嶺北材の販路拡大に取り組むとともに、大型製材工場の受入れや加工施設の設置等の条件整備などを進めることにより、木質バイオマス利用拡大を含め、林業・木材産業の再生を図ります。

商工業分野では、消費者ニーズの多様化に対応するため、商工会等と連携して、ITを活用したネットビジネスの手段を商業者に提供するなど、地域の商工業の育成を図ります。また、大阪府にある土佐産直サテライトセンター（とさ千里）を関西圏における地産外商、情報発信の拠点として、多様なビジネスを展開をします。

観光分野では、早明浦ダムや白髪山等の活用、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色ある取組などを横断的につなぎ、“れいほく”の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信により、交流人口の拡大を図ります。

(3) 重点的に取り組む施策

- “れいほく”ブランドの園芸産地の確立及びユズ加工の拠点化
(「れいほく八菜」、「れいほく八恵」、「れいほく八花」などの振興)
- 肉用牛産業の経営安定化及び新たな畜産業の展開
(「嶺北牛」の振興及び「土佐はちきん地鶏」の定着)
- 嶺北材の増産及び販路拡大
(計画的な路網整備と間伐の推進、「れいほくスケルトン」の施工性能の向上等)
- 大型製材工場の誘致
- ITを活用した新たな商業の展開
(地域産品を販売するポータルサイトの構築)
- 地産外商の拠点づくり
(土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の活性化)
- 広域観光の仕組みづくり
(広域連携による観光情報の一元化や観光ルートづくり)

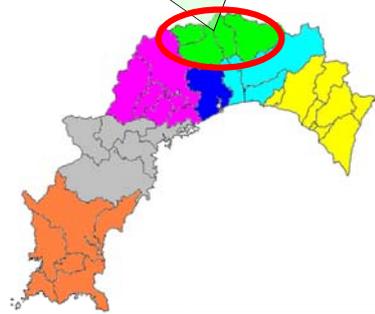
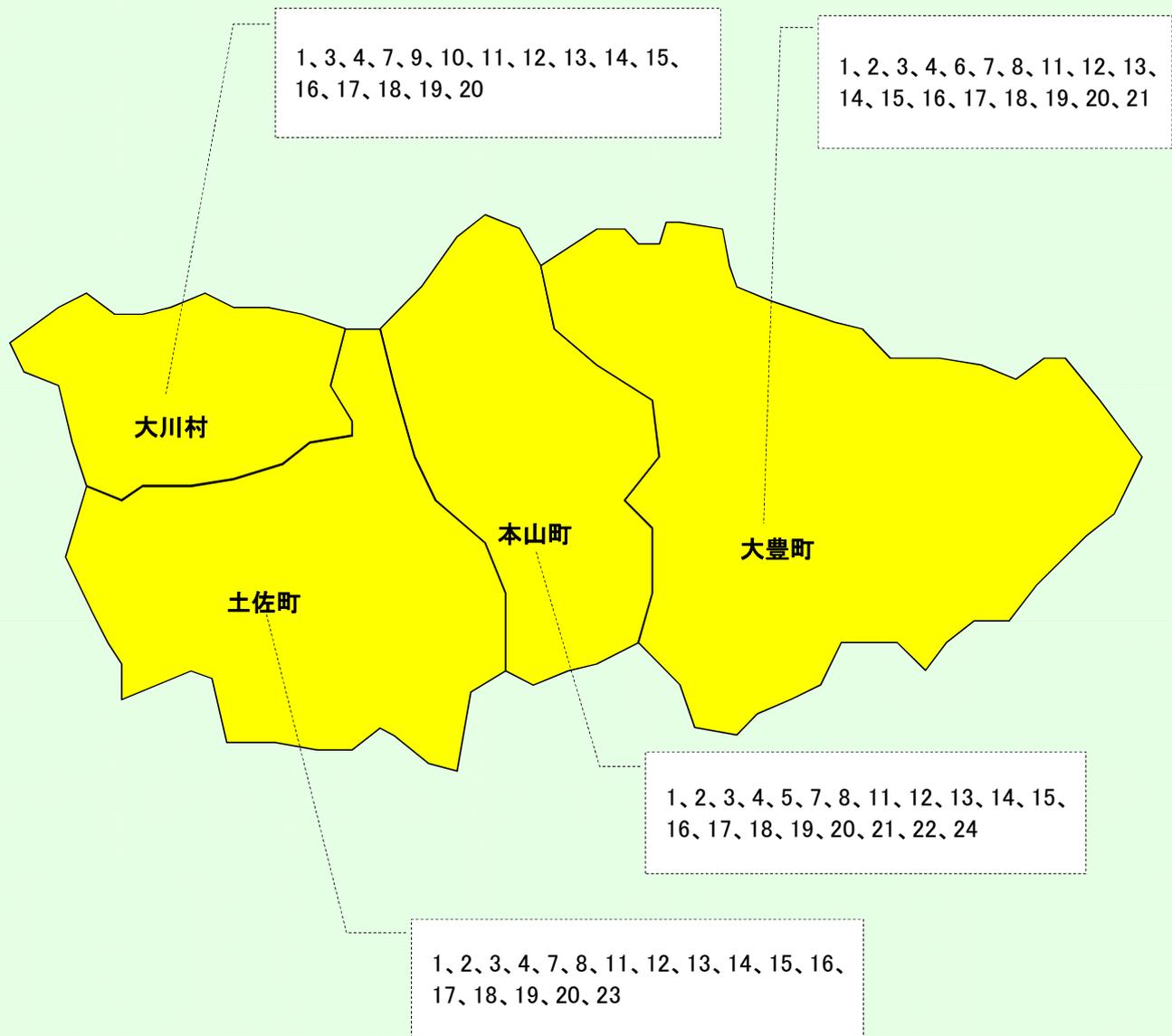
(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
「れいほく八菜」の販売額	H19 : 3.0 億円	H23 : 3.5 億円
「れいほく八恵」のユズ加工品の販売額	H19 : 3.4 億円	H23 : 4.5 億円
「れいほく八花」の販売額	H19 : 1.1 億円	H23 : 1.2 億円
こうち型集落営農における担い手組織の農産物販売額	H20 新規	H23 : 1,300 万円
米粉等の販売額	H20 新規	H23 : 7,000 万円
碁石茶の販売額	H19 : 0.1 億円	H23 : 1 億円
肉用牛の販売額	H19 : 2.7 億円	H23 : 3.3 億円
「土佐はちきん地鶏」の出荷羽数	H19 : 1 万羽	H23 : 10 万羽
間伐の実施面積	H19 : 1,000ha	H19~23 計 : 8,000ha
木材の素材生産量	H18 : 7.5 万m ³	H23 : 8.4 万m ³
「れいほくスケルトン」の販売棟数	H19 : 10 棟	H19~23 計 : 190 棟
公共関連宿泊施設での宿泊者数	H19 : 8,975 人	H23 : 10,000 人

(5) 具体的な取組

No.	項目	本 山 町	大 豊 町	土 佐 町	大 川 村
1	れいほくブランドの園芸産地の確立	●	●	●	●
2	ユズ産地の確立と加工拠点づくり	●	●	●	
3	集落営農で元気な地域づくり	●	●	●	●
4	米粉を活用したビジネスの展開	●	●	●	●
5	米のブランド化による稲作農業の展開	●			
6	㈱大豊ゆとりファームを核とする碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組		●		
7	JA出資型法人による地域活性化の取組	●	●	●	●
8	肉用牛飼育の競争力の確保による肉用牛産業の再興	●	●	●	
9	大川黒牛の再興による地域の活性化				●
10	土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開				●
11	間伐推進と木材増産による林業振興	●	●	●	●
12	「れいほくスケルトン」の性能向上及び販売促進	●	●	●	●
13	県産材の地域における率先利用	●	●	●	●
14	木工製品の製造・販売による地域の活性化	●	●	●	●
15	特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり	●	●	●	●
16	大型製材工場の誘致による地域材の利用の促進	●	●	●	●
17	木質バイオマス利用拡大の取組	●	●	●	●
18	地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信	●	●	●	●
19	土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の拠点づくり	●	●	●	●
20	嶺北地域の連携による交流人口の拡大	●	●	●	●
21	濁酒等を活用した地域資源との連携による地域の活性化	●	●		
22	白髪山・工石山を活用した交流人口拡大による地域活性化の取組	●			
23	早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組			●	
24	滞在型市民農園の推進による地域の活性化	●			

【嶺北地域】



【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
1 れいほくブランドの園芸産地の確立 《嶺北地域全域》	「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、「れいほく八菜」、「れいほく八花」のブランド化に向けた取組のレベルアップを行う。	・JA土佐れいほく(園芸部会、花き部会、直販生産部会)	◆「れいほく八菜」の生産技術の高度化 ◆「れいほく八花」の生産拡大 ◆有利販売に向けた販売戦略の展開
2 ユズ産地の確立と加工拠点づくり 《大豊町、本山町、土佐町》	「環境」、「安全・安心」をキーワードにした園芸品のブランド化により、農業所得の向上を図るため、ユズのブランド化に向けた取組のレベルアップを行うとともに、ユズの加工拠点づくりに向けた取組を進める。	・嶺北地域果樹(ユズ)産地協議会 ・JA土佐れいほく	◆ユズの生産拡大と高付加価値化
3 集落営農で元気な地域づくり 《嶺北地域全域》	集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。	・吉延営農組合(本山町) ・伊勢川営農組合(土佐町) ・その他の集落営農組織等	◆こうち型集落営農モデル組織の育成 ◆集落営農組織等の育成及び経営改善

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
						「れいほく八菜」の販売額(H19 3.0億円)	3.5億円	A
「れいほく八菜」の生産技術の高度化								
		基幹品目の生産技術の高度化						
		有望品目の定着と生産技術の確立						
				有望品目の生産拡大				
						「れいほく八花」の販売額(H19 1.1億円)	1.2億円	A
「れいほく八花」の生産拡大								
花き振興方針の策定								
		ノーブルの球根増殖・養成						
			生産戸数・生産量の拡大					
			ブランド化PR活動					
有利販売に向けた販売戦略の展開								
販売戦略の策定								
		嶺北版ISO、GAPの実施						
		高知市及び高松市における拠点づくりと販売強化		拠点における販売強化				
		系統販売における大消費地での販売強化						
						ユズ加工品の販売額(H19 3.4億円)	4.5億円	A
ユズの生産拡大と高付加価値化								
		ユズ産地構造改革計画の検討	ユズ産地構造改革計画の策定	計画の着実な実施				
		ユズ加工場の増設計画の検討	ユズ加工場の増設	ユズ加工品の増産・販売増				
		栽培管理技術の向上 新植者への幼木管理指導、担い手となる生産者の育成						
						こうち型集落営農における担い手組織の農産物販売額(H20新規)	1,300万円	A
こうち型集落営農モデル組織の育成								
集落営農推進委員会の設置、集落実態調査、有望品目(ショウガ等)の実証、営農計画の策定等	機械類の共同利用や共同作業の拡大、施設園芸ハウスや機械類の導入		園芸品目等の定着と拡大	営農計画の実践、こうち型他集落への波及				
		集落営農組織及び準じる組織の育成及び経営改善				集落営農組織及び準じる組織(累計)(H20 3組織)	8組織	
		対象集落の選定、意向調査の実施など集落営農組織及び準じる組織の体制整備						
			集落営農組織(こうち型を含む。)及び準じる組織の経営改善					

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>4 米粉を活用したビジネスの展開 《嶺北地域全域》</p>	<p>米粉の製造・販売や米粉加工商品の開発・販売、関西圏をターゲットにした、安心・安全な食の提供による地産外商など、米粉を活用したビジネスを展開し、新たな雇用の創出につなげる。</p>	<p>・JA土佐れいほく ・米米ハート</p>	<p>◆米粉ビジネスの展開 ◆土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))での米粉ビジネスの展開 ◆「米粉の里構想」の実現</p>
<p>5 米のブランド化による稲作農業の展開 《本山町》</p>	<p>消費者が求めるブランド力のある米の生産により、価格のアップを図り、後継者が将来に展望を持つことができる稲作農業を確立するため、良好な水田環境など地域の特性を付加価値とすることや、室戸海洋深層水を栽培過程で使用することによる新しいブランド米の構築に向けた取組を進める。</p>	<p>・本山町特産品ブランド化推進協議会 ・本山町 ・(財)本山町農業公社</p>	<p>◆米のブランド化による稲作農業の展開</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
					米粉等の販売額 (H20新規)	7,000万円	A
<p>米粉ビジネスの展開</p> <p>嶺北米粉検討会の立上げ</p> <p>販売戦略の検討</p> <p>米粉製造施設・設備の整備、米粉加工製造施設・設備の整備(土佐町内)</p>	<p>米粉用品種の選定と技術の確立</p> <p>販売戦略の検討・構築</p> <p>米粉ビジネスの開始(米粉製造、加工商品の開発・製造・販売)</p>	<p>米粉原料米の生産拡大</p> <p>米粉原料米の安定生産</p> <p>米粉ビジネスの展開(販路拡大、商品開発)</p>	<p>米粉原料米の安定生産</p> <p>米粉ビジネスの展開(販路拡大、商品開発)</p>	<p>米粉原料米の安定生産</p>			
					米粉等の販売額 (H20新規)	7,000万円	A
<p>「米粉の里構想」の実現</p> <p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p> <p>「米粉の里構想」の検討・実現</p>	<p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p> <p>「米粉の里構想」の検討・実現</p>	<p>土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))での米粉ビジネスの展開</p> <p>バン・菓子工房施設・設備の整備、営業開始、米粉・米粉加工商品の販売開始</p> <p>米粉ビジネスの展開</p>	<p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p> <p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p> <p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p>	<p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p> <p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p> <p>米粉プロジェクトチームの立上げ</p>			
					ブランド米の販売額 (H20 417万円)	7,500万円	A
<p>米のブランド化による稲作</p> <p>市場調査、試食アンケート、販売戦略の検討</p> <p>美味しい米づくりの栽培法の確立</p> <p>米・食味鑑定士協会への「環境特A地区」の申請・認定</p>	<p>農業の展開</p> <p>商品開発から市販への取組</p> <p>米・食味鑑定士協会への「環境王国」の申請・認定</p>	<p>商品増産及び新たな商品開発</p> <p>ブランド米の生産増、販路拡大</p> <p>美味しい米づくりの栽培法の検証</p>	<p>商品増産及び新たな商品開発</p> <p>商品増産及び新たな商品開発</p> <p>商品増産及び新たな商品開発</p>	<p>商品増産及び新たな商品開発</p> <p>商品増産及び新たな商品開発</p> <p>商品増産及び新たな商品開発</p>			

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>6 榑大豊ゆとりファームを核とする碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組</p> <p>《大豊町》</p>	<p>中山間で安心して住み続けることができる地域を実現するため、多角的に展開する拠点型ビジネスの仕組みづくりを行う。</p>	<p>・大豊町 ・榑大豊ゆとりファーム ・大豊町碁石茶生産組合 ・東庵谷集落「せせらぎ会」など</p>	<p>◆遊休農地を活用したビジネスの展開</p> <p>◆野菜等の地産地消ビジネスの展開</p> <p>◆加工品づくりビジネスの展開</p> <p>◆ふるさと支援ビジネスの展開</p>
<p>7 JA出資型法人による地域活性化の取組</p> <p>《嶺北地域全域》</p>	<p>農業者の減少に伴い農業生産の維持や担い手の確保、耕作放棄地の解消などが課題となっている。これらの課題解決を図り農業所得の向上と就業機会を創出するため、JA土佐れいほくが地域農業の新たな担い手としてJA出資型法人を設立し、農作業受託や遊休農地等を活用した農業経営、就農希望者の研修事業などを実施する。</p>	<p>・JA土佐れいほく ・JA出資型法人 （(株)れいほく未来）</p>	<p>◆JA出資型法人の設立</p> <p>◆JA出資型法人による事業展開</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>遊休農地を活用したビジネスの展開</p> <p>農作業の受託ビジネスの展開</p> <p>農作業の受託ビジネスの拡大</p> <p>碁石茶の製造に係る設備やユズ園管理収穫機器類等の導入・整備など</p> <p>碁石茶の生産体制・基盤の構築、碁石茶の生産増・販売増</p>					<p>碁石茶の販売額 (H19 0.1億円)</p>	<p>1.0億円</p>	<p>A</p>
<p>野菜等の地産地消ビジネスの展開</p> <p>生産農家の出荷品目量や集荷ルートの調査</p> <p>生産農家への生産指導</p> <p>生産基盤体制・配送出荷システムの構築</p> <p>生産基盤・配送システムの定着</p> <p>販売拠点整備の調査</p> <p>販売拠点の検討</p> <p>販売拠点の整備</p> <p>販売拠点での販売強化・販売増</p> <p>販売促進活動</p> <p>販売促進活動の強化</p>							
<p>加工品づくりビジネスの展開</p> <p>研究機関との連携による地域資源商品の開発研究</p> <p>地域資源商品の開発、民間企業との連携による販売促進活動</p>							
<p>ふるさと支援ビジネスの展開</p> <p>就農支援システムの検討</p> <p>就農支援システムの構築、ビジネス化</p> <p>地域の担い手づくり、雇用の場の確保</p> <p>東庵谷集会所「せせらぎ庵」の改修</p> <p>都市との交流事業の展開</p>							
<p>JA出資型法人の設立</p> <p>設立検討委員会での検討 関係者の合意形成</p> <p>設立準備部署での事業計画の作成等設立準備法人の設立</p> <p>JA出資型法人による事業展開</p> <p>管理運営体制の整備</p> <p>作業受託や育苗事業、農業経営などの準備・実施</p> <p>農業用機械施設の整備</p>							

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>8 肉用牛飼育の競争力の確保による肉用牛産業の再興</p> <p>《本山町、土佐町、大豊町》</p>	<p>肉用牛産業の再興を図り、土佐褐毛和種の産地としての活力を取り戻すため、飼養者の競争力を確保する。</p>	<p>・本山町 ・土佐町 ・大豊町</p>	<p>◆飼養者の競争力を確保するための取組</p>
<p>9 大川黒牛の再興による地域の活性化</p> <p>《大川村》</p>	<p>大川村の基幹産業である肉用牛生産(大川黒牛)の再興を図り、地域の活性化につなげるため、地域内での一貫生産体制の堅持に向けた取組を進める。</p>	<p>・大川村 ・大川村和牛生産組合 ・(株)むらびと本舗</p>	<p>◆一貫生産体制の堅持に向けた取組</p>
<p>10 土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開</p> <p>《大川村》</p>	<p>土佐はちきん地鶏の生産拠点として事業の展開を図り、新しい地場産業として発展させ、雇用の確保、農家所得の向上につなげる。</p>	<p>・大川村ふるさとむら公社 ・大川村 ・(株)むらびと本舗</p>	<p>◆生産・加工・流通・販売体制の整備</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
					肉用牛(土佐褐毛和種)の販売額 (H19 2.0億円)	2.3億円	B
飼養者の競争力を確保するための取組							
研修生の募集及び受入体制の整備	研修生の受入れ						
公営放牧場の整備場所の検討(本山町)							
公営放牧場及び付属施設(簡易畜舎等)の整備							
肉用子牛の取引価格の補てん、一貫・肥育農家に対する運転資金の貸付け							
牧草確保のための施設及び機械の整備							
牛肉の加工技術の習得及び加工品の商品化							
					肉用牛(大川黒牛)の販売額 (H19 0.7億円)	1.0億円	B
一貫生産体制の堅持に向けた取組							
飼育組織の体制づくり	繁殖素牛の導入、粗飼料の基盤整備、生産～出荷～販売のシステムづくり			(株)むらびと本舗による事業展開			
					「土佐はちきん地鶏」の出荷羽数 (H19 1万羽)	10万羽	A
生産・加工・流通・販売体制の整備							
種鶏・生産・孵卵施設の稼働開始(生産開始)	種鶏・生産・孵卵施設のフル稼働	専用処理施設の検討・整備					
3万羽の雛の生産	7万羽の雛の生産(出荷雛を含む。)		12万羽の雛の生産(出荷雛を含む。)				
村内農家での飼育開始							
5万羽の飼育	6万羽の飼育	10万羽の飼育					
2万羽の生産体制の整備	10万羽の生産体制の整備						
商品の販路開拓・開発、加工品の開発・販路開拓							

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
11 間伐推進と木材増産による林業振興 《嶺北地域全域》	嶺北地域の豊かな森林資源を活かし、生産者の経営の安定化を図るとともに、「新生産システム」により、地域に計画されている大型製材工場への木材の安定供給に寄与するため、作業道を中心とした計画的な路網整備と間伐の推進による木材の増産に取り組む。	・森林所有者 ・森林組合 ・素材生産事業者 ・建設業者 ・自伐林家 など	◆森の工場の推進 ◆林業事業者の育成 ◆林業の担い手の育成確保 ◆放置林の解消
12 「れいほくスケルトン」の性能向上及び販売促進 《嶺北地域全域》	住宅の基本構造体をキット商品化した「れいほくスケルトン」の性能向上、販売促進に向けた取組により、嶺北材の販路拡大を図る。	・嶺北材ブランド化協議会 ・民間事業者	◆企画・品質管理 ◆普及・啓発
13 県産材の地域における率先利用 《嶺北地域全域》	地域内で生産された木材や製材品は、大部分が県外へ出荷されていることから、地域内で率先的に利用することにより、地産地消を推進する。	・民間事業者 ・各町村 など	◆地域内での消費拡大に向けた取組

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>森の工場の推進</p> <p>森林所有者との協議会の開催、事業計画書の作成、森林施業の長期受託、利用間伐の推進</p>					<p>間伐の実施面積 (H19 1,000ha)</p> <p>木材の素材生産量 (H18 7.5万㎡)</p>	<p>8,000ha (H19~23計)</p> <p>8.4万㎡</p>	A
<p>林業事業体の育成</p> <p>作業道適地マップの作成、建設業者や森林所有者等の関係者との協議、施業プランの作成</p>							
<p>林業の担い手の育成確保</p> <p>補助事業における作業効率化対策、U・Iターン者への研修、就業へのコーディネート</p>							
<p>放置林の解消</p> <p>所有者への働きかけ、境界の確定、有利な補助事業による間伐の実施</p>							
<p>企画・品質管理</p> <p>タイプ(バリエーション)の拡充、プラン集の作成</p> <p>床・壁パネルの商品化</p> <p>品質管理</p>							
<p>普及・啓発</p> <p>セミナーの開催、現地見学会の開催</p> <p>モデルハウス(土佐町営住宅)等の建設</p> <p>販路拡大PR(スケルトン、床・壁パネル)</p>							
<p>地域内での消費拡大に向けた取組</p> <p>公共施設及び公共事業等での県産材の利用拡大、民間施設における県産材に触れる空間の拡大、県産材を利用した木製品の需要拡大</p>							
							A

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
14 木工製品の製造・販売による地域の活性化 《嶺北地域全域》	人にやさしい木工製品の企画・製造・販売を促進し、嶺北産材の良さや手づくりの良さのPRにより、地域の新たな特色ある取組に育て、地域の活性化に結びつける。	・ばうむ合同会社 ほか	◆企画・製造・販売の促進
15 特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり 《嶺北地域全域》	小規模・分散化している生産者を集約し、地域内の豊富な特用林産物(シキミ、サカキ)を収益につなげるため、地区単位での生産体制と出荷体制の整備による拠点づくりを行う。	・生産者 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村 ・(財)本山町農業公社	◆地区単位での生産体制と出荷体制の整備による拠点づくり
16 大型製材工場の誘致による地域材の利用の促進 《嶺北地域全域》	大型製材工場の誘致により地域材の利用を促進し、林業従事者の増加や所得の向上、事業体による雇用の促進へとつなげる。	・事業協同組合(予定) ・県(嶺北林業振興事務所、木材産業課) ・大豊町 など	◆大型製材工場の誘致
17 木質バイオマス利用拡大の取組 《嶺北地域全域》	嶺北地域に民間事業者による加工施設を設置すること等により、木質バイオマスの利用拡大と林業の活性化を図る。	・民間事業者等	◆加工施設の設置・事業展開 ◆木質バイオマスボイラー等の導入設置

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
18 地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信 《嶺北地域全域》	地域産品を販売するポータルサイトを構築し、ネットビジネスのできない商業者にその手段を提供することにより、ポータルサイト運営者や商業者の所得の向上、地域の情報発信に結びつける。	(株)れいほく未来 ポータルサイト利用事業者 土佐町雇用創造協議会	◆地域産品を販売するポータルサイトの構築
19 土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の拠点づくり 《嶺北地域全域》	土佐産直サテライトセンター(とさ千里)を関西圏におけるアンテナショップとして、米粉を活用したビジネスの展開や、「れいほく八菜」をはじめとする嶺北地域や高知県の産品を取り扱う地産外商の拠点となるように取組を進める。	㈱とさ千里 JA土佐れいほく	◆経営戦略の構築・展開 ◆仮店舗での売上げ向上の取組 ◆新店舗での事業展開
20 嶺北地域の連携による交流人口の拡大 《嶺北地域全域》	観光を軸にして、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色ある取組などを横断的につなぐ場と仕組みをつくることにより、「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信により、交流人口の拡大を目指す。	各事業実施団体 (各町村、各町村観光協会等) 嶺北地域観光・交流推進協議会	◆観光を軸にした地域間連携の仕組みづくり
21 濁酒等を活用した地域資源との連携による地域の活性化 《大豊町、本山町》	地域の特産品となる濁酒等の製造・販売と地域の観光資源との連携によって、交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。	生産者 大豊町濁酒協議会 生産者グループ(想定)	◆濁酒等を活用した地域活性化の取組

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
<p>地域産品を販売するポータルサイトの構築</p> <p>数社の取扱いでサイトを開設</p>	<p>土佐町内の事業者を中心に運営</p>	<p>嶺北地域の事業者を対象に取組を拡大</p> <p>運営主体の検討</p>	<p>嶺北地域のポータルサイトとして販売促進活動を展開</p> <p>(株)れいほく未来による事業展開</p>		ポータルサイトで販売額 (H20新規)	1,200万円	A	
<p>経営戦略の構築・展開</p>	<p>経営戦略の検討・構築・展開(米粉活用のビジネス、「れいほく八菜」等の販売)</p>					土佐産直サテライトセンター(とさ千里)の販売額 (H19 0.8億円)	1.5億円	A
<p>仮店舗での売上げ向上の取組</p> <p>売上げ向上のための知名度アップ、高知県内34市町村との連携による取組 など</p>		<p>新店舗での事業展開</p> <p>米工房等の米粉ビジネス、「れいほく八菜」等の地産外商の拠点としての仕組みづくり</p> <p>米粉加工製造・販売施設及び設備の整備、パン輸送車両の整備</p> <p>高知県内34市町村との連携による取組</p>	<p>米工房等の米粉ビジネス、「れいほく八菜」等の地産外商の拠点としての事業展開</p>				A	
<p>観光を軸にした地域間連携の仕組みづくり</p>	<p>4町村連携の取組についての協議場の設定(協議会等)</p>	<p>4町村連携の仕組みづくり</p> <p>コーディネート組織の検討</p>			公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 8,975人)	10,000人	A	
<p>各種事業の実施</p>	<p>連携事業の実施</p>	<p>情報発信</p> <p>連携事業の拡充</p>						
<p>濁酒等を活用した地域活性化の取組</p> <p>構造改革特区の申請・認定、農家レストラン又は農家民宿による地域活性化の方策の決定</p>		<p>濁酒等生産農家のグループ化の検討・実施</p>	<p>地域特産となる濁酒等加工品の開発・販売</p>				B	
	<p>観光イベントや観光施設との連携による濁酒等のPR・販売の検討・事業展開</p>							

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>22 白髪山、工石山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組</p> <p>《本山町》</p>	<p>白髪山、工石山(奥工石)の有する豊かな自然、貴重な地質や森林資源などを活かした取組や嶺北地域の他の資源との連携も視野に入れた取組を進め、交流人口の拡大を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間団体等(未定) ・本山町 	<ul style="list-style-type: none"> ◆仕組みづくり(推進体制・事業内容) ◆受入体制の整備(ソフト) ◆受入体制の整備(ハード)
<p>23 早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組</p> <p>《土佐町》</p>	<p>早明浦ダムでの釣大会の開催、遊覧船・ウォータースポーツなど湖面を活用したレジャープラン等の実施、また嶺北地域内の他資源とも連携して取り組む等、早明浦ダムを核とした交流人口の拡大を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間団体等(H23年度以降の事業主体未定) ・土佐町雇用創造協議会 ・土佐町 	<ul style="list-style-type: none"> ◆早明浦ダムを活用した交流人口拡大の取組

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
							C
	<p>仕組みづくり(推進体制・事業内容)</p> <p>関係者による検討・協議 (組織・事業内容等)</p>	<p>推進組織の検討・立ち上げ</p> <p>事業内容の検討・決定</p>					
	<p>受入体制の整備(ソフト)</p>	<p>案内コースの検討・策定、案内人の育成</p> <p>地質、生態等の調査・検討</p>		<p>ガイドブック、紹介ビデオの作成等 PR関係事業の実施</p>			
	<p>受入体制の整備(ハード)</p>	<p>歩道の整備・休憩用等のベンチの整備</p>	<p>看板表示等の整備</p>				B
	<p>早明浦ダムを活用した交流人口拡大の取組</p>	<p>事業調査・研究</p> <p>事業実施主体の検討・決定(立ち上げ)</p> <p>事業内容の検討・選定</p> <p>事業展開</p>					

【嶺北地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>24 滞在型市民農園の推進による地域の活性化 《本山町》</p>	<p>本山町内に滞在型市民農園(クラインガルテン)を整備し、都市部の住民の農業や田舎暮らしへの関心を高めて地域への移住や2地域居住につなげ、産業の活性化・雇用の創出・交流人口の拡大・農業の担い手づくり等による地域の活性化を図る。</p>	<p>・本山町</p>	<p>◆滞在型市民農園の開設 ◆移住者受け入れの推進</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
		<p>滞在型市民農園の開設</p> <p>施設整備の準備 事業計画書の作成 地元への事業説明 用地交渉</p>	<p>施設整備 用地買収 施設の詳細設計 施設工事</p>	<p>施設運営</p>			
		<p>移住者受け入れの推進</p> <p>空き家調査、地域との交流事業</p>	<p>PR活動、利用者募集、移住者受け入れ</p>				

A

Ⅱ 各地域の展望と具体的な取組

5 仁淀川地域

5 仁淀川地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

当地域の総人口は減少傾向にあり、平成17年の国勢調査では91,720人となっています。また、少子化及び高齢化が進行し、人口構成は65歳以上の高齢者が約30%を占め、生産年齢人口は約58%となっています。

当地域は、施設園芸等の農業や紙産業など、水資源とつながりがある産業に支えられており、仁淀川を介した自然、生活文化との関わりが強い地域であるといえます。

当地域の農業は、仁淀川の下流域を中心とする平地・丘陵地農業と、上流域を中心とする中山間地農業からなり、特に、下流域は、県内屈指の農業地帯として発展してきましたが、近年は、農家人口の減少や農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加など、農業を取り巻く状況は大きく変化し、地域全体で厳しさを増しています。

林業については、上流域を中心にして豊富な森林資源の供給地区となっていますが、長引く木材価格の低迷や林業従事者の減少と高齢化により、安定的な供給に支障をきたすなど、厳しい状況に直面しています。その一方で、国際的な木材の需給の状況や、地球温暖化の防止等に対する森林への関心の高さなどを背景に、国産材を見直す動きが見られます。

当地域で行われている海面漁業は、大消費地である高知市近郊という地の利はあるものの、魚価の低迷や資材などの高騰、漁業就業者の高齢化と後継者の減少といった問題を抱えています。

市街地を中心とした商業は、大型量販店等の進出などによる人の流れの局地化や高知市への購買力の流出により、商店街の活力が低下しています。また、製造業の核となる紙産業は、多種多様な品目の生産がなされ、国際的に大きなシェアを占める企業も見られますが、製紙工業会からは、「エネルギー」や「物流」、「地産地消」分野への対策が課題として上げられています。一方、手すき和紙については、高い品質と伝統に支えられてはいるものの、職人の高齢化が進み、後継者対策が喫緊の課題となっています。

観光面では、自然環境を活かした体験型の施設もあり、連携による発展の可能性が見込まれるものの、面的なつながりが弱く、相乗効果が生じていない状況にあります。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

当地域では、清流「仁淀川」を軸に、仁淀川流域の保全や流域圏の活性化など、広域的な取組がなされています。それを基礎にして、海・川・山の恵まれた自然環境や土佐和紙に代表される伝統文化など、地域の資源や特色を活かしながら、下流域の市街地から上流域の山岳地域まで流域全体で多様な展開を図ります。

農業分野では、立地条件を活かし、野菜、花き、果樹等の施設園芸を主体とした基幹品目の振興をはじめ、高糖度トマトの生産・出荷体制の強化を図ります。また、良質茶の主産地である仁淀川流域の共通ブランドとして、「仁淀川流域茶」（仕上げ茶）の販売の拡大や、ミシマサイコ、サンショウ等の薬用作物の生産の拡大を目指します。さらに、土佐文旦と新高梨の新たな販路の開拓や加工品の開発などに取り組みます。

林業分野では、杉・ヒノキを中心とする優良材を安定的に供給するため、「森の工場」を核にして事業者や担い手の育成に取り組み、間伐の面的な拡大と素材の増産を図ります。併せて、加工・流通体制を整備し、消費者ニーズに対応した高品質の製品づくりや流通コストの低減などに取り組み、林業・木材産業の再生を図ります。また、シキミ・サカキなどの特産林産物の生産・販売の拡大に向けた取組を進めます。

水産業分野では、地域の特産品である「宇佐のうるめ」を活用した新たな加工品の開発や生鮮品の販路の開拓などにより、消費の拡大を図ります。また、地域限定の名物食として、観光分野と連携したPR活動を行うなど、ブランド化に取り組みます。

商工業分野では、商工会等との連携による商店街の活性化、地域資源を活用した特産品や新しい紙製品の開発などに取り組みます。また、地域の伝統産業である「土佐和紙」については、販売を促進するため、県外へのPR活動や県内の学校及び公共団体等での消費拡大に向けた取組を進めます。

観光分野では、太平洋や仁淀川、四国山地といった恵まれた自然環境や地域資源を活かして、体験型観光や食観光を推進するとともに、関係機関・団体等と連携して広域的なネットワーク化を進め、一体的な情報発信を行うなど、魅力ある観光地づくりと受入れ体制の充実を図ります。

(3) 重点的に取り組む施策

- 地域の特色を活かした多様な農業の展開
(基幹品目の生産性及び品質の向上、高糖度トマトの新たなブランドの立上げ、「仁淀川流域茶」のブランド化、薬用作物の産地の拡大)
- 「森の工場」などによる間伐の推進
(事業体や担い手の育成)
- 「宇佐のうるめ」の消費拡大
(地域の特産品のブランド化)
- 「土佐和紙」の販売の促進
(手すき和紙の県内外での消費拡大)
- 滞在型・体験型観光の仕組みづくり
(広域連携による体験型観光や食観光の推進)

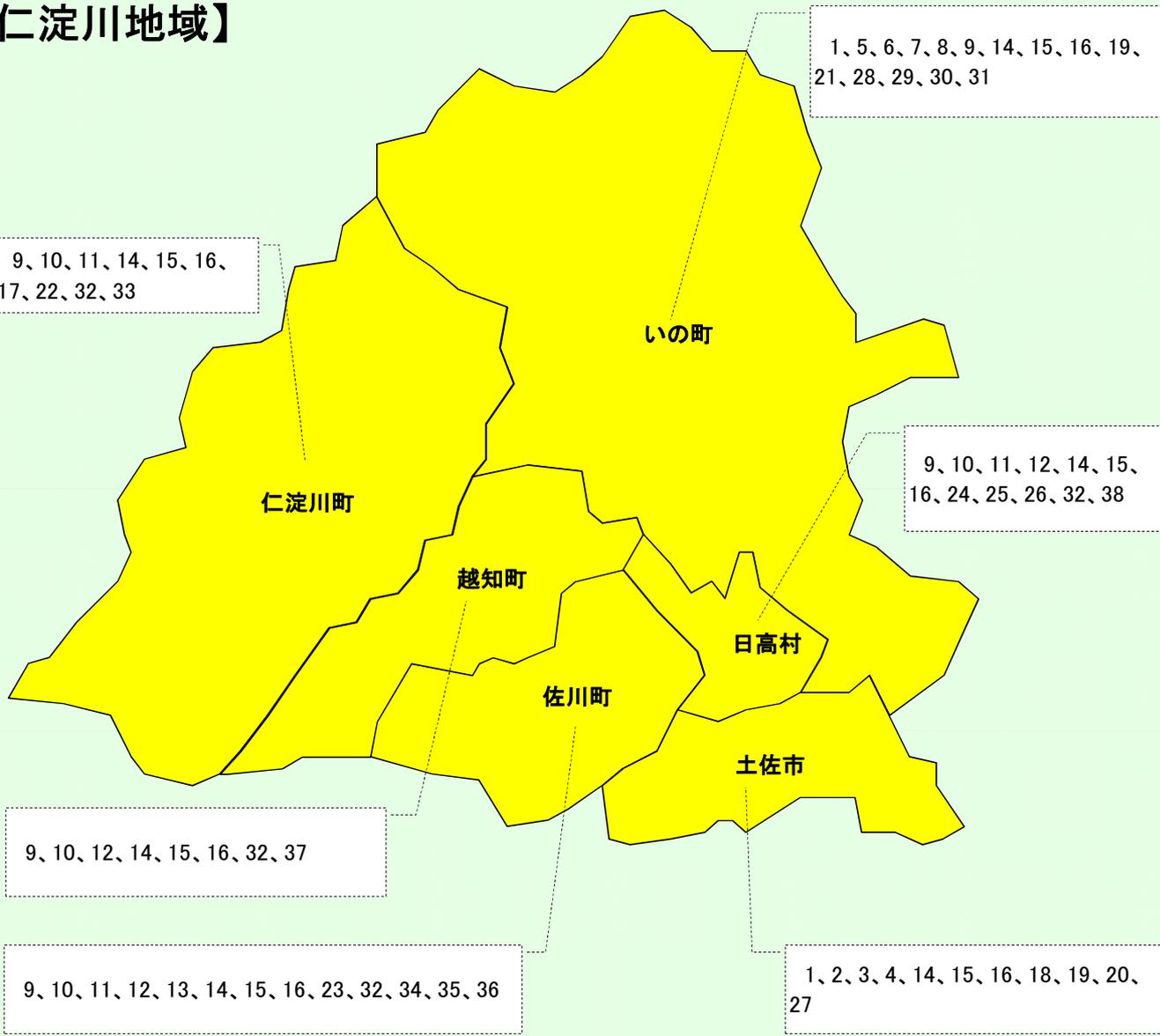
(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
ニラの販売額	H19 : 4 億円	H23 : 5.5 億円
高糖度トマトの販売額	H19 : 2.9 億円	H23 : 5 億円
仁淀川流域茶（仕上げ茶）の販売量	H19 : 茶全体の 7%	H23 : 茶全体の 15%
薬用作物の作付面積	H19 : ミマサイコ 38ha サシヨウ 12ha	H23 : ミマサイコ 55ha サシヨウ 40ha
木材の素材生産量	H18 : 6.3 万m ³	H23 : 7.1 万m ³
うるめの水揚量	H19 : 119 t	H23 : 150 t
土佐和紙の販売額	H19 : 1.6 億円	H23 : 1.6 億円
公共関連宿泊施設での宿泊者数	H19 : 52,156 人	H23 : 60,000 人

(5) 具体的な取組

No.	項目	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
1	地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展	●	●				
2	加工用ワサビの加工の促進	●					
3	土佐文旦の加工	●					
4	生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)	●					
5	集落営農の推進		●				
6	新高梨の加工		●				
7	本川キジの販路確保と新たな商品開発		●				
8	給食への食材提供(安定的な出荷先の確保)		●				
9	仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興		●	●	●	●	●
10	薬用作物の産地拡大による所得の向上			●	●	●	●
11	力強い高精度トマト産地の確立			●	●		●
12	地域を支える基幹品目の振興				●	●	●
13	集落営農による地域にあった農業の仕組みづくりの推進				●		
14	間伐の推進	●	●	●	●	●	●
15	㈱ソニアを核とする仁淀川流域における木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
16	県産材の地域における需要拡大	●	●	●	●	●	●
17	シキミ・サカキの販売拡大			●			
18	うるめのブランド化	●					
19	「土佐和紙」の販売促進	●	●				
20	高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興	●					
21	地域産品を活用した冷菓等の製造		●				
22	㈱フードブランの地域商社化への取組			●			
23	売れる商品づくりによる地産外商の推進				●		
24	企業進出による雇用の増と地元企業の活性化						●
25	地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)						●
26	企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業)						●
27	体験型観光・食観光の推進	●					
28	体験型観光メニューづくり		●				
29	「仁淀川」での遊覧船(屋形船)の運航		●				
30	「グリーンパークほどの」の多面的な活用		●				
31	「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」を活用した交流人口の拡大		●				
32	仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大			●	●	●	●
33	観光情報のコーディネートと情報発信拠点の設置			●			
34	歴史的風致維持向上計画の推進				●		
35	佐川町における知的体験型観光の推進				●		
36	佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化				●		
37	越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進					●	
38	国宝と体験型観光による交流人口の増と地域の活性化						●

【仁淀川地域】



【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>1 地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展</p> <p>《土佐市、いの町》</p>	<p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。</p>	<p>・JAとさし ・JAコスモス ・県(中央西農業振興センター)</p>	<p>◆基幹品目及び推進品目の拡大、栽培技術の向上</p> <p>◆集出荷体制の整備</p>
<p>2 加工用ワサビの加工の促進</p> <p>《土佐市》</p>	<p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを加工出荷する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p>	<p>・(株)マルカ ・県(中央西農業振興センター)</p>	<p>◆加工出荷施設の整備</p>
<p>3 土佐文目の加工</p> <p>《土佐市》</p>	<p>地域の主要品目である土佐文目の県内市場の飽和化、贈答需要の減少による単価安へ対応するため、加工品の原料としての有効活用を図る。</p>	<p>・JAとさし ・土佐文目加工組合 ・菊水酒造㈱</p>	<p>◆土佐文目の加工の促進</p>
<p>4 生姜の加工(生姜出荷施設整備事業)</p> <p>《土佐市》</p>	<p>地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市内等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p>	<p>・(株)前川博之商店</p>	<p>◆加工等出荷施設の整備</p>
<p>5 集落営農の推進</p> <p>《いの町》</p>	<p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>・いの町吾北上東地区</p>	<p>◆こうち型集落営農モデル組織の育成</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>基幹品目及び推進品目の拡大、栽培技術の向上</p> <p>収量及び品質の向上、経営改善、環境保全型農業の推進、生産コストの削減、各種実証ほ場の設置、「学び教えあう場」の設置</p> <p>《地域の基幹品目及び推進品目》メロン・キュウリ・ピーマン・ニラ・シントウ・ショウガ・ブタン・ナシ・小夏・ユズ・ユリ・加工用ワサビ・青ねぎ</p>					<p>ニラの販売額 (H19 1.2億円)</p> <p>ショウガの販売額 (H19 3.4億円)</p> <p>土佐文旦 (H19 1.7億円)</p>	<p>2.1億円</p> <p>4.2億円</p> <p>2.2億円</p>	A
<p>集出荷体制の整備</p> <p>JAとさし西部集出荷施設整備</p> <p>青ねぎ組合せ計量結束 パーシャル自動包装機整備</p> <p>ピーマン集出荷場整備</p>							
<p>基幹品目及び推進品目の拡大、栽培技術の向上(再掲)</p> <p>収量及び品質の向上、経営改善、環境保全型農業の推進、生産コストの削減、各種実証ほ場の設置、「学び教えあう場」の設置</p> <p>《地域の基幹品目及び推進品目》メロン・キュウリ・ピーマン・ニラ・シントウ・ショウガ・ブタン・ナシ・小夏・ユズ・ユリ・加工用ワサビ・青ねぎ</p>					<p>加工用ワサビの 加工出荷量 (H21 60t)</p>	130t	A
<p>加工出荷施設の整備</p>							
<p>土佐文旦の加工の促進</p> <p>加工用原料の生産状況の実態調査</p> <p>加工品の開発についてのコンサルタントへの依頼、加工事業に係る協議会の設置、先進地視察</p> <p>加工用原料としての販路の開拓</p> <p>加工品の開発、加工事業についての協議</p> <p>リキュール・菓子用原料提供</p> <p>文旦ジュース「ぶんぶん」のPR及び販路拡大等の検討</p> <p>加工品の消費拡大方法を検討</p> <p>加工用原料向けの省力栽培技術の検討</p>					<p>加工品の販売</p> <p>規格外品の原料確保</p>	<p>2品目</p> <p>80t</p>	A
<p>加工等出荷施設の整備</p> <p>・フレッシュ生姜包装機の導入 ・漬物用充填機の導入</p> <p>・生産工場の新設</p>					<p>生姜加工品の販売額 (H22 87,000千円)</p>	102,000千円	A
<p>こうち型集落営農モデル組織の育成</p> <p>意向調査の実施、集落座談会の開催、集落ビジョン及び営農ビジョンの作成</p> <p>集落営農組織の設立</p> <p>共同の取組、組織運営</p> <p>園芸品目(有望品目)の実証</p> <p>有用品目の生産拡大</p> <p>農作業受委託関係の倉庫の整備及び機械の導入</p> <p>農作業受委託関係の機械の導入</p> <p>農作業受委託面積拡大についての支援</p>					<p>地域の協業の取り組み</p> <p>農作業延べ受託面積</p> <p>新部門設立</p>	<p>1.9ha</p> <p>24ha</p> <p>2部門</p>	A

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
6 新高梨の加工 《いの町》	生理障害等により廃棄処分されている新高梨を有効活用して新商品を開発し、販売を促進することにより、農業者の所得の向上を図る。	・JAコスモス	◆新高梨の新商品の開発と販売の促進
7 本川キジの販路確保と新たな商品開発 《いの町》	いの町本川地区の特産品として、「本川キジ」の販路の拡大や新商品の開発に取り組み、中山間地域における新たな産業として定着させる。	・本川きじ生産組合	◆生産体制の強化 ◆販売の安定化
8 給食への食材提供(安定的な出荷先の確保) 《いの町》	学校給食へ地元食材を提供するシステムを構築し、供給量を拡大することにより、地産地消や安全・安心な食材の提供を推進するとともに、農業者の所得の向上につなげる。	JAコスモス	◆学校給食へ地元食材を提供するシステムの構築
9 仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興 《仁淀川町、越知町、佐川町、日高村、いの町》	良質茶の主産地である仁淀川流域の共通ブランドとして、「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、効率的な生産体制の整備や、新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。	・JAコスモス ・管内の茶生産組織	◆仁淀川流域で統一したブランド(仁淀川流域茶)の確立 ◆生産の仕組みづくり(受委託、ゆい等) ◆加工品の開発

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
<p>新高梨の新商品の開発と販売の促進</p> <p>農業者の意向調査の実施</p> <p>加工品の試作(シャーベット、酒類)、試験販売</p> <p>関係機関の役割分担の検討</p>					<p>新高梨開発中(酒類等)</p> <p>加工用原料提供</p> <p>加工品の販売及びPRの検討</p> <p>関係機関の役割分担の明確化及び協力体制の構築</p>	<p>加工品の販売</p> <p>規格外品の原料確保</p>	<p>1品目</p> <p>7t</p>	A
<p>生産体制の強化</p> <p>解体加工処理施設整備</p> <p>コウライキジ飼養マニュアルの作成</p>					<p>生産から販売までを検討する定例会の開催</p> <p>給水設備・真空包装機の整備</p> <p>庭先農家の飼育鶏舎の増築</p> <p>種卵用成鶏飼育施設、排水処理施設、脱羽機の整備</p> <p>庭先農家を増やし生産量拡大を検討</p> <p>安定した養殖技術の習得</p>	<p>本川キジの生産</p> <p>羽数(H20 1,000羽)</p>	<p>4,500羽</p>	A
<p>販売の安定化</p> <p>試食会開催</p>					<p>新商品開発</p> <p>ネット販売の検討、市場調査</p> <p>PR用品(チラシ・のぼり)の作成</p> <p>加工マニュアルの作成</p> <p>各種イベントでのPR、販路拡大(商談会参加)</p> <p>安定した販路の確保</p>			
<p>学校給食へ地元食材を提供するシステムの構築</p> <p>需要調査(学校栄養士等)生産者の実態調査</p>					<p>供給体制の検討</p> <p>安定供給できる直販組織の検討</p> <p>学校給食への食材提供</p> <p>関係機関及び業者との調</p> <p>関係機関の役割分担および協力体制の構築</p> <p>学校での出前授業の実施</p>			B
<p>仁淀川流域で統一したブランド(仁淀川流域茶)の確立</p> <p>取組主体組織の立上げ</p> <p>仁淀川流域茶の共通ポスター等の製作</p> <p>ラジコン動噴・裾落とし機・剪枝機の整備</p>					<p>仁淀川流域茶のブランド化による販売促進及び消費拡大</p> <p>生産の仕組みづくり(受委託、ゆい等)</p> <p>生産実態調査、受託組織の育成・支援</p> <p>加工品の開発</p> <p>加工品(ほうじ茶、紅茶など)の開発(ハード整備)</p>	<p>仁淀川流域茶(仕上げ茶)の販売量</p> <p>(H19 茶全体の7%)</p>	<p>茶全体の15%</p>	A

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>10 薬用作物の産地拡大による所得の向上</p> <p>《越知町、佐川町、日高村、仁淀川町》</p>	<p>大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコやサンショウなどの薬用作物の産地を大手製薬会社の漢方薬の需要増に対応できるように拡大し、育成することにより、所得の向上と就労の場の確保を図る。</p>	<p>・ヒューマンライフ土佐 ・県(高吾農業改良普及所)</p>	<p>◆薬用作物の産地の育成</p>
<p>11 力強い高糖度トマト産地の確立</p> <p>《日高村、仁淀川町、佐川町》</p>	<p>地域の特産品の高糖度トマトに新たなブランドを加えることにより、付加価値を高め、産地間競争力を強化し、生産者の所得の向上につなげる。</p>	<p>・JAコスモス ・JAコスモストマト生産部</p>	<p>◆高糖度トマトの産地間競争力の強化</p>
<p>12 地域を支える基幹品目の振興</p> <p>《越知町、佐川町、日高村》</p>	<p>中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p>	<p>・JAコスモス ・JAコスモス各生産部会 ・越知町山椒生産組合</p>	<p>◆栽培技術の向上、安定的な生産の維持 ◆山椒の安定的な栽培技術の確立、加工品の開発と販売</p>
<p>13 集落営農による地域にあった農業の仕組みづくりの推進</p> <p>《佐川町》</p>	<p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>・佐川町平野集落</p>	<p>◆こうち型集落営農モデル組織等の育成</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>薬用作物の産地の育成</p> <p>新品目の取組の開始(クテナシ、コメなど)</p> <p>乾燥施設の設置の検討</p>	<p>共同作業等の実施(根切り、洗浄、乾燥など)</p> <p>乾燥機及び予冷库等の整備、拠点共同作業場の整備</p> <p>ミシマサイコの水田地帯での栽培検討(実証展示)</p> <p>ミシマサイコの土壌病害虫対策の検討(実証展示)</p>				<p>薬用作物の作付面積</p> <p>ミシマサイコ (H19 38ha)</p> <p>サンショウ (H19 12ha)</p>	<p>55ha</p> <p>40ha</p>	A
<p>高糖度トマトの産地間競争力の強化</p> <p>選果ラインの改修計画の作成</p> <p>販促資材の検討</p>	<p>選果ラインの改修、生産者番号の記載</p> <p>ビジネスアドバイザーによる販売計画作成・実行</p> <p>出荷予測システムの検証</p> <p>作物残渣の適正な処理方法の検討</p>	<p>出荷予測システムの構築と整備(PC等のハード整備)</p> <p>グローバルGAPの導入に向けた体制の構築</p>	<p>出荷予測システムの精度の向上</p>		<p>高糖度トマトの販売額 (H19 4億円)</p>	5億円	A
<p>栽培技術の向上、安定的な生産の維持</p> <p>収量及び品質の向上、GAPの推進、生産組織の育成、多様な販売方法の検討及び企画、ニラ等の生産施設の整備、「学び教えあう場」の設置</p> <p>《地域の基幹品目》ニラ、ピーマン、サンショウ、水稻等</p>					<p>ニラの販売額 (H19 2.8億円)</p> <p>ピーマンの販売額 (H19 1.0億円)</p>	<p>3.4億円</p> <p>1.3億円</p>	A
<p>山椒の安定的な栽培技術の確立、加工品の開発と販売</p>	<p>栽培指針の作成と見直し</p> <p>加工商品の試作</p> <p>加工商品のイベント販売</p> <p>加工商品のアイテムの増加</p> <p>加工商品の販路の拡大</p>				<p>食用山椒の販売額 (H19 4,250万円)</p>	6,200万円	
<p>こうち型集落営農モデル組織等の育成</p> <p>集落ビジョン・行動計画の作成(意向調査)</p> <p>集落営農組織の育成</p> <p>有望品目の検討</p>	<p>営農計画の決定</p> <p>集落営農組織の設立</p> <p>園芸品目の選定</p> <p>基盤整備(高上げ、せま直し)</p>	<p>集落営農組織の運営・管理方法の検討</p> <p>園芸品目の生産拡大</p> <p>基盤整備、共同利用機械・施設の整備</p>			<p>集落営農組織 (H20新規)</p>	1組織	A

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
14 間伐の推進 《仁淀川地域全域》	「森の工場」を核にして、林業事業体や担い手の育成などに取り組み、間伐の推進と素材の増産を図る。	・森林組合 ・林業事業体 など	◆「森の工場」の実施と樹立 ◆森林計画の樹立と計画的な施業の実行 ◆林業事業体の育成 ◆担い手の育成
15 ㈱ソニアを核とする仁淀川流域における木材産業の振興 《仁淀川地域全域》	仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、㈱ソニアを核とする流域の製材工場等の経営体質の強化など、加工・流通の安定化に向けた取組を進め、木材産業の振興を図る。	・㈱ソニア ・各事業体 ・各市町村 ・県(中央西林業事務所、木材産業課) など	◆流域産材の加工・流通の安定化に向けた取組
16 県産材の地域における需要拡大 《仁淀川地域全域》	県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材・木製品の地産地消を推進する。	・各市町村 ・県(中央西林業事務所) など	◆県産材の地域内での需要拡大に向けた取組
17 シキミ・サカキの販売拡大 《仁淀川町》	シキミ・サカキの生産量の増加等に対応した集出荷施設の整備や、品質向上のための取組などにより、販売を拡大し、生産者の所得の向上を図る。	・JAコスモス	◆シキミ・サカキの生産の拡大と品質の向上
18 うるめのブランド化 《土佐市》	「宇佐のうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により、需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供できる体制づくりにより、観光分野への経済効果の波及を目指す。	・企業組合 宇佐もん工房	◆「宇佐のうるめ」のブランド化

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>「森の工場」の実施と樹立</p> <p>新規1工場の樹立</p> <p>新規3工場の樹立</p> <p>新規2工場の樹立</p> <p>「森の工場」の樹立</p>					<p>木材の素材生産量 (H18 6.3万㎡)</p>	<p>7.1万㎡</p>	<p>A</p>
<p>森林計画の樹立と計画的な施業の実行</p> <p>施業計画の樹立</p> <p>施業計画の樹立</p> <p>施業計画の樹立</p> <p>集約化計画の推進</p> <p>経営計画(仮称)の樹立支援</p>							
<p>林業事業体の育成</p> <p>林業事業体の育成・指導</p>							
<p>担い手の育成</p> <p>「森の工場」における新規就労者の確保</p>							
<p>流域産材の加工・流通の安定化に向けた取組</p> <p>製材工場等の経営体質の強化等</p> <p>事業者へのアンケート調査を実施</p>							
<p>県産材の地域内での需要拡大に向けた取組</p> <p>県産材の利用推進と使用の働きかけ(PR活動)</p>							A
<p>シキミ・サカキの生産の拡大と品質の向上</p> <p>集出荷施設の整備</p> <p>栽培指針の作成</p> <p>生産者台帳の整備</p> <p>栽培指導等</p>					シキミ・サカキの出荷量 (H19 22t)	26t	A
<p>「宇佐のうるめ」のブランド化</p> <p>製品開発に向けた準備 (地域関係者による体制づくり、新たな加工品の試作、鮮魚販売ルートの検討)</p> <p>新製品及びメニューの開発、加工品の試作</p> <p>試験販売、イベント等でのうるめのPR、販路の開拓</p> <p>組織体制の確立 (企業組合化)</p> <p>地元でのうるめ料理の提供</p> <p>加工規模の拡大</p> <p>販路の拡大</p>					うるめの水揚量 (H19 119t)	150t	B

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
19 「土佐和紙」の販売促進 《いの町、土佐市》	地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙の県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。	・手すき和紙協同組合 ほか	◆「土佐和紙」の消費拡大に向けた取組
20 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興 《土佐市》	土佐市の「高岡日曜市」の臨時拡大版である「あつたか高岡スーパー日曜市」を開催し、高岡商店街で楽しめるスペースをつくること、サンシャイン高岡跡地にテナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることにより来街者の増加を図り、地域の商業の振興につなげる。	高岡商店街活性化協議会 ・土佐市商工会 ・土佐市街路市販売組合 ・土佐市 など	◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり
21 地域産品を活用した冷凍等の製造 《いの町》	地域産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。	・(有)高知アイス	◆冷凍等製造施設設備の整備 ◆販路拡大・販売促進 ◆商品開発
22 惣フードプランの地域商社化への取組 《仁淀川町》	仁淀川町において、地域の商社として「惣フードプラン」を位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。	・惣フードプラン ・仁淀川町	◆カット野菜事業の主力商品づくり ◆新商品の開発
23 売れる商品づくりによる地産外販の推進 《佐川町》	佐川町において、地元民間企業の商品の販売の促進や、一次産品を使った特長のある商品づくりにより、地産外販を推進し、外貨の獲得を目指す。	・佐川町 ・地元酒造会社 ・JAコスモス ・佐川町商工会 ・企画本舗さかわ屋 ・地元乳業会社 ・地元酪農家 ・加エグループくろいわ	◆地元産品による売れる商品づくり

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>「土佐和紙」の消費拡大に向けた取組</p> <p>地産地消の推進</p> <p>「土佐和紙まつり」の開催(東京)</p> <p>国等の補助事業の導入についての検討・調整</p> <p>東京ギフトショーへのテスト出展</p> <p>「国際版画トリエンナーレ展」の開催に併せたイベントの開催</p> <p>共同販売組織による新たな販路拡大・PRの取組</p> <p>国等の補助事業の活用による商品開発や共同販売組織の設立等の関連施策の実施</p>					土佐和紙の販売額	1.6億円	B
<p>高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり</p> <p>高岡日曜市の臨時拡大版である「あったか高岡スーパー日曜日」の開催</p> <p>高岡日曜市の臨時拡大版である「あったか高岡スーパー日曜日」の開催(年4回)</p> <p>サンシャイン高岡跡地活用策検討 ・弁当・総菜の製造販売(規格外野菜の活用) ・にぎわいのまちづくり</p> <p>にぎわいのまちづくり施設整備(サンシャイン高岡跡地)</p>							
<p>冷菓等製造施設設備の整備</p> <p>品質管理室整備 ・冷蔵保管庫設置 ・付属品取付機械導入 ・梱包印字機導入 ・浄化槽の設置</p> <p>販路拡大・販売促進</p> <p>・展示・商談会への参加</p> <p>海外向けHPの制作 ・パンフレット(国内外向け)</p> <p>商品開発</p> <p>・顧客に対応した商品開発の強化</p>					冷菓等の販売額	3.825億円	A
<p>カット野菜事業の主力商品づくり</p> <p>「大根けん」の販売促進活動</p> <p>食品加工場の専用水道施設等の整備</p> <p>販路の拡大等への取り組みの継続</p> <p>新商品の開発</p> <p>緑茶による商品の開発</p> <p>緑茶パウダー製造用粉碎機の設置</p> <p>試作品の試験販売等を実施し、新商品の開発を継続</p> <p>充填豆腐加工用ラインの整備</p>					惣フードプランの販売額	2.6億円(H22.10~23.9)	A
<p>地元産品による売れる商品づくり</p> <p>販売促進活動の検討、商品づくりのための素材の検討</p> <p>商品づくりの検討、高付加価値化の検討、流通経路の検討</p> <p>地元生産生乳の販売促進体制の検討、地元生産牛乳を使った加工商品づくり販促体制の検討、地元生産牛乳をさかかわの地乳(ちちち)としてPRによる消費拡大</p> <p>加工乳製品への高付加価値化の検討、加工商品の商品化、流通システムの検討</p> <p>加工商品の加工施設整備</p> <p>販促管理、商標管理等の組織の構築</p>					生乳出荷量拡大	480t	
					生産乳価向上	単価50%増	
					加工業者収入増		

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
24 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化 《日高村》	日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取組を進めるとともに、地域資源を活用した企業の取組等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。	・日高村	◆既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興
25 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業) 《日高村》	高知県産のさつま芋を活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。	・滋谷食品㈱	◆自社ブランド製品(芋菓子)製造の専用工場の整備と販路拡大
26 企業進出による雇用の増(ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業) 《日高村》	木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇用を創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量を調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。	・(有)エスエス	◆ペット用木質系排泄物処理剤の製造施設の誘致
27 体験型観光・食観光の推進 《土佐市》	土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。	・土佐市 ・土佐市商工会 など	◆体験型観光及び食観光の推進
28 体験型観光メニューづくり 《いの町》	いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。	・いの町観光協会	◆体験型観光推進のためのメニューづくり
29 「仁淀川」での遊覧船(屋形船)の運航 《いの町》	全国的な知名度が低い「仁淀川」を総合的に売り出すため、近畿・関東地方の旅行業関係者の関心が高い、遊覧船(屋形船)の運航に向けた取組を進める。	・〈仮称〉屋形船実行委員会(※新規設置予定)	◆遊覧船(屋形船)の運航の実現に向けた取組

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興</p> <p>役場内での研究会の設置、既存企業の訪問、既存企業の連携等による活性化につながる方策等の検討、県との連絡会の開催、企業誘致に関する研修会の開催、企業誘致のための方策等の検討</p>							B
<p>自社ブランド製品(芋菓子)製造の専用工場の整備と販路拡大</p> <p>高知市内へのアンテナショップの出店</p> <p>新ブランドの専用工場の増設、販路拡大、インターネット等での拡大</p> <p>県外へのアンテナショップの展開</p>					食品加工新規部門の販売額 (H21.7 2.0億円)	3.5億円 (H23.7)	A
<p>ペット用木質系排泄物処理剤の製造施設の誘致</p> <p>事業者による設置場所等の検討</p> <p>事業者による整備計画の検討・施設の整備</p> <p>関係者・機関等との調整等</p> <p>施設の稼働・事業者による販売促進</p> <p>事業者による販売促進</p>					ペット用木質系排泄物処理剤の販売額 (H22新規)	3,400万円	A
<p>体験型観光及び食観光の推進</p> <p>組織づくり、実践メニューづくり、商品開発、県内外へ向けた情報発信、総合的な環境整備の検討</p> <p>各種メニュー等の実践、広域観光構想との調整</p>					公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人)	60,000人	B
<p>体験型観光推進のためのメニューづくり</p> <p>資源の掘り起こし及びメニューづくり</p> <p>仁淀川流域での情報の一元化に向けた検討会の開催</p> <p>体験メニュー(ラフティング・まちあるき等)の試行及び体制づくり</p> <p>仁淀川地域観光協議会の設立</p> <p>地域での食の観光強化。B級グルメの開発及び体制づくり</p> <p>体験メニューの人材育成、売出し及び実施</p> <p>流域観光マップの作成</p> <p>新たな体験メニューの検討及び既存メニューのブラッシュアップ</p> <p>体験メニューの本格的実施及びPR</p>							B
<p>遊覧船(屋形船)の運航の実現に向けた取組</p> <p>諸調査の実施(先進地視察調査、コース選定調査、事業化調査)</p> <p>事業化に向けた準備(実施団体の確定、各種関係団体との協議等)及びデモの実施</p> <p>上流部での事業化の可能性調査を検討</p> <p>本格実施及びPRの取組</p>							B

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
30 「グリーンパークほどの」の多面的な活用 《いの町》	「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。	・いの町	◆「グリーンパークほどの」の環境学習の場としての活用
31 「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」を活用した交流人口の拡大 《いの町》	「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の地理的な条件を活かし、アスリート等を対象にした高地トレーニングや、高地を活用した健康増進メニューの開発を行い、他の観光資源とも組み合わせることにより、体験型観光を推進する。	・いの町	◆「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の多面的な活用
32 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大 《佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、津野町、橋原町》	横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせ、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。	・佐川町	◆「世界ジオパーク」の認証に向けた広域的な取組
33 観光情報のコーディネートと情報発信拠点の設置 《仁淀川町》	仁淀川町において、情報発信基地の整備や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。	・仁淀川町内の観光関連企業	◆情報発信基地の整備 ◆観光情報ネットワークの構築 ◆おもてなし活動の実施

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
	<p>「グリーンパークほどの」の施設整備計画の策定</p> <p>環境教育の項目及び新エネルギー・省エネルギー啓発項目等の決定、先進施設等の視察研修の実施、PR資料の作成</p>	<p>環境学習の場としての活用の町環境学習シンポジウムの開催</p> <p>継続的な環境学習実施に向け、体験プログラムの内容強化充実及び環境先進企業へのPR強化教育関係機関へのPR</p> <p>環境先進企業へのPR活動</p>	<p>継続的な環境学習実施に向け、体験プログラムの内容強化充実及び環境先進企業へのPR強化教育関係機関へのPR及び体験学習実施</p>			<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数【再掲】(H19 52,156人)</p> <p>60,000人</p>	B
<p>「山荘しらす」と「町道瓶」高地トレーニングの実施に向けた中学校陸上部との協議</p>	<p>「森線」の多面的な活用 中学校陸上部による高地トレーニングの実施と効果の検証</p>	<p>町外のスポーツ関係機関への高地トレーニングのPR</p> <p>健康ウォーキングを観光メニュー化に向けて試行検</p>	<p>健康ウォーキングを商品化に向けて旅行社と協</p> <p>観光シーズンにおける交通について検討と試行</p>				B
	<p>「世界ジオパーク」の認証に向けた広域的な取組</p> <p>協議会の設置・運営</p> <p>勉強会等の開催</p> <p>勉強会・研究会等の開催</p> <p>情報収集、今後の対応等の検討</p> <p>ジオサイトの選定とジオツーリズムの検討</p> <p>パンフレット等の情報発信ツールの作成</p> <p>ガイドの養成</p> <p>ジオパークの普及啓発(説明会等の実施)</p> <p>モニターツアーの実施</p> <p>案内看板、ビジターセンターなどの基盤整備等</p>						B
	<p>情報発信基地の整備</p>	<p>観光情報拠点の検討</p> <p>観光情報拠点の整備</p> <p>観光情報拠点の完成及び移動</p> <p>ホームページの立上げ、観光情報パンフレットの作成及び啓発</p> <p>観光コーディネーターの雇用</p>					B
<p>観光情報ネットワークの構築</p>	<p>観光情報ネットワーク設立の準備</p>	<p>観光情報ネットワークの検討、設立、連携活動の実施</p> <p>体験型観光メニューの検討、モニターツアーの実施</p>	<p>観光資源との連携の検討及び観光メニュー化、ツアー商品化。</p>				
	<p>おもてなし活動の実施</p> <p>観光案内板及び観光スポットの補修箇所等の調査～整備、補修の実施</p> <p>観光案内ガイドの発掘と育成</p> <p>観光コミュニケーション施設の活用検討</p>	<p>伝統的観光資源の後継者の育成</p> <p>観光コミュニケーション施設の整備、補修など。</p>					

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
34 歴史的風致維持向上計画の推進 《佐川町》	「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。	・佐川町	◆一体的な歴史的風致の形成
35 佐川町における知的体験型観光の推進 《佐川町》	佐川町の歴史街では、「学ぶ楽しみ・触れる楽しみ・交わる楽しみ・五感の楽しみ」大人の知的好奇心を刺激する「佐川学」による観光を目指し、重より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、交流人口の拡大につなげる。	・佐川町	◆知的体験型観光の集客拡大のための条件整備
36 佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化 《佐川町》	佐川町には偉人の多くの収蔵資料があり、特に植物学者として世界的に著名な牧野富太郎博士にちなんだ収蔵資料が多くある。この植物標本や植物画等の展示施設を整備し、集客の核として充実を図る。また、佐川町では、平成24年には牧野博士の生誕150年にあたり、ポスト「龍馬伝」として「牧野博士」を旗頭とした地域活性化を推進する。	・佐川町	◆牧野博士の収蔵資料の多面的な活用
37 越知町の総合的な観光推進と地場製品の販売促進 《越知町》	情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を整備し、そこを拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。	・おち駅運営協議会 ・越知町観光協会 ・JAコスモス ・越知町 など	◆JRバス越知駅跡地の多面的な活用 ◆越知町の総合的な観光推進の仕組みづくりと地場産品等を活用した加工体制づくり

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>一体的な歴史的風致の形成</p> <p>民具館の移転及び観光施設化、上町の景観改善</p> <p>旧民具館移設整備</p> <p>具体的な取組内容の検討</p> <p>浜口邸の整備(予定)</p> <p>町並み風致地区へのJR客車設置(予定)</p> <p>牧野富太郎生家復元整備(予定)</p> <p>まちの駅の活性化(予定)</p> <p>牧野公園の整備(予定)</p> <p>佐川町物産・観光振興組織の構築(予定)</p>					公共関連宿泊施設での宿泊者数【再掲】(H19 52,156人)	60,000人	B
<p>知的体験型観光の集客拡大のための条件整備</p> <p>知的体験型観光のメニューづくり、施設活用方法の検討</p> <p>名教館の移設・整備(予定)</p> <p>体験型観光管理運営組織の構築(予定)</p> <p>牧野公園花見棟・売店棟改修整備(予定)</p>					体験型施設での入込客数	5,000人	B
<p>牧野博士の収蔵資料の多面的な活用</p> <p>施設の整備及び運営管理方法等の検討</p> <p>牧野博士資料館改修整備(予定)</p> <p>施設オープン</p> <p>生誕150年記念イベント</p> <p>収蔵資料活用方法の検討</p>					体験型施設での入込客数	5,000人	B
<p>JRバス越知駅跡地の多面的な活用</p> <p>JR越知駅跡地活用検討委員会での施設整備の検討</p> <p>施設の整備及び運営方法等の検討</p> <p>「観光物産館おち駅」オープン</p> <p>越知町の総合的な観光推進の仕組みづくりと地場産品等を活用した加工体制づくり</p> <p>交流・体験型観光の推進のための仕組みづくり、加工体制づくりと越知の名物づくり、宿泊施設の整備の検討 など</p> <p>交流・体験型観光のメニューづくり</p> <p>カヌー・ラフティングの整備、カヌースクール・レンタル事業の仕組みづくり、ガイド養成等実施体制づくり、宿泊施設(簡易ログハウス、休校活用)の検討・整備 など</p>					公共関連宿泊施設での宿泊者数【再掲】(H19 52,156人)	60,000人	A
					整備後の施設での販売額	6,000万円	

【仁淀川地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
38 国宝と体験型観光による 交流人口の増と地域の活 性化 〈日高村〉	日高村において、小村神社の国宝(大刀)の有効活 用や、恵まれた自然環境を活かした体験型観光に より、地域での交流人口を拡大し、地域の活性化に つなげる。	・日高村	◆交流人口の拡大のための条件整備

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>交流人口の拡大のための条件整備</p> <p>国宝のレプリカ作製・保管についての関係機関との協議</p> <p>観光ボランティアガイドの育成方法の検討</p> <p>交流施設等の検討</p> <p>観光ルートの設定、観光資源の掘り起こし</p>					<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数 〔再掲〕 (H19 52,156人)</p> <p>60,000人</p>		B
<p>レプリカ等の作製方法・保管場所・管理方法・管理主体等の検討</p> <p>観光ボランティアガイドの育成研修の実施及び受入開始</p>		<p>レプリカの作製・保管場所の整備・常設展示の開始</p> <p>観光ボランティアガイドの育成研修の実施及び観光客の受入</p> <p>観光スポット、交流施設等の整備</p>					

Ⅱ 各地域の展望と具体的な取組

6 高幡地域

6 高幡地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知県の中西部に位置する当地域は、地域の大部分を占める森林資源を活かした林業や、四万十川・新莊川流域に広がる平坦地における農業、沿岸部での漁業といった第一次産業を中心とした生活が営まれてきました。

しかしながら、高齢化の進行とともに、第一次産業そのものの衰退や近年の製造業等の不振などによる魅力ある就業の場の減少により、若者をはじめとした人口の流出が進んでいます。2030年には、現在の約7割にまで人口が減少し、高齢化率も40%を超えると予測され、地域産業の後継者や担い手の確保が大きな課題となっています。

農業については、ミョウガやショウガなど全国一位を誇る生産物を有するものの、消費形態の変化や輸入農産物の増加、産地間競争等を背景とする価格低下や生産コストの上昇で、農業所得が減少しています。

豊富な森林資源を有する林業は、所有形態が小規模で分散していることや林道・作業道の開設が立ち遅れ、長引く木材価格の低迷等により森林施業が進まない状況にあります。一方、国際的な木材の需要や、地域温暖化の防止などに対する森林への関心の高さなどから、国産材が見直されています。

水産業については、近海漁業やカツオの一本釣り、魚類養殖業などを中心に栄えてきましたが、漁獲量の減少や魚価の低迷により経営の厳しい状況が続いています。

商業については、須崎市、四万十町に一定の集積を持つものの、郊外型大規模小売店や高知市等の商業圏域への流出が進み、地元商店街は厳しい状況となっています。

工業については、須崎市を中心に窯業・土石業等の集積や太陽光発電関連企業の誘致などが進んではいますが、他の地域では、小規模の工場が点在する程度で、雇用の場の確保が課題となっています。

観光に関しては、全国的にも貴重な四国カルストや変化に富んだ海岸線、清流四万十川などの恵まれた大自然や津野山郷などの歴史・文化遺産も有しており、大きな可能性を秘めていますが、十分に活かしていくためには、地域が連携した一層の取組が課題となっています。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

高幡地域の恵まれた自然とそれらによって生み出された様々な地域資源を活かしながら、加工などによる付加価値を持たせた商品の開発や販売、自然や文化等の資源を連携させた観光ルートの開発など、戦略的な取組を進めることによって産業の振興を目指します。

温暖な海岸部から、寒暖の差が激しい山間部まで、様々な作物を有する農業分野については、まとまりのある産地づくりを進め、ミョウガ、ショウガなど全国でも上位のシェアを誇る園芸品目の更なる生産拡大等を図ります。併せて、アスパラガスなどの有望品目の導入を進めるとともに、県内産加工品の原料としてユズの契約栽培や栗園地の再生などにも取り組みます。また、標高差を利用した品目及び出荷時期の調整など、有利な集出荷体制を整備することにより、中山間地域で農作物の販路となる直販所等での販売拡大に力を入れます。さらに、農業法人の設立に向けた支援や個人の新規就農者の確保・育成にも積極的に取り組みます。

高幡ヒノキなど豊富な森林資源を活用する林業分野については、「森の工場」づくりを推進し、事業者と担い手の育成を図ることで、素材増産に取り組むとともに、加工においても消費者ニーズに対応するため、地域が共同して県全体の取組とあわせた木材市場の再生と加工製品の品質向上に取り組めます。また、森林認証材の付加価値を高めるための取組や販路開拓を行うとともに、木質バイオマスや協働の森づくり事業の先進地域としての優位性を活かしながら、森林セラピーなどの取組なども含めて幅広く森林資源の有効活用を目指します。更に、シイタケ栽培などの特産林産物の生産・販売にも力を入れます。

水産分野については、スラリーアイスを活用した魚価向上対策やシイラの加工販売、カツオを使った商品開発に力を入れます。また、インターネットや直販所など多様な販売チャンネルの開拓や地場の魚を広くPRする取組を進めます。併せて、クマエビの種苗放流などによる栽培漁業の推進や藻場の回復にも取り組みます。

商業分野については、高速道路のインターチェンジと連動した須崎市のまち全域がサービスエリア構想を進めるとともに、南北道路の整備等による魅力あるまちづくりを進めます。また、観光拠点でもある大正町市場の空き店舗を活用した取組など、地域の中心商店街の活性化を目指します。

工業分野については、太陽光発電等関連企業を中心としたクリーンエネルギーゾーンとしての産業集積を目指すとともに、地場企業の振興に力を入れます。また、地域の特産物を使った加工や商品開発などにも取り組みます。

山・川・海の恵まれた自然や津野山郷などの伝統文化を有する観光分野については、森林の持つ様々な効果を活かした保養リゾートとして森林セラピー基地の利用拡大を促進するとともに、スキューバダイビング、ラフティングなどの自然を相手にした体験レジャーへの誘客に取り組めます。また、四万十川流域が国の重要文化的景観として選定されたことや、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映により、四万十川流域の景観や文化、龍馬脱藩の道などには、これまで以上に注目が集まっています。これを機会に、

こうした地域資源等を上手くつなげることにより、高速道路の延伸効果とあわせ都市部からの滞在型・体験型の観光推進に積極的に取り組みます。併せて「道の駅」等を積極的に活用した土産品の販売など、観光消費額の拡大を図ります。

また、津野町、四万十町のビジネス拠点組織や久礼新港の背後地に整備を進める拠点施設等を中心に、農業や水産業、商業など複数の分野が連携した多角的なビジネスや地産外商ビジネスを展開し、地域の産業再生に取り組みます。

(3) 重点的に取り組む施策

- 滞在型・体験型観光の推進
(森林セラピー、漁業体験、志国高知龍馬ふるさと博、ホビー館など)
- 地域産物を活用した商品づくり
(シイラ、カツオ、ショウガの商品化など)
- 森を活かす取組
(森の工場の推進、森林認証材の販路拡大、木質バイオマスの活用促進、協働の森など)
- まとまりのある産地づくり
(主要基幹品目の生産拡大や有望品目の導入など)
- 拠点組織等による多角的なビジネス展開
(津野町、四万十町、中土佐町)
- 中心市街地の賑わいづくり
(須崎市まち全域がサービスエリア構想の推進など)

(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
宿泊施設宿泊者数(抜粋) <注1>	H19: 22,214人	H23: 23,876人
シイラの加工品販売額	H19: ー	H23: 3千万円
森林認証材(加工品)の販売量	H19: 1,666 m ³	H23: 1,804 m ³
森の工場の木材生産量	H19: 1,784 m ³	H23: 11,215 m ³
主要農産物(ミョウガ)の販売額	H19: 62.5億円	H23: 66.2億円
ビジネス拠点組織の直販所等販売額<注2>	H19: 430百万円	H23: 530百万円

注1: 雲の上ホテル、松葉川温泉、天狗荘の合計

2: 津野町関連直販所5店舗の直販販売額と「道の駅」あぐり窪川の販売額の合計

(5) 具体的な取組

No.		須 崎 市	中 土 佐 町	梶 原 町	津 野 町	四 万 十 町
1	園芸品目等の地域基幹品目の振興	●	●		●	
2	まとまりのある産地づくりと農家の所得向上			●	●	
3	基幹品目及び推進品目等の維持・発展による地域農業の活性化					●
4	こうち型集落営農の推進				●	
5	施設園芸の加温での木質バイオマスの利活用推進	●	●	●	●	●
6	大野見米のブランド化		●			
7	直販や学校給食を中心にした地産地消推進プロジェクト					●
8	四万十町地産外商の推進					●
9	四万十町のこだわり野菜を使った加工品の開発・販売の拡大					●
10	四万十の栗再生プロジェクト					●
11	滞在型市民農園の推進等による農大跡地の活用					●
12	森の工場の推進	●	●	●	●	●
13	FSC認証住宅の促進			●		
14	木質エネルギーを活かした循環型の森づくり			●		
15	森林セラピー推進による地域活性化			●		
16	あったかハウス協同組合木造住宅販売促進				●	
17	四万十森林資源高付加価値化の取組					●
18	高幡ヒノキ等の加工・流通・販売					●
19	津野山産原木シイタケの生産・販売・収入の拡大			●	●	
20	四万十町シイタケ生産拡大事業					●
21	クマエビを中心とした栽培漁業の推進並びに藻場造成	●				
22	須崎の魚による地域産業の振興	●				
23	スラリーアイスを活用した魚価向上対策		●			
24	シイラを柱とした水産加工業の創設					●
25	シイラ加工食品の生産拡大					●
26	須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業	●				
27	大正町商店街空き店舗活用事業		●			
28	久礼新港背後地利用計画		●			
29	津野町地域資源「ふる」活用ビジネス事業				●	
30	四万十町拠点ビジネス体制の構築					●
31	「かつお」まるごと商品開発プロジェクト		●			
32	梶原町地場産品の地産地消・外商の促進			●		
33	須崎市の教育旅行などの誘致に向けた体験型観光メニューの開発・商品化	●				
34	中土佐町の地域資源を活用した体験型観光の推進		●			
35	梶原町の体験型・滞在型観光の推進			●		
36	海洋堂ホビー館を活かした観光人口の拡大					●
37	四万十町観光交流促進事業					●

【高幡地域】

2、5、12、13、14、15、
19、32、35

1、2、4、5、12、16、19、29

1、5、12、21、22、26、33

梶原町

津野町

須崎市

中土佐町

四万十町

1、5、6、12、23、27、28、
31、34

3、5、7、8、9、10、11、12、17、
18、20、24、25、30、36、37



【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>1 園芸品目等の地域基幹品目の振興 《須崎市、中土佐町、津野町(旧葉山村)》</p>	<p>農産物価格低迷、重油価格等の資材高騰、高齢化や担い手不足、消費者の安全・安心の要望に対応し、農業所得を向上させるため、収量・品質向上対策により販売額を高める。また、生産コスト低減対策により費用を削減し、環境保全型農業の推進と流通・販売上の対策により有利販売に結びつける。</p>	<p>・JA土佐くろしお ・JA四万十</p>	<p>◆収量・品質向上対策</p> <p>◆生産コスト低減対策</p> <p>◆環境保全型農業の推進</p> <p>◆流通・販売上の対策</p>
<p>2 まとまりのある産地づくりと農家の所得向上 《構原町、津野町》</p>	<p>消費者からの要望に応える安全・安心、高品質生産と、重油や資材高騰等に対応できる経営内容の改善を進めることによって、農家の所得を確保し、産地の安定的な発展を図る。</p>	<p>・JA津野山</p>	<p>◆生産技術及び経営管理能力の向上による農家の経営安定</p> <p>◆環境保全型農業の推進</p> <p>◆生産施設や出荷施設の整備による農家の経営の安定</p> <p>◆複合経営による農家の経営安定と担い手の育成</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>収量・品質向上対策</p> <p>篤農家の高い技術を学び合い教え合う場づくり</p> <p>経営試算及び生産者の意識調査を基にした品目別振興戦略の策定</p> <p>篤農家の高い技術を学び合い教え合うことによる所得向上</p> <p>新作物・新品種・新技術の情報収集</p> <p>新品種・新技術の実証・展示ほ設置</p> <p>新品種・新技術の実証・展示ほ設置とマニュアル作成や栽培層への反映</p> <p>定着化に向けた新品種・新技術の実証・展示ほ設置</p>					<p>主要農産物販売額 (H19ミョウガ 47.2億円)</p>	<p>52億円</p>	A
<p>生産コスト低減対策</p> <p>多層被覆等による保温料・農業等生産資材の検討</p> <p>コスト低減に向けた生産資材の導入推進</p>							
<p>環境保全型農業の推進</p> <p>既存IPM技術の普及率向上</p> <p>くろしお版IPM技術の普及率向上</p> <p>新しいIPM技術の情報収集</p> <p>新しいIPM技術の実証・展示ほ設置</p> <p>新しいIPM技術の実証・展示ほ設置とマニュアル作成や栽培層への反映</p> <p>流通・販売上の対策</p> <p>トレーサビリティの徹底、GAPの導入</p> <p>トレーサビリティの徹底、GAPの徹底</p>							
<p>生産技術及び経営管理能力の向上による農家の経営安定</p> <p>篤農家の高い技術を学び合い教え合う場づくり、実践</p> <p>篤農家の高い技術を学び合い教え合うことによる所得の向上</p> <p>高品質生産技術の定着</p> <p>・意向調査等に基づく各品目振興計画の策定</p> <p>・中山間地域の条件に応じた作型、省エネ技術の導入の検討</p> <p>高品質生産技術のマニュアル化</p> <p>地域版「こうち環境・安全・安心点検シート」普及推進</p> <p>マニュアルに基づく高品質生産技術の普及</p> <p>「こうち環境・安全・安心点検シート」の取組をJA部会全戸に定着</p> <p>高品質生産技術の普及</p> <p>「選ばれる産地」の確立</p>					<p>主要農産物販売額 (H19 6.2億円)</p>	<p>6.3億円</p>	A
<p>環境保全型農業の推進</p> <p>津野山版IPM技術の普及率向上、ISO、エコシステムの定着推進</p>							
<p>生産施設や出荷施設の整備による農家の経営の安定</p> <p>津野山におけるフルオープンハウス、換気扇等の導入</p> <p>木質バイオマス暖房の検討</p> <p>高品質生産、低コスト生産のためのハード整備定着</p> <p>複合経営による農家の経営安定と担い手の育成</p> <p>基幹品目の生産向上、複合経営品目の選定、導入へのサポート</p> <p>担い手のタイプ別複合経営パターンに応じた推進</p> <p>耕作放棄地、未利用地を活用した自給粗飼料生産、簡易放牧</p> <p>JA経営型「新規就農者育成農場」運営の定着</p> <p>有効な新規就農者育成の方法について検討</p> <p>JA経営型「新規就農者育成農場」の設置</p> <p>地域に蓄積した技術の習得</p>							

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>3 基幹品目及び推進品目等の維持・発展による地域農業の活性化 《四万十町》</p>	<p>農業の基幹品目及び推進品目等の維持発展のために、農業者と関係機関が一体となって、収量・品質の向上、経営改善、環境保全型農業の推進などに取り組む。</p>	<p>・JA四万十 ・JA高知はた</p>	<p>◆栽培技術の向上による収量・品質の向上</p> <p>◆環境保全型農業の推進</p> <p>◆新規就農者の確保、農家の経営安定</p> <p>◆集落営農組織の育成</p> <p>◆優良農地確保のための基盤整備</p>
<p>4 こうち型集落営農の推進 《津野町》</p>	<p>集落内での合意形成により、集落内の農地や労力などを活用して、園芸品目の導入を行い、農業で生活していける所得確保を目指す、継続性のある「こうち型集落営農」の仕組みづくりを推進する。</p>	<p>・芳生野百石営農生産組合</p>	<p>◆津野町芳生野地区内3集落での「こうち型集落営農」の推進</p>
<p>5 施設園芸の加温での木質バイオマスの利活用推進 《高幡地域全域》</p>	<p>重油の高騰に対応したハウス園芸の低コスト化と環境負荷低減型の循環型社会づくりのため、従来型の重油燃料に替わる木質ペレットや丸太を燃料とした加温システムを普及させる。</p>	<p>・須崎市（JA土佐くろしお）</p> <p>・四万十町（JA四万十） ・檮原町（JA津野山）</p>	<p>◆薪ボイラーの実証 ◆木質バイオマスボイラーのA重油ボイラーに対する優位性の検証</p> <p>◆木質燃料の安定供給システムの構築と木質バイオマスボイラーの普及</p> <p>◆木質バイオマスボイラーのA重油ボイラーに対する優位性の検証 ◆木質燃料の安定供給システムの構築と木質バイオマスボイラーの普及</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
<p>栽培技術の向上による収量・品質の向上</p> <p>環境保全型農業の推進</p> <p>新規就農者の確保、農家の経営安定</p> <p>集落営農組織の育成</p> <p>優良農地確保のための基盤整備</p>					<p>主要農産物販売額 (H19ミョウガ 12億円)</p>	<p>13億円</p>	A	
<p>レンタルハウス事業等によるハウス面積の拡大</p> <p>集落営農組織の健全な経営に向けたの経営改善計画作成支援</p> <p>集落営農組織の健全な経営のための園芸品目等の導入開始</p> <p>関係機関による支援体制づくり 組織運営の見直しによる組織強化</p> <p>四万十窪川地区区営中山間地域総合整備事業の実施</p>								
<p>こうち型集落営農の推進</p> <p>・集落営農推進組織の設立 ・集落ビジョン、営農計画の策定</p> <p>・営農計画の実践準備(基盤整備など) ・集落営農組織の設立 ・有望園芸品目の試作</p> <p>・施設整備</p> <p>・営農計画に基づく営農の実践 ・集落営農組織の運営 ・有望園芸品目の導入・定着</p>					<p>園芸品目栽培面積</p> <p>受託面積</p>	<p>2品目 米ナス:35a 露地ショウガ:10a 水稲受託: 延20ha</p>		A
<p>薪ボイラーの実証 A重油ボイラーに対する優位性の検証</p> <p>・須崎市がバイオマスタウン構想策定 ・実証用薪ボイラーの導入</p> <p>・実証用薪ボイラーの優位性の検証 ・木質ペレットボイラーの導入検討(須崎市)</p> <p>木質ペレットボイラーの導入と木質燃料の安定供給システムの構築(須崎市)</p> <p>・丸太を燃料としたハウス暖房機の評価 ・木質ペレットを燃料としたハウス暖房機の検討と導入支援</p>					<p>木質バイオマス加温機の導入</p>	<p>木質バイオマス加温機 23基</p>		A
<p>木質バイオマスボイラーのA重油ボイラーに対する優位性の検証</p> <p>ビニルハウスでの木質ペレット暖房実証事業実施(四万十町)</p> <p>木質ペレット暖房機導入の検討(四万十町、橋原町)</p> <p>木質ペレットボイラーの導入と木質燃料の安定供給システムの構築(四万十町、橋原町)</p> <p>木質ペレットを燃料としたハウス暖房機の導入</p> <p>ペレット燃焼灰の有効利用</p> <p>ペレット燃焼灰(廃棄物)の堆肥混入試験と肥料としての可能性の検討</p>								

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>6 大野見米のブランド化 《中土佐町》</p>	<p>四万十川の豊かな自然条件を活用して生産される大野見米のブランド化をキーワードとして、まとまりのある生産・販売体制を構築し、消費者に選ばれる米産地づくりを推進する。</p>	<p>・中土佐町 ・JA四万十</p>	<p>◆生産組織の設立とブランド化に向けた取組</p> <p>◆減農薬栽培等による付加価値づくり</p>
<p>7 直販や学校給食を中心とした地消地産推進プロジェクト 《四万十町》</p>	<p>21年度から窪川地区で始まった学校給食で使用する食材の安定供給や、JA四万十の直販所「みどり市」や量販店の産直コーナー等での野菜やそれらの加工品の販売拡大を目指すことにより農家の生産性や所得の向上を図る。</p>	<p>・JA四万十</p>	<p>◆地消地産プロジェクトに取り組む生産者の拡大</p>
<p>8 四万十町地産外商の推進 《四万十町》</p>	<p>四万十町内の農林水産物の新たな県外市場の販売路開拓、新商品の開発、商品の高付加価値化などに取り組むことで、生産者の生産意欲の拡大と所得向上を目指す。</p>	<p>・四万十町地産外商推進協議会</p>	<p>◆新たな流通ルートによる試行販売・市場調査</p> <p>◆生産者の商品量(ロット)の確保及び大量出荷体制の構築</p> <p>◆バイヤーとの連携、商品PR、商品の高付加価値化を意識したビジネスモデルの構築</p>
<p>9 四万十町のこだわり野菜を使った加工品の開発・販売の拡大 《四万十町》</p>	<p>四万十町産の農薬や化学肥料を使わず、こだわりを持って栽培した生姜等の野菜を利用して、価値を最大限に活用した加工品の開発や地産外商による販売拡大を目指す。</p>	<p>・桐島畑</p>	<p>◆生産加工設備の設置</p> <p>◆新商品の開発と販売</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
	生産組織の設立	生産組織の設立とブランド化に向けた取組 大野見米の宣伝と評価実態の調査		評価実態に基づく対策の実践	米価の向上 (H19 12,000円 /60kg)	14,000円/ 60kg	B
減農薬栽培等による付加価値づくり 減農薬栽培につなげる温湯消毒機の導入	環境保全型農業(減農薬栽培)の実証ほの設置と栽培暦の作成、次年度栽培計画の作成	栽培計画の実践					
地消地産プロジェクトに取り組む生産者の拡大	農業機械の活用やレンタルニーズ調査	野菜づくりに関心を持つ農家の募集及び説明会の実施と栽培指導			みどり市直販部 会員数 (H19 311名)	330名	A
		新たな流通ルートによる試行販売・市場調査 試行販売・市場調査		販売			
		生産者の商品量(ロット)の確保及び大量出荷体制の構築 生産体制の強化・販売必要量の確保					B
				バイヤーとの連携、商品PR、商品の高付加価値化を意識したビジネスモデルの構築 高付加価値商品の取り扱い			
		生産加工設備の設置 加工場の整備		加工場の運営	加工品及び野菜 販売額 (H21 7,000千 円)	10,000千円	A
		新商品の開発と販売 新商品の開発と販売拡大					

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>10 四万十の栗再生プロジェクト 《四万十町》</p>	<p>新品種や先進剪定管理技術の導入及びISO14001の実践による四万十栗のブランド化を図るとともに、生産者、中間事業者、食品製造者、地域住民が連携することで生産管理、商品開発、加工販売、情報発信、産地保全と徹底した完結型の生産体制を構築し、安定的な生産と需要の拡大を目指す。</p>	<p>・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会</p>	<p>◆園地再編(調査、検討会)、新品種及びISO14001等の導入</p> <p>◆栗園地再生等(園地改良、新植、改植、生産施設整備)</p> <p>◆栗生産・加工体制の構築</p>
<p>11 滞在型市民農園の推進等による農大跡地の活用 《四万十町》</p>	<p>県の実践農大跡地を活用して、滞在型市民農園(クラインガルテン)の開設や農作物の栽培をすることにより、中山間地域での雇用創出や交流人口の拡大を図る。</p>	<p>・営農支援センター四万十(尙) ・四万十町</p>	<p>◆栽培面積の拡大と雇用の創出</p> <p>◆滞在型市民農園(1.24ha)の開設 コテージ15棟、管理棟等 貸農園 16区画</p>
<p>12 森の工場の推進 《高幡地域全域》</p>	<p>意欲がある林業事業者が中心になり、一定規模のまとまりのある森林を対象に森林所有者から長期に施業を受委託することなどによって、森林の管理や施業などを集約する森林経営の団地を「森の工場」として認定し、木材を安定的に供給する産地体制を確保する。</p>	<p>・市町村 ・森の工場の認定を受けた事業者 ・森林組合 ・林業者等</p>	<p>◆木材生産</p> <p>◆森の工場の整備</p> <p>◆林業事業者の育成</p> <p>◆担い手の育成確保</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
<p>園地再編(調査、検討会)、新品種及びISO14001等の導入</p> <p>栗園地の再編(調査、検討会)、新品種の導入(適応試験)、ISO14001導入</p> <p>栗園地再生等(園地改良、新植、改植、生産施設整備)</p> <p>栗園地の再生(園地改良、改植、整備)</p> <p>新植</p> <p>栗生産・加工体制の構築</p> <p>栗生産・加工体制の構築(加工施設整備等)</p>					原材料供給量(生産者～中間業者)(H20 35t)	50t(H24)	A	
<p>栽培面積の拡大と雇用の創出</p> <p>・井戸、灌水・配水設備の整備 ・ショウガ、アスパラガスの収穫開始</p> <p>・新規就農研修・育苗施設用ハウス整備 ・ショウガ栽培面積を0.5ha拡大</p> <p>経営状況を見ながらアスパラガスの栽培面積を0.3ha拡大</p> <p>経営状況を見ながら栽培面積の拡大(最大2.9ha)</p> <p>経営状況を見ながら栽培面積の拡大(最大2.9ha)</p> <p>滞在型市民農園の開設</p> <p>・滞在型市民農園整備(～3月) ・入居者募集(1月～) ・入居開始(4月～)</p> <p>・移住促進の仕組みづくり(不動産会社、JA等連携) ・情報整理</p> <p>移住の促進(運営) ・物件紹介、案内 ・地域との調整(地区長等紹介) ・移住者へのアフターケア</p> <p>滞在型市民農園運営</p>					耕作面積(H20 1.5ha) 雇用人数(H20常勤雇用4人)	5.2ha 常勤雇用7人 パート30人		A
<p>施設稼働率</p> <p>80%</p>								
<p>木材生産(間伐の推進による木材生産量(H20～23))</p> <p>須崎市 2,000m³ 橋原町 7,915m³ 津野町 6,590m³</p> <p>中土佐町 3,570m³ 四万十町 12,440m³ 高幡地域の計 32,515m³</p> <p>森の工場の整備(数)</p> <p>須崎市 H18認定 橋原町 H19認定 津野町 H20認定 中土佐町 H21認定 四万十町 H22認定予定</p> <p>H18認定 1工場 H19認定 1工場 H20認定 3工場 H21認定 2工場 H22認定予定 2工場</p> <p>林業事業体の育成(林業事業体や林業へ参入する建設業者の育成)</p> <p>林業事業体の経営ビジョン作成や施業プランナーの育成支援、森林組合と建設業者とのジョイント等による林業への参入を促進</p> <p>担い手の育成確保</p> <p>新規就業者の育成・確保、OJT等による技術力向上研修</p>					森の工場の木材生産量(H19 1,784m ³)	11,215m ³	A	

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
13 FSC認証住宅の促進 《構原町》	構原町森林組合が取得しているFSC認証の木材について、産地が見え、品質保証された安全で安心な材料であることを施主や工務店等の顧客に広めていくことにより、FSC認証住宅部材の販売を促進する。	構原町森林組合	◆FSC認証材のPRと営業力の強化 ◆FSC認証材の品質向上
14 木質エネルギーを活かした循環型の森づくり 《構原町》	環境先進企業等との協定による「森林の再生」と「交流の促進」を目的とした協働の森づくり事業を推進するとともに、企業等からの協賛金を木質ペレットの原材料安定供給等の目的のために活用することで、木質エネルギーを活かした持続可能な循環型社会を構築する。	・構原町 ・ゆすはらペレット㈱	◆環境先進企業との協定継続 ◆協賛金の活用についての協議 ◆木質ペレットの利活用促進
15 森林セラピー推進による地域活性化 《構原町》	日帰り型から長期滞在型まで対応が可能な森林セラピーの実施により、都市住民との交流による経済及び地域活性化を目指す。	・構原町	◆日帰り型から長期滞在型まで対応が可能な森林セラピーの実施
16 あったかハウス協同組合木造住宅販売促進 《津野町》	協同組合による木材住宅の販売を促進することにより、組合員はもとより、町内の水道・電気・外構などの業者の所得の向上を図る。	・あつたかハウス協同組合	◆木造住宅の販売促進

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>FSC認証材のPRと営業力の強化</p> <p>顔の見える家づくり事業の開催(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔の見える家づくり事業の開催(2回) ・関西方面を主とした営業活動(年間130日) ・営業できる後継者育成 <p>FSC認証材の品質向上</p> <p>品質向上と管理・確認の方法検討</p> <p>検討結果の実施</p>					<p>認証材の販売量 (H19 1,462㎡)</p>	<p>1,600㎡</p>	A
<p>環境先進企業との協定継続</p> <p>1社と協定継続</p> <p>2社と協定継続</p> <p>1社と協定継続</p> <p>協賛金の活用についての協議</p> <p>1社と協議</p> <p>2社と協議</p> <p>1社と協議</p>					<p>協定企業数 (H19 4企業)</p>	<p>4企業との継続</p>	
<p>木質ペレットの利活用促進</p> <p>木質ペレット生産 200t</p> <p>ペレット消費機器の導入(町内4箇所、町外1箇所)</p> <p>品質の規格化、燃焼灰の処理、原材料調達の仕事づくり等の検討</p> <p>木質ペレット生産実績645t</p> <p>ペレットストーブの導入(9台)</p> <p>木質バイオマス普及事業による支援</p> <p>木質ペレット生産 1,800t</p> <p>木質ペレット生産 1,800t</p>					<p>ペレット販売額</p>	<p>36,980千円</p>	A
<p>森林セラピー基地のオープン</p> <p>セラピーワークショップの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の開設(松原地区) <p>セラピーワークショップの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セラピーワークショップの開催 <p>森林セラピスト等の育成</p>							B
<p>木造住宅の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者により販売促進策の検討 ・顧客対象の検討 ・ニーズの調査 <p>アドバイザーによる組織強化対策の検討</p> <p>住宅様式の検討(例えばU・Iターン向け)</p> <p>PR活動の推進</p>					<p>新築住宅建築件数</p>	<p>年間1会員1棟</p>	C

【高幡地域】

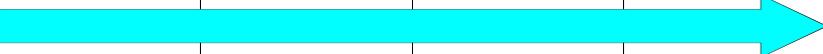
項目	事業の概要	事業主体	主な内容
17 四万十森林資源高付加価値化の取組 《四万十町》	四万十式作業路開設による搬出間伐の推進や、FSCやSGEC認証対象林の拡大、企業との協働による集成材等の開発など、森林の適正な管理と付加価値を高める取組を進めるとともに、営業力強化による商品の販売拡大を推進して地域経済の活性化と雇用の創出を図る。	・森林組合 ・四万十町	◆四万十式作業路開設を基本とした搬出間伐の推進 ◆FSC,SGEC認証森林の拡大 ◆協働の森事業の推進 ◆集成材を使った地産外商ビジネスの推進(大正町森林組合)
18 高幡ヒノキ等の加工・流通・販売 《四万十町》	高幡ヒノキについて、森林認証材の活用や乾燥・強度の部分における高品質化によりブランド化を図る。森林組合・製材業・建築業等が連携し、高幡ヒノキの加工・販売における共同化事業を推進する。	・高幡木材センターを含む地域の林業木材関係団体	◆高幡ヒノキのブランド化に向けた加工・販売の共同化事業
19 津野山産原木シイタケの生産・販売・収入の拡大 《津野町・梶原町》	生産者の技術力の底上げ等を図ることで、高品質シイタケの産地づくりを推進し、津野山産原木シイタケの生産を拡大する。また、県外高級料理店等への販路を開拓し、販売単価のアップと生産者の所得向上を目指す。	・JA津野山	◆営業体制の強化と県外高級料理店等への直販ルートの開拓 ◆シイタケ生産施設の整備(ハード整備等) ◆生産の担い手対策及び産地化に向けた体制づくり

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
<p>四万十式作業路開設を基本とした搬出間伐の推進</p> <p>(町有林施業) 作業路開設 L=7,000m 搬出間伐 4,000㎡</p> <p>(町有林施業) 作業路開設 L=10,000m 搬出間伐 1,200㎡</p> <p>(町有林施業) 作業路開設 L=10,000m 搬出間伐 1,200㎡</p> <p>(町有林施業) 作業路開設 L=10,000m 搬出間伐 1,200㎡</p>					認証森林面積 (H19 1,578ha)	4,569ha	A	
<p>FSC、SGEC認証森林の拡大</p> <p>～H19 FSC認証391.42ha SGEC認証1,186.59ha</p> <p>FSC認証 683ha SGEC認証 58ha</p> <p>FSC認証 700ha SGEC認証 1,754.28ha (全体)</p> <p>FSC認証 700ha</p> <p>FSC認証 700ha</p> <p>FSC認証 700ha</p> <p>FSC認証 700ha</p>					大正町森林組合 集成材工場の販売高 (H20:2.15億円)	2.4億円		A
<p>協働の森事業の推進</p> <p>協働の森協定締結 5社</p> <p>集成材を使った地産外商ビジネスの推進 (大正町森林組合)</p> <p>集成材の新商品開発</p> <p>東京・関西圏への販路開拓</p> <p>地元の建築関係者とのリフォームネットワーク構築</p>								
<p>高幅ヒノキのブランド化に向けた加工・販売の共同化事業</p> <p>共同化についての検討</p>							乾燥シイタケの 販売量 (H20:4.4t)	
<p>営業体制の強化と県外高級料理店等への直販ルートの開拓</p> <p>県外高級料理店等への販売ルートの拡大と確立</p> <p>シイタケ生産施設の整備(ハード整備等)</p> <p>シイタケ生産のためのハード整備</p> <p>生産の担い手対策及び産地化に向けた体制づくり</p> <p>担い手確保・産地化に向けた体制作り</p>								

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
20 四万十町シイタケ生産拡大事業 《四万十町》	四万十町のシイタケ生産者を協同・組織化することで技術と情報の共有を図り、生産量の増加による安定した収入による所得の向上を目指す。森林組合をはじめとした各種団体を軸とした連携による「原木供給」「シイタケ生産」「流通」「技術指導」を推進する。 さらに、「四万十シイタケ」としてブランド化を確立し、熟度が高まり次第、シイタケを利用した1.5次産品を開発し、新たな雇用の確保につなげていく。	・四万十町	◆生産者の組織化及び生産量の増加 ◆生産・流通体制の構築 ◆四万十シイタケブランド化
21 クマエビを中心とした栽培漁業の推進並びに藻場造成 《須崎市》	クマエビを中心とした種苗放流等により栽培漁業を推進するとともに、漁場環境の改善保全に向けた藻場の回復を行い、安定した漁業経営と市場の活力向上を目指す。	・須崎市	◆資源動向の推測 ◆放流事業の効果の把握 ◆藻場の生育環境の改善と資源維持
22 須崎の魚による地域産業の振興 《須崎市》	須崎の魚をPRすることにより、水産業を中心とした地域産業の振興につなげる。	・須崎市 ・「海の駅・須崎の魚祭り」実行委員会	◆魚の地産地消の推進 ◆「海の駅・須崎の魚祭り」の取組強化 ◆「須崎の魚」ののぼり旗やチラシなどによるPR

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>生産者の組織化及び生産量の増加</p> <p>組織化に向けた準備会の発足</p> <p>旧市町村(3地区)ごとの生産者の組織化</p> <p>旧市町村(3地区)合同連絡会発足</p> <p>生産・流通体制の構築</p> <p>生産・流通体制の構築</p> <p>平成19年度生産実績 シイタケ生産量 14.5トン (JA高知はたの聞き取りによる)</p> <p>四万十シイタケブランド化</p> <p>ブランド化に向けた作業</p>					新規生産者の増	10人	A
					生産量 (H19 14.5t)	16t	
<p>資源動向の推測</p> <p>関係者との調整、事業計画の作成</p> <p>漁獲量を把握する仕組みの構築(市場水揚げ重量計測等)</p> <p>市場調査及び漁獲物生物調査により、漁獲動向を把握する</p> <p>放流事業の効果の把握</p> <p>関係者との調整、事業計画の作成</p> <p>クマエビを中心とした種苗放流の拡大</p> <p>標識放流と追跡調査の実施による放流効果の把握 稚エビ調査を中心とした生息環境調査と適地放流の実践</p> <p>藻場の生育環境の改善と資源維持</p> <p>関係者との調整、事業計画の作成</p> <p>ウニ駆除による藻場の造成</p> <p>・ウニ除去に加え、スポアバック設置など藻場造成手法の幅を広げる ・モニタリング調査による藻場造成結果の確認</p>					ウニ駆除面積 H18 池ノ浦 5,000㎡	16,700㎡	B
<p>魚の地産地消の推進</p> <p>地場の魚の販売促進</p> <p>「海の駅・須崎の魚祭り」の取組強化 「須崎の魚」ののぼり旗やチラシなどによるPR</p> <p>具体的な振興策の検討</p>							B

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
		 <p>漁獲から出荷までの鮮度保持及び品質管理の方法の確立</p> <p>漁獲から出荷までの鮮度保持及び品質管理の方法の調査・研究</p> <p>左記の調査及び研究結果を踏まえた実用化の検討及び実用化</p>		 <p>中土佐の魚の販売ルートの開拓</p> <p>地産外商戦略による中土佐町の魚の販路拡大</p>	①首都圏等都市向けの販売戦略策定魚種 ②高知市向け販売戦略策定魚種	① 4種類以上 ② 4種類以上	A
		 <p>シイラを柱とした水産加工業の創設</p> <p>・事業経営体の組織化と試験販売 ・最小限の加工機材の整備</p> <p>漁獲特性にあった1.5次、2次加工事業の開始(必要加工施設と保冷車等の整備)</p> <p>本格的な施設・設備の整備</p>		 <p>シイラ加工原料供給力の強化</p> <p>シイラ加工原料供給力の強化</p>  <p>シイラ主体加工商品の開発・販売</p> <p>新商品開発の取組</p> <p>シイラ以外の地元水産物や地元農産物も含めた加工への挑戦</p>  <p>加工事業経営の確立</p> <p>経営力の充実化と資本・技術等の蓄積</p> <p>地域消費・地域外流通販売の拡大</p>	加工品販売金額	販売金額 3千万円	A
				 <p>新商品の開発、販売、PR</p> <p>新商品の開発、販売、PR</p>  <p>練り製品ライン整備</p> <p>練り製品ラインの整備</p>	ファイルの取扱数量	108t	A

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
26 須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業	高速道路の県西部への延伸に伴い、須崎市が通過点になることを防ぐため、須崎のまち全域をサービスエリア的に利活用し、高速道路利用者にまちの機能を活用したさまざまなサービスを提供することによって、町の活性化を図る。	・須崎市 ・須崎市まち全域がサービスエリア構想推進委員会	◆サービス提供体制の確立 ◆まち案内サービスの向上 ◆地域資源の整理とサービスメニューづくり ◆すさきサービスエリアタウンのPR ◆南北道路を活用した賑わいづくり
27 大正町商店街空き店舗活用事業 《中土佐町》	中土佐町の観光拠点であり、かつ地域の中心商店街でもある「大正町連合商店街」の空き店舗を活用した事業を実施することで、商店街の再構築を図る。	・中土佐町商工会 ・中土佐町	◆空き店舗を活用した商店街の再構築
28 久礼新港背後地利用計画 《中土佐町》	久礼新港背後地において、賑わいの創出につながる施設等を整備するとともに、その経済効果を町全体へ波及させる。	・中土佐町	◆賑わいの創出につながる施設等の整備

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
→								
サービス提供体制の確立 ・おもてなし講習会の開催 ・シンポジウムの開催 ・市民への啓発活動	観光ボランティアの育成 等受け入れ体制の整備		取組の検証と充実				A	
→								
まち案内サービスの向上 ・携帯電話を活用した情報提供システムの整備 ・インフォメーションセンターの整備	情報提供システムの充実		取組の検証と充実					
→								
地域資源の整理とサービスメニューづくり 新たなサービスメニュー (休日の鮮魚販売・お馬の里広場の開設)の試行的実施	・鮮魚販売施設の整備 ・鮮魚販売の開始		取組の検証と充実					
→								
すさきサービスエリアタウンのPR ・CATVでのスポットCM ・サービスエリアや道の駅でのパンフレットの配布 ・市のホームページでのPR ・看板の設置	・サービスエリアや道の駅でのパンフレットの配布 ・市のホームページでのPR ・看板の設置の検討 ・SATの日の検討		取組の検証と充実					
→								
	南北道路を活用した賑わいづくり 検討組織を立ち上げ、振興策の検討	検討組織を立ち上げ、振興策の検討と計画の策定	振興策の実施					
→								
空き店舗を活用した商店街の再構築	空き店舗活用検討会の定期的開催						B	
チャレンジショップの実施	・空き店舗の状況調査 ・空き店舗への新規出店支援 ・空き店舗周辺でのイベントの開催	・空き店舗への新規出店支援 ・新規出店者等に対する経営指導 ・既存商店街と連携した集客イベント等の検討・開催						
→								
賑わいの創出につながる施設等の整備 ・住民組織である「まちづくり検討委員会」の提言を受けながら基本計画を策定 ・運営計画の策定、運営体制の整理		・用地買収 ・経営計画策定推進 ・温泉掘削	・経営計画確立 ・運勢体制の確立 ・基本設計 ・実施設計	・施設整備 ・運営開始			B	

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>地産地消ビジネス</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量拡大の取組 集荷所整備 直販所の充実 情報管理 小規模ハウスの導入 基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> 出荷量、期間の拡大への取組み 集荷ルートの拡充 情報網の整備 小規模ハウスの導入 基盤整備 	<ul style="list-style-type: none"> 新アンテナショップの検討 直販所の運営体制の見直しの検討 道の駅施設拡充 出荷量拡大の取組 集荷ルートの拡充 小規模ハウスの導入 	<ul style="list-style-type: none"> 新アンテナショップの設置と直販所の充実 小規模ハウスの導入 基盤整備 新規直販登録者の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 新アンテナショップの運営開始 販路開拓と販売促進 取組の検証と充実 	<p>直販所の売上額 (H19 110百万円)</p>	155百万円	A
<p>観光交流ネットワークビジネス</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化 PR資料の作成 ガイドの育成 おもてなしの向上 森林セラピーロードの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内コーナーの整備 案内看板の整備 ガイドの育成 おもてなしの向上 森林セラピーロードの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 案内看板の整備 ガイド育成 おもてなしの向上 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ガイド育成 情報発信 森林セラピーロード受入体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信 取組の検証と充実 	<p>主要宿泊施設の 宿泊者数 (H19 8,925人)</p>	9,000人	
<p>加工品開発ビジネス</p> <ul style="list-style-type: none"> お土産品の検討(加工品開発のための基礎資料調査) 	<ul style="list-style-type: none"> お土産品の開発(地元食材を使った加工品の試作) 	<ul style="list-style-type: none"> 製造施設の検討 製造組織の育成 加工品、料理の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 製造施設の整備 製造組織の設立と育成 加工品、料理の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 製造施設の運営開始 販路開拓と販売促進 			
	<p>地域食材、加工品の総合販売ビジネス</p> <ul style="list-style-type: none"> 四十町町のイメージ戦略づくりと新商品作りに向けた検討 集荷システムの試験運行 生産協力団体(生産者)との調整、整理 販促協力団体(企業)との調整、整理 	<ul style="list-style-type: none"> 新商品開発、イメージ戦略に基づく試作品の研究及び販売(名物づくり) 集出荷システムの構築、運行 商品基準(規格)整備 集出荷施設整備 既存販路の整理、調整 新販路の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> 新商品の販売 集出荷システムの運行 拠点施設における加工施設運営 販路の開拓と販売 	<ul style="list-style-type: none"> 新商品の販売 集出荷システムの運行 拠点施設における加工施設運営 販路の開拓と販売 	<p>地域産品・土産品等の新商品開発</p>	5品目以上	A
	<p>地域資源活用交流ビジネス</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源の洗い出し 観光ネットワークの検討 観光新商品の提案、検討 	<ul style="list-style-type: none"> イメージ戦略構想に基づく観光商品の整理 エージェント向け商品の開発試行 拠点施設としてのサテライト機能の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行エージェントへの商品企画の提案(旅行会社とのタイアップ) 窪川、大正、十和の道の駅におけるサテライト機能の強化、連携 	<ul style="list-style-type: none"> 商品企画の展開(民間旅行会社とのタイアップ) 窪川、大正、十和それぞれの道の駅におけるサテライト機能の検証、改善 	<p>あぐり窪川販売金額 (H19:3.2億円)</p>	4.2億円	
	<p>都市部へのアンテナショップの創設</p> <ul style="list-style-type: none"> 販促活動の展開 マーケティング調査(高知市1回、松山市1回) アンテナショップの検証 マルシェ方式の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 販促・PR活動の展開 アンテナショップ方式、マルシェ方式のマーケティング試行実験(関東圏1回、関西圏1回) 高知市内アンテナショップの開設検証 	<ul style="list-style-type: none"> 高知市内アンテナショップ(マルシェ)設計、施工 	<ul style="list-style-type: none"> 高知市内アンテナショップ(マルシェ)運営 	<p>販売金額</p>	4.5千万円	
					<p>常勤雇用者数</p>	3人	

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
					開発する商品数	5商品	A
<p>「かつお」を使った商品開発</p> <p>地域資源∞全国展開プロジェクトによる業務用加工商品や新たな調理メニューの開発及びその販路づくりにかかる取組</p> <p>・試作品の改良と派生商品の開発 ・テイクアウト商品の開発 ・地元での加工・生産体制の整備</p> <p>・地元での生産－加工－販売－販促活動の各体制の確立</p>							
					「café do kuremon」店舗売上高	13,250千円	A
	<p>地元や都市部等での販路開拓</p> <p>・空き店舗等を活用した店舗展開(地元での雇用創出) ・給食等への利活用 ・プロモーション活動の拡充(都市部での商談会参加やデモ用移動型店舗の展開)</p> <p>・販路開拓・拡大(商談会及びアンテナショップ等によるプロモーション活動)</p>						
					まちの駅出荷登録者数	80名	A
	<p>地場産品の販売促進と商品開発</p> <p>・町内外への販路開拓と商品開発 ・生産体制の確保</p>				まるごと高知出荷アイテム数	5点	
					学校給食における地場産品利用率 (H21 18.8%)	35%	
<p>ITの活用による町内事業所の活性化</p> <p>町内ブロードバンドの整備</p> <p>・HP研修会 ・ネット販売</p>							
					給食を地場産品を町内の生産者や業者から調達する仕組みづくり		A
					・生産者の確保 ・ルートの調達及び設定		
					体験旅行者数 (H20 約2千人)	1万人	A
<p>体験メニューの開発・整理と宿泊施設等の整備</p> <p>事業計画の作成</p> <p>体験メニューの開発</p> <p>体験メニューの充実と誘致活動</p> <p>宿泊施設を活用した分泊と民泊施設の整備の検討</p> <p>誘致活動</p>							

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>34 中土佐町の地域資源を活用した体験型観光の推進 《中土佐町》</p>	<p>重要文化的景観を生かした久礼のまち歩きや漁業体験など体験型観光メニューの充実を図り、商品の販売を積極的に行うとともに、ガイド等のレベルアップのための研修など人材育成を行い、受け入れ体制を充実させ中土佐町における交流人口の拡大を目指す。</p>	<p>・中土佐町</p>	<p>◆体験観光の推進</p>
<p>35 梶原町の体験型・滞在型観光の推進 《梶原町》</p>	<p>梶原町を訪れる方々に町内で食事や宿泊、体験観光をしていただくため、受入体制の充実や連携、地域外へのPR等に取り組むとともに、脱藩の道や史跡等の案内板の整備などハード面での充実を図る。また、高知市内のホテル等と連携をして、高知市から梶原町への誘客を行う。</p>	<p>・梶原町商工会 ・梶原町</p>	<p>◆受入体制の充実</p> <p>◆誘客活動</p> <p>◆「龍馬伝」に向けた取組</p> <p>◆「龍馬ふるさと博」を活用した取組</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
	<p>体験観光の推進</p> <p>観光ガイド、インストラクターの育成研修、ウォーキングツアーコースの環境整備等</p> <p>体験観光メニューの商品企画及びモニターツアー</p>	<p>体験観光メニューの商品販売</p>	<p>久礼のまち歩きガイド養成及び商品販売 ・まち歩き商品販売の情報発信 ・観光ガイド育成研修会開催 ガイドの増、ガイド内容・アイテムの充実</p> <p>上ノ加江漁業体験商品販売及びメニュー内容の充実 ・漁業体験商品販売の情報発信 旅行会社及び学校関係者等への商品販売 ・体験メニューの充実及びブラッシュアップ 体験内容・アイテムの充実や選択可能なメニュー・料金の設定</p> <p>大野見地区において観光のあり方を検討 ・地域住民とワークショップ等の開催</p>				B	
	<p>受入体制の充実</p>	<p>観光ガイドの体制充実</p> <p>・宿泊、体験の連携 ・案内板等の整備</p>	<p>まちあるきを中心とした体験型・滞在型観光の充実</p>			<p>宿泊者数 (H21 約6千人)</p> <p>ガイド養成人数 (H21 20名)</p>	<p>11,400人</p> <p>25人</p>	A
	<p>誘客活動</p> <p>「龍馬伝」に向けた取組</p> <p>取組内容の検討</p>	<p>観光会社等へのセールス</p> <p>高知市内ホテル等との連携</p> <p>「龍馬伝」に向けた取組 ・土産物・看板等の整備 ・町外へのPR活動</p> <p>取組の実行及び今後に向けたスキルアップ</p>	<p>「龍馬ふるさと博」を活用した 取組内容の検討</p> <p>維新の道社中の活用</p>					

【高幡地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>36 海洋堂ホビー館を活かした観光人口の拡大 《四万十町》</p>	<p>フィギュア等の展示や各種交流イベント事業を展開する観光施設として休校施設をフィギュアメーカーである(株)海洋堂との連携によって海洋堂ホビー館として整備し、四万十町への観光人口の拡大と地域活性化を目指す。</p>	<p>・四万十町 ・(株)海洋堂</p>	<p>◆ホビー館と周辺施設等の整備</p> <p>◆運営体制の整備</p> <p>◆受け入れ体制の整備</p>
<p>37 四万十町観光交流促進事業 《四万十町》</p>	<p>高速道路の延伸や海洋堂ホビー館の整備を踏まえ、四万十町の山・川・海の豊かな地域資源が作りあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。</p>	<p>・四万十町 ・観光協会 ・商工会等</p>	<p>◆受入体制の充実・整備</p> <p>◆観光資源の磨きあげ</p> <p>◆案内機能(情報発信力)の強化</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>ホビー館の建設と周辺施設等の整備</p> <p>海洋堂と施設整備等について協議</p> <p>海洋堂と施設整備の具体化に向け協議</p> <p>校舎耐震診断</p> <p>4月29日 ホビー館開業</p> <p>校舎の活用基本計画、設計</p> <p>校舎の改修 及びストックヤードの追加整備</p>					ホビー館の1年間入場客数	H23年度末 15,000人	A
<p>ホビー館の運営体制の整備</p> <p>ホビー館運営の設立・協議</p> <p>スタッフ研修、事業の企画・準備</p> <p>宣伝物の製作・案内板の設置、広報・営業活動</p> <p>オリジナル商品等の開発・販売</p> <p>観光客の受け入れ体制の整備</p> <p>公共交通機関、宿泊観光施設等との連携</p> <p>打井川地域づくり委員会の設立</p> <p>打井川地域活性化調査事業の実施(住民ワークショップ)</p> <p>飲食メニュー・体験プログラム・土産物の開発</p> <p>地域住民による地場産品の販売、体験プログラムの実施</p>					常勤雇用者数	3人	
<p>受入体制の充実・整備</p> <p>観光ガイド(四万十観光おもてなし隊)</p> <p>ものづくりや食を中心としたまちづくり</p> <p>観光資源の磨きあげ</p> <p>四万十川流域の重要文化的景観の整備</p> <p>案内機能(情報発信力)の強化</p> <p>観光コンシェルジュの配置・育成</p> <p>観光案内版・誘導標識の整備</p> <p>道の駅への観光・イベント情報の電光掲示</p> <p>四万十川流域の体験メニューの充実</p>					施設等利用者数(H21 83万人)	85万人	A
					四万十観光おもてなし隊(観光ガイド H22 18名)	20名	

Ⅱ 各地域の展望と具体的な取組

7 幡多地域

7 幡多地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知県の西南部に位置する当地域は、四国で最も温暖な気候や黒潮の恵など、自然条件を活かした第一次産業を中心としながら、近年では大規模な工業団地の開発による企業誘致や四万十川を代表とする稀有な自然を活かした観光などで地域の生活を支えてきました。

しかしながら、高齢化が急速に進行し、後継者不足や景気の後退等による公共事業の大幅な削減で就業の場が減少し、地域からの人口流出に歯止めがかからない状況にあります。2030年には、現在の8割程度にまで人口が減少し、高齢化率も約40%になると予測されるなど、地域の担い手の確保が危ぶまれています。

温暖な気候を活かして育んできた農業については、野菜、花卉、果樹、水稻などの栽培が行われていますが、国内外の産地間競争の激化や価格の低迷、生産コストの上昇などにより、産地の維持が課題となっています。

多くの森林資源を有する林業に関しては、小規模所有者が圧倒的に多いことや林道・作業道の開設が立ち遅れ、長引く木材価格の低迷などにより、森林施業が進まず厳しい状況に置かれています。一方、国際的な木材需給の状況や、地球温暖化の防止などに対する森林への関心の高さなどから、国産材が見直されています。

広い水域と豊かな水産資源に恵まれた水産業については、沿岸・沖合漁業や魚類養殖業が盛んでしたが、生産量は減少傾向にあります。さらに、近年の魚価の低迷や燃油価格の高騰などが漁業者の所得に大きな影響を及ぼしています。また、四万十川のアユやアオノリなどの天然資源の減少も深刻化しています。

商業については、四万十市が圏域商業の拠点的な役割を果たしていますが、郊外に大規模小売店を中心とした新たな商業集積が進んでいる反面、既存商店街の空洞化が深刻な状況になっています。

工業については、景気の低迷等による厳しい環境ではありますが、西南中核工業団地や宿毛湾港工業流通団地などへの新たな企業進出、及び企業活動により雇用をはじめとする経済効果が得られています。また、地域特産品を活用した新たな産業創出が各地域で取り組まれつつあります。

観光に関しては、清流四万十川や足摺宇和海国立公園など全国的にも知名度の高い観光資源を有しており、滞在型・体験型の観光も進んでいますが、更なる飛躍が期待されます。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

清流四万十川や足摺宇和海国立公園に代表されるような優れた自然環境を守りながら、その魅力を、黒潮や清流の恵を受けた特産素材などとともに活かすことによって、長期滞在型の観光など交流人口の拡大に力を入れます。併せて、地域特産物の素材を活かした加工などの商品開発に取り組み、地域の産業の振興を促進します。

また、その際には、広域的な視点や「環境」に配慮した仕組みなどを取り入れることで、付加価値を生み出し、新たな産業の創出にもつなげていきます。

温暖な気候を活かして発展してきた農業分野については、施設園芸作物、露地野菜、果樹などの安全・安心を目指す産地づくりを今後も進め、果樹では、ユズ、直七など、特徴のある品目や栽培方法の導入等により新たな産地づくりを目指します。併せて、ダリヤやシュコンカスミソウなどの花卉、地域内で注目されはじめた農産物として、栗、苺などの生産、加工、販売や有機農業の普及拡大等にも取り組みます。また、集落営農を推進することにより、担い手の育成や農業経費の節減を図ります。

成熟しつつある幡多ヒノキなどの森林資源を有する林業分野については、「森の工場」づくりを推進し、事業者と担い手の育成を図ることで、素材の増産に取り組みます。一方、加工においては、消費者ニーズに対応するため、地域が共同して品質の向上や流通コストの低減に努め、林業・木材産業の再生に取り組みます。また、地域エネルギーとして木質バイオマスの利活用を目指すとともに、備長炭の素材となるウバメガシの豊富な地域では、炭づくりに取り組むなど山林資源の有効活用を進めます。

黒潮の恵を活かした水産業分野については、漁場の環境整備のための藻場の回復やサンゴの保全などを進めて漁獲量の維持・拡大を目指します。特に、メジカ（宗田節）、キビナゴ、タイや清水サバなど地域を代表する魚は、知名度の向上やブランド化に取り組みむとともに、新たな商品づくりのための加工施設の設置を進めて、地産外商を目指します。四万十川では、大学との連携によって収穫量が減少している天然スジアオノリやアユの生産回復に向けた研究を進め、有効成分を利用した特定保健用食品など新しい分野への展開を目指します。また、カツオは、食品機能分析や残さを利用した新商品開発、体験メニューへの活用など、付加価値を高めたり交流人口の拡大に取り組みます。

商業分野については、中心市街地活性化基本計画に掲げる商業の活性化施策に取り組み四万十市をはじめ、魚や黒砂糖といった地域資源の加工施設の整備などを通じて雇用を増やすことで、賑わいのある商店街や活気溢れる「元気なまち」の復活を目指します。

工業分野については、中核となる団地への企業誘致や四万十川等のブランドイメージを活かした企業立地の促進に努めるとともに、進みつつある地域資源を活用した商品開発や企業化への取組を加速させて、地場産業の振興を目指します。

観光分野については、風光明媚な海岸線や国の重要文化的景観に選定された四万十川流域など、恵まれた自然と文化を活かした滞在型・体験型観光の更なる発展を目指します。このため、法人化された幡多広域観光協議会などが中心となり、幡多地域の魅力の磨き上げと情報発信に努めることで、幡多ブランドを確立して知名度を向上させ、圏域内で2泊3日以上以上の周遊ルートを作成して滞在型・体験型観光を推進します。また、地域の魅力ある資源を活かした「食」や「まち歩き」など、地域に根ざした、魅力的で多様なプログラムづくりを進めることにより、教育旅行の誘致や着地型旅行商品の造成に積極的に取り組み、全国に誇れる観光推進地域を目指します。

また、複数分野のビジネスを連携させた総合的な取組として、食と農山漁村体験を組み合わせた取り組みや県内他地域との連携による多角的なビジネス展開により、地域の産業再生に取り組みます。

(3) 重点的に取り組む施策

- 滞在型・体験型観光の推進
(地域コーディネート組織の活動強化、竜串など既存観光資源の検証及び振興策の検討、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムの推進など)
- 地域産物を活用した1.5次産業の振興
(しみずの元気再生事業、黒潮印の商品開発、宿毛の直七・魚の加工施設、四万十市の栗加工施設など)
- 地域基幹品目等の生産拡大と流通・販売対策
(キュウリ、ミョウガ、ナス、ニラ、大葉、ブント、ユズなど)
- 森林資源の活用促進
(森の工場、木材製品の品質向上・表示、木質バイオマスの活用、炭の生産など)
- つくり育てる漁業の推進
(藻場の回復、サンゴの保全など)
- 環境ビジネスの創出
(四万十川のアユ、アオノリなど天然資源の回復、特定保健用食品など新しい分野への利活用、堆肥化工場など)
- 地域再生への総合的な取組
(土佐清水市地域再生計画、拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)など)

(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
修学旅行等受入人数	H19: 2,355人	H23: 3,000人
主要農産物の生産量等		
キュウリ(10aあたりの数量)	H19: 16.3t	H23: 18.0t
ナス(10aあたりの数量)	H19: 14.0t	H23: 16.0t
ユズ(管内の生産量)	H19: 488.0t	H23: 642.0t
森の工場の木材生産量	H19: 4,058 m ³	H23: 17,700 m ³
一次加工事業者への原魚提供	H19: 0円	H23: 81百万円
ビジネス拠点組織の売上額	H19: 138百万円	H23: 300百万円

注1: ビジネス拠点組織の売上額は、ふれあいパーク大月の売上額

(5) 具体的な取組

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町
1	ユズの産地づくり	●	●	●	●	●	●
2	幡多地域の集落営農の推進	●	●	●	●	●	●
3	有機農業普及・拡大事業			●			
4	異業種からの農業参入への支援			●			
5	木質ペレット対応型加温機導入			●			
6	廃菌床の活用等、地域資源活用型の農業の推進						●
7	佐賀温泉を拠点にした地域活性化事業(中山間地域の保全と活性化)						●
8	弘法大師と生きた里山再生プラン(中山間地域の保全と活性化)						●
9	消費の変化に対応できるシュコンカスミソウ産地の再生						●
10	森の工場・間伐の推進	●	●	●	●	●	●
11	林産バイオマスのカスケード型ゼロエミッションシステム構築			●			
12	「四万十の家」の建築と地域産ヒノキの販売の推進			●			
13	町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業				●		
14	宿毛湾地域環境生態系保全活動事業(藻場再生、サンゴ保全)	●			●		
15	にぎわいづくりを中心とした地域活性化のための魚加工施設の整備	●					
16	宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の整備	●					
17	民間企業との連携による水産物の販路拡大	●			●		
18	サメ漁業復活に向けた取組		●				
19	宗田節の販路拡大に向けた取組		●				
20	四万十川の資源を活かした環境ビジネスの創出			●			
21	キビナゴ加工商品の生産体制強化				●		
22	直七の搾汁・商品加工をする施設整備	●					
23	地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり	●					
24	環境に配慮した街づくりのための堆肥化工場の整備	●					
25	土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画)		●				
26	地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業		●				
27	地元農産物を使った商品開発事業			●			
28	食育プラザ整備事業			●			
29	栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト			●			
30	拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)				●		
31	莓を核とした6次産業化				●		
32	月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり				●		
33	「黒潮印」の商品開発						●
34	カツオ文化のまちづくり事業						●
35	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●
36	竜串観光再発見事業		●				
37	土佐清水まるごと戦略観光展開事業		●				
38	四万十の秋・冬の味覚満喫体験			●			
39	竜ヶ浜自然体験及び環境教育型施設整備				●		
40	黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進						●
41	砂浜美術館構想の推進						●



【幡多地域】

1、2、3、4、5、10、11、12、
20、27、28、29、35、38

1、2、6、7、8、9、10、
33、34、35、40、41

1、2、10、14、15、16、
17、22、23、24、35

四万十市

黒潮町

宿毛市

三原村

大月町

土佐清水市

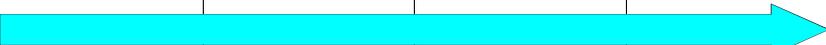
1、2、10、35

1、2、10、13、14、17、
21、30、31、32、35、39

1、2、10、18、19、25、
26、35、36、37

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
1 「ユズの産地づくり」 《幡多地域全域》	幡多地域の自然を活かした中山間の農業振興策として、ユズの産地化を目指す。	・JA高知はた ・三原村農業公社 ・三原村 ・四万十市	◆ユズの産地化
2 幡多地域の集落営農の推進 《幡多地域全域》	中山間地域の集落機能を維持するとともに、園芸品目の導入や共同利用機械の導入により経営の安定化を図るため、集落営農組織の育成と活動を強化する。	・黒潮町荷稻集落 ・土佐清水市下川口・宗呂上・宗呂下集落 ・宿毛市山北集落 ・集落営農組織 ・集落営農組織未設置集落	◆集落営農組織の活動強化 ◆各市町村における新たな集落営農組織の設立
3 有機農業普及・拡大事業 《四万十市》	安全・安心な有機野菜による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」を定着させる。	・四万十市	◆認証店制度の導入
4 異業種からの農業参入への支援 《四万十市》	建設業者等の新たな農業参入を支援することにより、建設業者等の経営改善はもとより農業の担い手の確保や遊休農地の解消につなげる。	・四万十市	◆農業参入説明会の開催 ◆農業参入への積極的な支援策の展開

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
					ユズ生産量増 (H19 488t)	642t	A
ユズの産地化 <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術の向上 水田転換畑への新植の推進と青果率向上対策の推進 高度化搾汁施設の導入検討 	栽培の維持、発展に向けた支援システムの検討(モデル地区での協議)	優良系統の新改植の推進と品質向上のための基本技術の徹底、支援システムの試行	<ul style="list-style-type: none"> 水田転換畑による新たな産地化 支援システムの立上げ 				
					集落営農等組織の設立 (H19 31組織)	40組織	A
集落営農組織の活動強化 <ul style="list-style-type: none"> モデル集落における露地野菜の導入 	<ul style="list-style-type: none"> モデル集落における露地野菜栽培拡大 育苗施設の導入 	<ul style="list-style-type: none"> モデル集落での露地野菜の産地化 共同利用機械の導入、乾燥調整施設の導入 	<ul style="list-style-type: none"> こうち型集落営農の地域への波及 共同利用機械等の導入 法人化の推進 				
各市町村における新たな集落営農組織の設立 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> 各市町村での集落座談会の実施 </div>							
							C
	認証店制度の検討 <ul style="list-style-type: none"> 「環境にやさしい農業のための研究会」への事業提案(供給体制の整備)→生産者会員の増員 宿泊施設・飲食店への事業提案(参加店舗の募集) 需要供給の調整 	<ul style="list-style-type: none"> 試験営農のスタート(技術指導、各種研修) 有機農産物のニーズ調査 有機農産物の物流システム実施 広報・マスコミでPR 	<ul style="list-style-type: none"> 試験営農の改善・確立 有機農産物の流通システム構築 広報・マスコミでPR 	認証店制度の導入 <ul style="list-style-type: none"> 普及拡大 			
 農業参入説明会の開催 <ul style="list-style-type: none"> 説明会の開催 有望品目の検討 							C
	農業参入への積極的な支援策の展開 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 農業参入希望業者への各種支援 モデル業者の参入 </div>						

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
5 木質ペレット対応型加温機導入 《四万十市》	施設園芸における生産コストの安定化を図るため、重油の代替エネルギーとして有望な木質ペレット対応型加温機の導入を目指す。	・四万十市 ・又はJA高知はた	◆木質ペレット対応型加温機の導入検討
6 廃菌床の活用等、地域資源活用型の農業の推進 《黒潮町》	廃菌床の堆肥活用等、地域資源を活用した農業を実践することで、農家の経費節減、環境保全型・地域内循環型の農業を進める。 また、農業者の確保・育成に向け、高齢者でも農業が続けられる環境づくりや担い手確保のための支援体制等を構築する。	・黒潮町 ・JA高知はた	◆廃菌床を活用した堆肥利用推進 ◆機械貸出や作業支援等による効率的な農業の仕組みづくり
7 佐賀温泉を拠点にした地域活性化事業(中山間地域の保全と活性化) 《黒潮町》	橘・柑橘類の栽培による耕作放棄地の解消や加工品開発・販売による地域の活性化	・黒潮町 ・黒潮町佐賀北部地域協議会	◆佐賀温泉を拠点にした地域活性化事業
8 弘法大師と生きた里山再生プラン(中山間地域の保全と活性化) 《黒潮町》	七立栗や馬荷温泉を活用した地域の活性化	・黒潮町 ・かきせ川地域づくり協議会	◆弘法大師と生きた里山再生プラン
9 消費の変化に対応できるシュッコンカスミノウ産地の再生 《黒潮町》	幡多地域の主力花卉であるシュッコンカスミノウの品質の向上や消費拡大への取組を進めることによって、産地の再生を図る。	・黒潮町 ・JA高知はた	◆産地の再生 ◆花き農家の経営安定 ◆消費拡大への取組

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>木質ペレット対応型加温機の導入検討</p> <p>導入の検討 ・木質ペレット対応型加温機 ・ヒートポンプ加温機(夜間電気利用)</p> <p>新規就農者育成施設等へ実験導入の検討</p> <p>四万十農園あくりっこ又は西土佐農業公社への実験導入を検討 ・補助事業等の検討</p> <p>木質ペレット対応型加温機の導入検討</p> <p>情報収集 ・灯油価格、木質ペレット価格の動向および加温新技術開発の動向等 ・導入に有効な補助事業・制度等</p>							C
<p>廃菌床を活用した堆肥利用促進</p> <p>検討組織設立 先進地視察 収支見込検討</p> <p>堆肥利用推進 意向調査・研修・実証</p> <p>堆肥製造施設建設</p> <p>堆肥製造</p> <p>機械貸出や作業支援等による効率的な農業の仕組みづくり</p> <p>機械貸出・作業支援等の仕組みづくりの検討・実証</p>					堆肥利用量	300t/年	A
<p>佐賀温泉を拠点にした地域活性化事業</p> <p>計画づくり(北部地区)</p> <p>・椿・柑橘類を遊休農地に試験栽培 ・和紙の里創造事業の実施</p> <p>・遊休施設を利用した活動</p>					遊休農地利用面積	80a	B
<p>弘法大師と生きた里山再生プラン</p> <p>計画づくり(馬荷地区)</p> <p>・七立栗の販売戦略づくり ・馬荷温泉及び関連施設建設の検討、実施</p>							B
<p>産地の再生</p> <p>有望品種の試験と補完品目の検討</p> <p>産地目標の共有化</p> <p>消費拡大への取組</p> <p>バケツ輸送拡大のための条件整備</p> <p>花卉農家の経営安定</p> <p>新品種の導入と補完品目の定着</p> <p>新品種の定着と補完品目の探索および定着</p> <p>バケツ輸送の定着による有利販売</p> <p>流通実態把握に基づく販売促進</p>					ダリア栽培面積(H20 30a) シュッコンカスミソウ栽培面積(H20 11.8ha) その他	45a 8ha 2.7ha	C

【幡多地域】

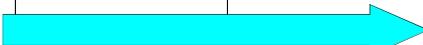
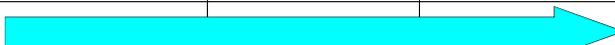
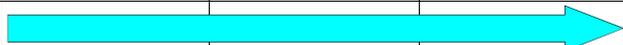
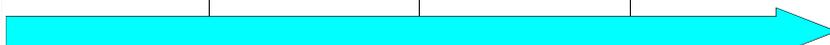
項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>10 森の工場・間伐の推進 《幡多地域全域》</p>	<p>意欲がある林業事業者が中心になり、一定規模のまとまりのある森林を対象に森林所有者から長期に施業を受委託することなどによって、森林の管理や施業などを集約する森林経営の団地を「森の工場」として認定し、木材を安定的に供給する産地体制を確保するとともに、地域の森林資源の充実を図るための間伐を積極的に推進する。</p>	<p>・市町村 ・森の工場の認定を受けた事業者 ・森林組合 ・林業者等</p>	<p>◆間伐の推進</p> <p>◆森の工場の推進</p> <p>◆施業を推進するための基盤整備</p> <p>◆林業事業者の育成、担い手の育成確保</p>
<p>11 林産バイオマスのカスケード型ゼロエミッションシステム構築 《四万十市》</p>	<p>森林から搬出された原木を木材として製品化する過程で排出される樹皮、端材などの木屑を、木材乾燥のための熱源として利用する「木質バイオマス利用システム」を構築するとともに、地域で生産される製材品の品質を高めて販売を促進する。</p>	<p>・協同組合</p>	<p>◆システム構築と運営体整備</p> <p>◆施設整備 (木材乾燥施設、木材加工施設)</p> <p>◆販売促進</p>
<p>12 「四万十の家」の建築と地域産ヒノキの販売の推進 《四万十市》</p>	<p>モデルハウス「四万十の家」を整備し、PRすることで地域産ヒノキを利用した住宅建築を促進するとともに、地域産材の認証制度により品質表示した「四万十ブランド」ヒノキの供給能力を高め、地域外への販売を促進する。</p>	<p>・四万十市</p>	<p>◆モデルハウス「四万十の家」の整備、PR</p> <p>◆地域産材認証制度の実施</p> <p>◆四万十ヒノキのブランド化の推進</p>

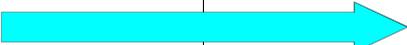
H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分																																			
					指標	目標値(H23)																																				
<p>間伐の推進</p> <p>幡多地域 13,900ha (H20～H23の4年間) H24以降も継続</p>					<p>森の工場の木材生産量 (H19 4,058㎡)</p>	<p>17,700㎡</p>	<p>A</p>																																			
<p>森の工場の推進</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H20までの認定</td> <td>H21認定</td> <td>H22認定</td> <td>H23以降も順次、工場を設定</td> </tr> <tr> <td>四万十市</td> <td>8工場</td> <td>3工場</td> <td>1工場</td> <td></td> </tr> <tr> <td>宿毛市</td> <td>2工場</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>土佐清水市</td> <td>3工場</td> <td></td> <td>1工場</td> <td></td> </tr> <tr> <td>黒潮町</td> <td>1工場</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>大月町</td> <td>1工場</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>三原村</td> <td></td> <td>1工場</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※工場の新設のため、公有林等の利用 H20まで：四万十市有林(5)、土佐清水市有林+県森林整備公社有林(1)、県有林(2)</p>									H20までの認定	H21認定	H22認定	H23以降も順次、工場を設定	四万十市	8工場	3工場	1工場		宿毛市	2工場				土佐清水市	3工場		1工場		黒潮町	1工場				大月町	1工場				三原村		1工場		
	H20までの認定	H21認定	H22認定	H23以降も順次、工場を設定																																						
四万十市	8工場	3工場	1工場																																							
宿毛市	2工場																																									
土佐清水市	3工場		1工場																																							
黒潮町	1工場																																									
大月町	1工場																																									
三原村		1工場																																								
<p>施業を推進するための基盤整備</p> <p>作業道の整備、林業機械の導入</p>																																										
<p>林業事業者の育成、担い手の育成確保</p> <p>施業プランナーの育成、技術力向上研修</p>																																										
<p>システム構築と運営体整備</p> <p>システム構築、市場調査と運営体制の検討</p> <p>運営体制の検討～運営体整備</p>					<p>50組の数</p>	<p>100人</p>	<p>A</p>																																			
<p>施設整備(木材乾燥施設、木材加工施設)</p> <p>バイオマス熱利用乾燥施設、木材加工施設の検討～計画作成</p> <p>施設整備</p>																																										
<p>販売促進</p> <p>統一規格、共同受注への取り組み</p>																																										
<p>モデルハウス「四万十の家」の整備、PR</p> <table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> コンセプト確立、基本設計、実施設計 使用木材の調達 建築業者との連携 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 建築 PR 建築業者との連携 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 供用(①見学②体験宿泊) PR 管理運営 建築業者との連携 設計士との連携 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> コンセプト確立、基本設計、実施設計 使用木材の調達 建築業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 建築 PR 建築業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 供用(①見学②体験宿泊) PR 管理運営 建築業者との連携 設計士との連携 	<p>施設の視察者数</p>	<p>100人</p>	<p>A</p>																																
<ul style="list-style-type: none"> コンセプト確立、基本設計、実施設計 使用木材の調達 建築業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 建築 PR 建築業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 供用(①見学②体験宿泊) PR 管理運営 建築業者との連携 設計士との連携 																																								
<p>地域産材認証制度の実施</p> <table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 認証用機材の整備、製材業者との連携 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 制度の検討～実施 製材業者との連携 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 四万十市産材利用促進補助制度の実施 製材業者との連携 木材卸売業者との連携 原木市場との連携 素材生産業者との連携 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> 認証用機材の整備、製材業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 制度の検討～実施 製材業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 四万十市産材利用促進補助制度の実施 製材業者との連携 木材卸売業者との連携 原木市場との連携 素材生産業者との連携 																																			
<ul style="list-style-type: none"> 認証用機材の整備、製材業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 制度の検討～実施 製材業者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 四万十市産材利用促進補助制度の実施 製材業者との連携 木材卸売業者との連携 原木市場との連携 素材生産業者との連携 																																								
<p>四万十ヒノキのブランド化の推進</p> <table border="1"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキ活用推進担当課長会の設立(四万十市、四万十町、中土佐町及び三原村) 四万十ヒノキに関する4市町村協定書の締結 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキブランド化推進協議会の設立 4市町村の連携 4市町村管内の各森林組合との連携 森林管理署との連携 県との連携 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキ活用推進担当課長会の設立(四万十市、四万十町、中土佐町及び三原村) 四万十ヒノキに関する4市町村協定書の締結 	<ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキブランド化推進協議会の設立 4市町村の連携 4市町村管内の各森林組合との連携 森林管理署との連携 県との連携 																																				
<ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキ活用推進担当課長会の設立(四万十市、四万十町、中土佐町及び三原村) 四万十ヒノキに関する4市町村協定書の締結 	<ul style="list-style-type: none"> 四万十ヒノキブランド化推進協議会の設立 4市町村の連携 4市町村管内の各森林組合との連携 森林管理署との連携 県との連携 																																									

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分	
					指標	目標値(H23)		
	<p>生産力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の立ち上げ、組織作りを行う ・試験窯づくり ・新規参入者の炭焼き研修を町内で実施 ・専門家のアドバイスによる情報収集 ・地産外商会社との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織力(生産、加工、販売)の強化(アドバイザーや先進地視察等) ・炭生産組合を設立 ・炭生産者の育成(室戸市での製炭技術習得研修) ・生産白炭窯の建設 			炭生産者	8名	A	
	<p>加工品づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒炭を活用した石鹸、消臭剤等の試作・モニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒炭、白炭を活用した、枕、ハンガー等の試作・モニタリング及びPR活動 	・商品化		生産量:備長炭 黒炭	30t 14t		
	<p>販路拡大・販売促進活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒炭及び白炭(燃料用、加工品用)の営業活動 	・販売促進用グッズ作成		販売総額: 備長炭 黒炭	1,200万円 280万円		
	<p>藻場再生の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外敵(ウニ)駆除による藻場保全調査 ・海藻移植による調査・研究 						A	
	<p>サンゴの保護・育成への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンゴの移植、オニヒトデ等の駆除 							
<p>魚加工施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施主体、場所、整備方法等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備 ・稼働 		稼働		<p>魚加工施設に付帯した交流施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施主体、整備方法等の検討 ・実施設計 ・整備 ・稼働 	<p>キビナゴバラ凍結生産量(H20 2.2t)</p> <p>凍結フィレ(ブリ、サバ、マダイ、メダイ等)</p> <p>アジ、サバの干物</p>	<p>33.26トン</p> <p>10トン</p> <p>1.5トン</p>	A
		<p>工場の増設</p> <p>冷凍冷蔵庫の増設</p>		稼働		売上高	2.3億円	A

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
17 民間企業との連携による水産物の販路拡大 《宿毛市・大月町》	漁協と民間会社が連携し、前処理加工事業に取り組む。衛生管理型市場である「すくも湾中央市場」に隣接する形で、漁協が加工施設の整備を行い、これを民間会社が管理運営する。漁協は、本加工施設で使用する原魚の調達・供給を行う。	・すくも湾漁業協同組合	◆前処理加工施設の整備 ◆供給体制の強化・販路拡大
18 サメ漁業復活に向けた取組 《土佐清水市》	現在、漁業被害が大きいサメの駆除とともに、新たな収入源となるサメ漁業及び加工を土佐清水市で復活する。サメを利用した加工品の開発と販路開拓により、サメ漁業が成立するような浜値で取引される仕組みを作る。	・土佐清水市水産振興協議会	◆サメを利用した商品開発及び販路開拓（第3セクター等に委託）
19 宗田節の販路拡大に向けた取組 《土佐清水市》	宗田節加工業は、蕎麦屋等の業務用需要に支えられてきたが、食の選択肢の多様化等により、需要が減少している。そこで、末端消費者をターゲットとした事業を展開し、消費の拡大をはかる。	宗田節をもっと知ってもらいたい委員会（仮称） 土佐清水市（瀬土佐清水元気プロジェクトに委託）	◆宗田節PR事業（認知度向上、ブランド化に向けた情報発信等） ◆新商品開発販売事業（末端消費者向け新商品開発及び販路開拓）
20 四万十川の資源を活かした環境ビジネスの創出 《四万十市》	四万十川の恵みを水産資源や観光資源として活用するだけでなく、エコツーリズムの展開や新たな環境ビジネスの創出へとつなげていく「四万十川産業4倍増プラン」を推進する。	四万十市・高知大学連携事業推進会議	◆アオノリの有効成分活用の取組 ◆環境資源を活用した地域再生プランの作成 ◆天然スジアオノリ生産量アップの取組

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
		 前処理加工施設の整備	 供給体制の強化・販路拡大 原魚調達及び供給体制の強化・充実 ・漁協組織の体制強化 ・他漁協(産地)との連携体制の構築 民間企業との連携による販路開拓等 ・互いの商品や販売チャネルの活用による販路開拓 ・民間ノウハウ導入による漁協直営「きび工房」の品質管理体制の充実、商品開発力の強化		原魚供給高	81百万円	A
	 ・サメ漁業の試験操業 ・サメ肉の成分分析	 サメを利用した新商品の開発・販路開拓			サメ販売量 (原魚ベース: H21 0.3t)	10t	A
		 宗田節PR事業(認知度向上、ブランド化に向けた情報発信等) ・宗田節加工業振興基本計画の策定(H22. 9月策定) ・関係団体による委員会の設置 ・委員会による情報発信・PR事業の展開			新商品の開発	2アイテム	A
		 新商品開発販売事業(末端消費者向け新商品開発及び販路開拓) ・宗田節加工業振興基本計画の策定(H22. 9月策定) ・市及び土佐清水元気プロジェクトによる新商品の開発と販路開拓の展開					
		 高知大学連携事業 ：アオノリ有効成分活用の取組 成分効能を活かしたブランド化、医学的・生物学的検討、香りの検証等、報告会の開催		 環境資源を活用した地域再生プランの作成 ・実用化の検討 ・四万十川汽水域研究所の設立検討			B
		 高知大学連携事業 ：天然スジアオノリ生産量アップ等の取組 ・天然スジアオノリ：生態・育成調査、水質調査、河川投石実験、陸上養殖実験等、報告会の開催 ・アユ：産卵場調査、成育場調査、浮遊期仔魚調査、河川投石実験等、報告会の開催					

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
			 加工場改修 ・品質管理室整備 ・空調機等の導入		生産量(=販売量) (H22 70,000袋)	180,000袋	A
		生産機器の導入 工業技術センターに 攪拌機械についての アドバイスをもらう	・攪拌器の導入 ・乾燥機の導入 ・フライヤーの導入	加工体制強化			
			販路拡大・販売促進 販促グッズ検討・作成 営業活動	営業活動			
	・直七生産組合設立	 搾汁施設等の整備 ・搾汁・冷蔵・冷凍施設等 の整備			直七生産量 (H20 13t)	75t	A
			 販路拡大・新商品開発 ・商品パッケージ等の見直し ・新商品の開発				
			 新商品の開発 ・顧客に対応した商品開発		新商品の開発	5アイテム	A
			 設備等の整備				
			 販路拡大・販売促進 ・展示・商談会への参加 ・パンフレット(国内外向け) ・HPの立上げ				

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
24 環境に配慮した街づくりのための堆肥化工場の整備 《宿毛市》	し尿汚泥や脱水ケーキなどのほか、水産業や地域産品の加工業から排出される廃棄物などを有効活用するための堆肥化プラントの整備・運営を行う。	・検討中	◆堆肥化工場の整備
25 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画) 《土佐清水市》	地域資源としての「食」と「観光」の再生・活性化を官民協働のもと、地域が一体となって実施するとともに、大岐・三崎地区開発による施設整備等への取組と併せて、雇用の創出と地域の再生に取り組む。	・㈱土佐清水元気プロジェクト ・土佐食㈱ ・土佐清水市	◆農産物等処理加工施設(セントラルキッチン)関連施設整備(急速冷蔵施設、冷凍冷蔵施設、農産物等加工施設、水産物処理加工施設用機器導入) ◆農林漁業体験関連施設整備(農林漁業体験施設、農山漁村体験施設、農林水産物直販・食材提供供給施設)
26 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業 《土佐清水市》	大岐地区に整備される加工施設に生産者が参画できる仕組みづくりや加工された商品を市内外の市場に流通及び販売する仕組みを構築する。また、体験型観光の確立や加工品のエンドユーザー向けの個別配送、海外への販路拡大など、基幹産業と地域資源を活かした経済の活性化を推進する。	・㈱土佐清水元気プロジェクト ・土佐食㈱ ・土佐清水市	◆農産物等処理加工施設(セントラルキッチン)への集出荷システムの構築 ◆新たな特産品開発と流通販売システムの構築 ◆海外見本市への参加他、PR活動
27 地元農産物を使った商品開発事業 《四万十市》	農業と製造業のこれまで培ってきたノウハウをベースに、さらに付加価値をつけた商品を生産・販売することにより両産業に活力を与える。	・四万十市	◆原材料となる地元産農産物の供給と地元産商品の生産から販売までの仕組みづくり

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
		<ul style="list-style-type: none"> 短期取扱目標の設定 事業効果の検討 適地選定調査 事業主体となる組織検討 	事業化				B
	<ul style="list-style-type: none"> 冷凍冷蔵施設実施設計 急速冷凍施設整備 農産物等処理加工施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> 冷凍冷蔵施設整備 水産物処理加工施設用機器導入 			雇用者(臨時・パートを含む。) 地元農産物等の活用	150人 100t/年	A
		農林漁業体験関連施設整備 計画の見直し		施設整備			
		農産物等処理加工施設への集出荷システムの構築 <ul style="list-style-type: none"> 受発注システム開発 地区ごとの生産者の会組織づくり 集配所整備、集配車購入 水産物一次処理場の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 直販所と連動した集配集配システムへの移行検討 市内旅館ホテル発注等の端末設置 		雇用者(臨時・パートを含む。) 地元農産物等の活用 (土佐清水市地域再生計画と同一目標)	150人 100t/年	A
		新たな特産品開発と流通販売システムの構築 <ul style="list-style-type: none"> 商品開発、ブランド登録、商品管理システム開発 	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発、ブランド登録、ブランド認定制度 	宅配事業への展開、直販店の出店(施設の整備)、直販店開設			
		海外見本市への参加他、PR活動 インターネットを通じたPR、県内外での販促活動		<ul style="list-style-type: none"> 海外見本市への参加、商品のPR 海外市場におけるニーズ調査、マーケティング調査 			
		原材料となる地元産農産物の供給と地元産商品の生産から販売までの仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> 基礎調査 農産物と商品の決定 対象者への説明 審査会の立上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 農産物の作付け及び試験生産 市場調査、試作品開発 パッケージ等のデザイン作成 	本格的な取組開始 <ul style="list-style-type: none"> 販促PR活動活動 販路開拓 生産、製造体制及び連携体制の構築 	新商品の開発	10アイテム	A

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
28 食育プラザ整備事業 《四万十市》	一条通商店街のスーパー跡地を利用して、地元の素材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として「食育プラザ」を整備し、商店街の活性化を図る。	・まちづくり四万十協	◆空き店舗を活用した食育プラザの整備及び事業拡大 ◆中心市街地活性化への取組 ◆情報発信への取組
29 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト 《四万十市》	西土佐地区の栗園再生および企業栗園の開発、地域の情報発信、獣害防止ネット整備、栗の高付加価値化、地理的ハンディ克服手段の開発、地域ブランドを形成できる農林水産物および観光商品も含む商品群の開発、「四万十川を守る会」をはじめとするファンクラブの組織化を通じて、地域・生産者・企業・消費者を巻き込んだ新しい地域産業づくりを推進する。	・備しまんと美野里 ・四万十市 ・西土佐商工会 ・奥四万十楽しまんとPT	◆栗加工体制の整備 (高付加価値化の仕組みづくり) ◆栗の産地復活 (栗栽培農家支援の仕組みづくり) ◆情報発信の仕組みづくり ◆後継資源の掘り起こし
30 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業) 《大月町》	ふれあいパーク大月を拠点に、特色ある地域資源を活用した拠点ビジネスモデルの構築に向けた事業展開を図る。	・(財)大月町ふるさと振興公社	◆地場産品総合販売ビジネス(ファンづくり) ◆特産品開発生産ビジネス(ものづくり) ◆観光資源交流促進ビジネス(にぎわいづくり) ◆地域課題型ビジネス(いきがいづくり)

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>空き店舗を活用した食育プラザの整備及び事業拡大</p> <p>食育プラザオープン</p>					<p>雇用者数</p> <p>2名増</p>		A
<p>中心市街地活性化への取組</p> <p>・食育プラザの販売促進 ・集荷、宅配のニーズ調査</p> <p>・食育プラザの拡張整備 ・集荷、宅配業務の確立 ・雇用の創出</p> <p>・食育の推進 ・宅配サービスの充実 ・集荷、総菜、販売の確立</p>							
<p>情報発信への取組</p> <p>情報発信機能の整備 (POSシステム等の導入)</p> <p>生産者への情報発信</p>							A
<p>栗加工体制の整備(高付加価値化の仕組みづくり)</p> <p>・基本計画の策定、商品試作</p> <p>加工施設の整備</p> <p>加工品の製造・開発、販路開拓・拡大</p>					<p>栗加工用原材料の出荷量 (H21 0t)</p> <p>栗栽培面積 (H21 2.3ha)</p>		
<p>栗の産地復活(栗栽培農家支援の仕組みづくり)</p> <p>・栗園農家潜在意識調査事業(四万十市)</p> <p>栗栽培支援組織の体制構築に向けた検討～活動 (労働支援、基盤整備支援法、活動経費捻出法)、そのための基盤整備</p> <p>情報発信の仕組みづくり</p> <p>・情報発信のあり方の検討(売り出す手法、来てもらう手法、西土佐ファンを増やす手法)</p> <p>後続資源の掘り起こし</p> <p>・栗でのノウハウを活かした「新たな地域資源活用ビジネス」検討</p>							A
<p>通販顧客(ネット販売含む) (H20 4,500人)</p> <p>ふれあいパーク 大月上売額 (H19 138百万円)</p> <p>商品開発 (H20 5アイテム)</p> <p>観光プログラム 開発 (H20 2アイテム)</p>							
<p>地場産品総合販売ビジネス(ファンづくり)</p> <p>通販システムの構築</p> <p>・システム導入 ・カタログ作成 ・通販、ネット販売実施 など</p> <p>・アンテナショップの活用</p> <p>・アンテナショップの活用、通販、ネット販売の実施、 県内外取り扱い店舗の拡大</p>							A
<p>特産品開発生産ビジネス(ものづくり)</p> <p>・売れるものづくり体制整備 (2商品開発) ・集約販売体制の構築</p> <p>・H20開発商品の本格 製造 ・加工場の建設 ・新商品開発</p> <p>・新商品開発 ・ひがしやま加工の仕組み づくり</p> <p>・ひがしやま加工施設の検討、有機野菜づくり</p>							
<p>観光資源交流促進ビジネス(にぎわいづくり)</p> <p>モニターツアー実施</p> <p>・ふれあいパーク大月の 施設改修 ・集客イベント ・体験プログラムの開発</p> <p>・集客イベント ・体験プログラム開発 ・パンフレット作成</p> <p>・体験メニュー、プログラムの拡充・誘客宣伝</p>							A
<p>地域課題型ビジネス(いきがいがづくり)</p> <p>高齢者等単身者への宅配システムの研究</p>							

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
	<p>販路開拓及び広告宣伝活動</p> <p>・販路開拓にむけた営業活動</p>	<p>・webを活用した通販システムの構築</p> <p>・販促グッズの作成</p>	<p>・通販システムの稼働</p>		<p>生鮮販売</p> <p>9,900kg</p> <p>苺水り製造量 (H20 580kg)</p> <p>7,200kg</p> <p>新商品製造 (H20 20kg)</p> <p>900kg</p>	A	
	<p>施設整備</p> <p>・現状の施設を活用した生産</p> <p>・生産量増に向けたハウス増設に向けた打ち合わせ</p>	<p>・25aのハウス増設</p> <p>・冷蔵庫購入</p>					
	<p>新商品開発</p> <p>・新商品開発に向けた地域・素材の連携模索</p>	<p>・新商品開発(地域間連携)</p> <p>・販売戦略をたて、モニタリング、PR活動</p>	<p>・新商品開発(県内外の地域間連携)</p>				
		<p>商品開発</p> <p>月光桜の香り商品化</p> <p>・月の香り開発</p> <p>・牧野富太郎グッズの商品化</p>			<p>商品開発</p> <p>2アイテム</p>	A	
		<p>販路拡大・販売促進</p> <p>県外での販促、展示会</p> <p>・県外での販促、展示会</p> <p>・拠点整備</p> <p>・販促グッズ作成</p> <p>・海外進出へ向けた準備</p> <p>・営業活動</p>			<p>販売目標 (H22:125万円)</p> <p>300万円</p>		
<p>黒潮印商品開発・販売事業</p> <p>・商品開発企画</p> <p>・黒潮印の認証基準及び統一デザインの確立</p> <p>・地域資源調査、地元意向調査</p>		<p>・黒潮印商品開発・サンプル生産</p> <p>・販路開拓、マーケティング調査</p> <p>販売促進</p> <p>町内製造業・卸売業・直販店・宿泊業との連携事業の展開</p>			<p>サトウキビ栽培面積 (H22 2.7ha)</p> <p>2.8ha</p> <p>商品開発 (H22 6種類)</p> <p>15種類</p> <p>販売目標 (H22 3.6百万円)</p> <p>23百万円</p>	A	
	<p>遊休農地で有給ビジネス創造事業</p> <p>サトウキビ等栽培による遊休農地の有効活用と安定供給</p> <p>農機具・加工用機械等購入(黒糖・農産物加工用等)</p> <p>加工施設の整備</p> <p>法人化育成支援</p>						

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
34 カツオ文化のまちづくり事業 《黒潮町》	日本一のカツオの漁獲高を誇る「カツオ一本釣り船団」を有する黒潮町佐賀地域において、カツオの食品機能分析による有効な認証の取得や、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新たな商品開発などの取組を進めることによって、カツオ文化のまちとしてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。	・黒潮町商工会 ・黒潮町	◆黒潮町に水揚げされたカツオの食品機能分析、ブランド化 ◆「漁師の味」の提供サービス ◆カツオの残渣の有効活用 ◆新規開発商品の販売体制の構築
35 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進 《幡多地域全域》	幡多地域は、平成20年度から国（総務省、文部科学省、農林水産省）が実施する「子ども農山漁村交流プロジェクト」の先導型受入モデル地域であり、さらに、観光圏の観光庁認定を受けている。幡多広域協議会は、各種事業の活用により、質の高い体験プログラムづくりや受入体制の整備ならびに、幡多地域の知名度向上や幡多エリア内での滞在型・体験型観光の推進をめざすとともに、法人格の取得、事務局体制の確立、旅行業登録等、幡多地域におけるコーディネート組織としての強化を図る。	・幡多広域観光協議会	◆受入体制の仕組みづくり ◆質の高い体験プログラムづくりと受入体制整備 ◆体験型プログラム事業等の活用による滞在型・体験型観光の推進 ◆地域コーディネート組織の整備
36 竜串観光再発見事業 《土佐清水市》	観光・漁業・農業の連携と地域が協働することで、観光客に地域をまるごと知ってもらい、地域住民と交流する施設や小動物等とふれ合える施設整備の在り方や、竜串観光振興会が中心となって行っているサンゴ保全や観光メニューづくりなどのソフト事業について、地域住民や、観光関係団体、市が連携しながら検討し、竜串観光の振興を行う。	・土佐清水市 ・土佐清水市観光協会 ・NPO竜串観光振興会 ・竜串地区 ・竜串自然再生協議会	◆サンゴの保護・育成への取組 ◆地域産業と連携した体験プログラムの実施・検証・見直し ◆市・観光関連団体・地域等による課題整理と長期計画の策定 ◆竜串売店施設の集約整備 ◆新規施設の整備

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
<p>黒潮町に水揚げされたカツオの食品機能分析、ブランド化</p> <p>高知大学に食品機能(アンセリン等)の科学的分析を調査委託</p>	<p>各種認証(特定保健用食品など)の取得</p> <p>ブランド化に向けた取組</p>				<p>交流人口(H22 12,000人)</p>	<p>13,000人</p>	<p>A</p>
<p>「漁師の味」の提供サービス</p> <p>「漁師の味」を提供する町内飲食店マップを作成</p>	<p>「漁師の味」を提供する町内飲食店の周知</p>						
<p>カツオの残渣の有効利用</p> <p>「端材」を利用した商品開発(カツオ団子、カルパッチョ用商材)</p>	<p>「端材」を利用した商品開発</p>						
<p>新規開発商品の販売体制の構築</p>	<p>商品開発・販売体制の構築</p>						
<p>受入体制の仕組みづくり</p> <p>総合コーディネーター、地域コーディネーターの育成</p>	<p>受入組織の連携強化</p>				<p>コーディネーターの確保(1名)</p> <p>インストラクター講習受講者数(H20、200名、H21 87名)</p> <p>体験プログラムづくり(H20 2、H21 4)</p>	<p>1名</p> <p>250人</p> <p>6プログラム</p>	<p>A</p>
<p>質の高い体験プログラムづくりと受入体制整備</p> <p>・宿泊受入体制整備</p> <p>・体験学習受入体制整備</p>	<p>体験インストラクターレベルアップ</p>						
<p>観光圏整備事業の活用による滞在型・体験型観光の推進</p> <p>協議会の立上げ</p> <p>事業の導入</p> <p>事業の実施(滞在型・体験型観光の推進)</p>	<p>各種事業等の活用による滞在型・体験型観光推進</p> <p>事業の実施(滞在型・体験型観光の推進)</p>						
<p>地域コーディネート組織の整備</p> <p>法人化に向けた入込み実績等の基礎資料作成</p>	<p>法人化に向けた計画の作成</p> <p>法人格の取得</p>	<p>組織強化(事務局体制・旅行業登録)</p>	<p>広域観光の推進</p>				
<p>サンゴの保護・育成への取組</p> <p>サンゴの保護活動の実施</p>	<p>サンゴの保護・育成を中心とした、自然再生・環境学習などの取組</p>				<p>A</p>		
<p>地域産業と連携した体験プログラムの実施・検証・見直し</p> <p>花・人・土佐であい博の実施</p>	<p>体験メニューのブラッシュアップ(体験プログラムの洗い出し、新たな取り組み検討)</p> <p>海のギャラリーの施設拡充</p> <p>観光PR、修学旅行受入増大</p>						
<p>市・観光関連団体・地域等による課題整理と長期計画の策定、竜串売店施設の集約整備、新規施設の整備</p> <p>地域の課題整理</p>	<p>長期計画の策定</p> <p>整備計画の策定、各店主との協議及び調整</p> <p>実施計画の策定、地域との協議及び調整</p>	<p>各店主及び地域との協議及び調整</p> <p>必要施設の整備</p> <p>必要備品等の購入及び準備</p> <p>観光プロモーション</p> <p>既存施設の整理</p> <p>観光資源の磨き上げ</p>					

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
37 土佐清水まるごと戦略観光展開事業 《土佐清水市》	観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、農業・漁業・商業等と連動した地域まるごと観光を推進するため、食・体・商を集約した海の交流拠点施設として「海の駅」を再整備するとともに、観光ニーズに即応できるワンストップサービスを推進する。	・土佐清水市観光協会 ・土佐清水市 ・地域活動団体	◆海の体験交流拠点施設としての『海の駅あしずり』の再整備 ◆観光圏整備計画と連動した長期滞在型観光の推進及び体験プログラムのワンストップサービスシステムの構築 ◆異業種連携による新たな観光プログラムづくり ◆地域食材提供システム機能整備(地域食材のランチバイキング、セットランチ) ◆地域資源を活用した商品開発
38 四万十の秋・冬の味覚満喫体験 《四万十市》	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組により、宿泊型観光の増加を図る。	・四万十市観光振興連絡会議 ・奥四万十楽しまんとPT ・四万十市	◆四万十川河川敷での炊き出し(秋・冬) ◆四万十川の伝統漁法の見学(火振り漁等) ◆食による地域経済活性化の検討 ◆通年化・滞在型観光に向けた取り組みの推進
39 竜ヶ浜自然体験及び環境教育型施設整備 《大月町》	大月町栢島竜ヶ浜に、その植生(県内で2箇所しかない湿地帯)を活かした、自然体験及び環境教育型の滞在交流拠点施設を整備して、交流人口の拡大と地域の経済の活性化を図る。	・大月町	◆自然体験及び環境教育や体験メニューとリンクした宿泊施設・滞在型施設の整備
40 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進 《黒潮町》	黒潮町の豊かな自然環境を生かした体験型観光を推進することで、都市部との交流人口の拡大を図ると共に地域の活性化につなげていく。	・黒潮町	◆体験型観光の推進 ・遊休公共施設の活用 ・黒潮一番館の活用推進 ・農林漁家民泊の推進 ・体験型観光メニューの開発・磨き上げ ・インストラクターの育成 ◆みなとオアシスの整備

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備工事、体験プログラム及び地域食材提供実施 体験プログラムの整理及び集約、システム開発 実施者との調整及び協議 	<ul style="list-style-type: none"> 体験プログラム及び地域食材提供実施 システムの運用及び見直し 体験プログラム実施 			入込客数 (H20 74.7万人)	80万人	A
四万十川河川敷での炊き出し(秋・冬) 花・人・土佐であい博の実施		イベントの充実、PRの実施			入込客数 (H19 88万人)	98万人	A
四万十川の伝統漁法の見学(火振り漁等) 花・人・土佐であい博の実施		イベントの充実、PRの実施			食による地域活性化の検討 食イベントの開催、ご当地グルメの磨き上げ等		A
					通年化・滞在型観光に向けた取り組みの推進 各体験メニューの磨き上げと季節・テーマ毎の体験コース化の検討		
	自然体験及び環境教育や体験メニューとリンクした宿泊施設・滞在型施設の整備 基本設計	ニーズ調査・詳細設計	施設建設・運営体制検討	施設開業・PR等利用促進			A
	遊休公共施設の活用 遊休公共施設改修の検討				観光客入込客数 (H20 479千人)	500千人	B
黒潮一番館の活用推進、農林漁家民泊の推進		良質なメニューの提供、広報体制の充実、海を利用した体験観光とのリンクなどにより集客力アップを図る。 体験型観光メニューの開発・磨き上げ、インストラクターの育成 地域資源を活用したメニューの検討 研修会の開催					
みなとオアシスの整備 埋立・造成工事(上川口港)	「海の駅」の整備(多目的広場、ピーチスポーツ、環境施設ほか)						

【幡多地域】

項目	事業の概要	事業主体	主な内容
<p>41 砂浜美術館構想の推進 《黒潮町》</p>	<p>入野松原の再生や企画展の充実などにより、「365日・24時間オープン、BGMは波の音、夜の明かりは月の明かり」という砂浜美術館構想に沿った自然をそのまま鑑賞できる環境を整備するとともに、広域観光受入れのための総合的な取組を推進する。</p>	<p>・NPO砂浜美術館 ・黒潮町</p>	<p>◆入野松原の再生</p> <p>◆広域観光受入れのための総合的な取組</p>

H20	H21	H22	H23	H24以降	指標及び目標		仕分
					指標	目標値(H23)	
							C
入野松原の再生	入野松原再生事業						
							C
広域観光受入れのための	総合的な取組						
NPO砂浜美術館への委託による「ピオス情報館」を総合窓口とした受入システムの強化							
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> イベント管理センターの建設検討(用具管理とミーティング用) </div>						
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの開発 ・インストラクターの育成 ・受入団体の接客・安全面でのスキル強化 </div>						

< 付属資料 >

用語の解説

アルファベット

用語	解説
F S C 認証	F S C (Forest Stewardship Council 森林管理協議会) が行う森林認証。森林認証とは、環境、社会、経済の観点から持続可能な森林管理が適正に行われているかどうかを審査・認証する制度。
G A P	「Good Agricultural Practice」の略。農作物の生産において、農産物の食品安全性や品質確保、環境負荷低減、労働安全の確保等を目的に、農業生産工程を点検し、記録し、見直し改善していく管理手法。
I P M	I P M (Integrated Pest Management 総合的病害虫・雑草管理) とは、病害虫や雑草防除において、化学農薬だけにたよるのではなく天敵、防虫ネット、防蛾灯など様々な防除技術を組み合わせ、農作物の収量や品質に経済的な被害が出ない程度に発生を抑制しようとする考え方。これに基づく防除技術は安全・安心な農産物の安定生産と、環境への負荷を軽減した持続可能な農業生産を両立するために有効である。
I S O 1 4 0 0 1	環境に配慮した組織運営を行うための国際規格。企業などが環境問題に取り組んでいくため「仕組み」を定めて、実行していくための様々な事柄が要求されており、I S O 1 4 0 0 1 を取得するためには、求められている事柄を満たす仕組みを確立し、維持して、審査登録機関による審査を受けることが必要である。
N P O	「NonProfit Organization」の略。政府・自治体や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体。特定非営利活動法人、非営利組織、非営利団体、市民活動法人、市民事業体をいう。
P O S システム	「Point Of Sales system」の略。物品販売の売上実績を単品単位で集計する販売時点情報管理のこと。商品名や価格、数量、日時などの販売実績情報を収集するため、「いつ・どの商品が・どんな価格で・いくつ売れたか」を経営者側が把握しやすく、売れ行き動向を観察できるという利点がある。
S G E C 認証	S G E C (Sustainable Green Ecosystem Council「緑の循環」認証会議) が行う森林認証。世界的に推奨されている持続可能な森林管理の考え方をもとに、日本の現状にあわせてつくられた国際性を持つ認証制度。

あ行

用語	解説
アカデミー・デ・ボザール	フランスの国立学術団体であるフランス学士院を構成する5つのアカデミーの1つ。(日本語表記では芸術アカデミー) 世界的指揮者である小沢征爾氏が日本人初の正会員となったことでも知られている。
エコシステム栽培 (認証)	園芸連が、生産者の取組を認証し表示する制度。化学合成農薬の使用だけに頼らず、生態系や生産物への影響を少なくする、人と環境にやさしい栽培方法として、総合的病害虫・雑草管理技術 (I P M 技術) を取り入れた栽培管理の基準や高知県版GAP、土づくり等の要件を設け、審査し登録する。
エコファーマー	「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、都道府県知事から、たい肥等による土づくりと化学肥料や化学合成農薬の使用の低減を一体的に行う農業生産方式を導入する計画について認定を受けた農業者の愛称。
エコロンマーク	高知エコデザイン協議会が推薦する環境に配慮された優れた商品に対して、同協議会が表示を許可しているマーク。
(高知県) 園芸戦略推進会議	輸入野菜の増加、国内競合産地との競争激化、量販店のバイイングパワーの増大などにより、危機的な状況に置かれている本県園芸農業の立て直しを図るため、平成12年9月に設置された「園芸こうちパワーアップ戦略会議」を発展的に改組し、農業団体(中央会、園芸連、全農高知県本部、県内の全農協)と県が一体となって園芸振興の課題解決を進めていくために平成15年9月に設置された県域の会議。 この会議の中に、本県園芸農業の抱える課題を①系統共販、②共同計算、③輸送、④安全・安心、⑤資材コスト、⑥営農対策の6つのテーマに区分し、それぞれプロジェクトチームを設置し、具体的な課題解決に取り組んでいる。
エンジン01オープンカレッジ	各分野の文化人・著名人が、ジャンルを超え、日本文化のさらなる深まりと広がりを目的に参集したボランティア集団「エンジン01文化戦略会議」の会員約100人がボランティアで地方を訪れ、3日間にわたって地域の人々と知の交流を行うもの。
小村神社の国宝 (大刀)	正式には金銅装環頭大刀拵・大刀身(こんどうそうかんとうたちごしらえ・たちみ)。日高村小村神社の御神体として伝わる7世紀前半の直刀とその外装。この種の上古刀の現存品はほとんどが古墳等からの出土品であるが、本品は伝世品である点で貴重であり、日本刀剣史上重要な作品。(昭和33年国宝指定)

か行

用語	解説
花き	観賞用に利用される植物の総称。観賞の対象となる部分により、葉物・花物・実物(みもの)などと分ける。また、生態や形態等によって、草花類、球根類、花木類、樹木類、シダ類、ラン類、観葉植物、多肉類などに分けられる。
カスケード型ゼロエミッションシステム	カスケード利用により廃棄物の発生を抑制し、資源を最大限有効に活用する仕組み。カスケード利用とは、使用後の形状や性質のレベルが下がったバイオマス等をそれぞれの段階で利用(多段階利用)すること。ゼロ・エミッションとは、廃棄物として捨てられているものを有効活用し、廃棄物を発生させない概念。
環境保全型農業	農業の持つ物質循環機能を活かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業をいう。
観光圏整備事業	観光地が広域的に連携した「観光圏」を整備することで、国内外の観光客が2泊3日以上滞在できるエリアの形成を目指す観光庁の補助事業。県内では幡多地域で、H21年度からの事業導入を目指している。
間伐	育成段階にある森林において、樹木の混み具合に応じて樹木の一部を伐採(間引き)すること。残存木の利用価値の向上と森林の有する諸機能の維持増進を図るために行う。
協働の森づくり事業	企業に、社会貢献活動(いわゆるCSR活動)の一環として、森林整備(主に間伐)に取り組んでもらうとともに、地域との交流を進めようという事業。
魚礁	海底の隆起部で魚が集まり好漁場となる場所。自然の海底地形によるものは天然礁と呼ばれ、人工的に構造物を設置したものは人工魚礁と呼ばれる。人工魚礁は形態により沈設型、中層型、表層型に分けられる。
拠点ビジネス	農協や第三セクターなど、地域の中核となる組織を拠点にして、野菜や加工品などの製造販売や、グリーンツーリズムなど観光交流のサービスなどを多角的、複合的に組み合わせたビジネス。
クラインガルテン	ドイツ語で「小さな庭」という意味の簡易宿泊施設のある滞在型市民農園。1区画ごとに休憩や簡易宿泊が可能な小屋(ラウベ)が設けられる。日本では1990年代から全国各地で整備されている。
グリーン・ツーリズム	農山漁村地域の豊かな自然に親しみ、そこに息づく暮らしや文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。
クリーンエネルギーゾーン	企業立地促進法に基づく県の基本計画において、地域特性を活かした関連産業の集積を目指してゾーニングされた県内4区域の1つ。須崎市、中土佐町、佐川町、越知町、津野町、四万十町で構成。
クリエイター	デジタルコンテンツの制作者、デザイナー、イラストレーター、漫画家、作家、作曲家、画家など創造的な活動を行う人。
クロード・モネ財団	フランスを代表する印象派画家クロード・モネの遺産を相続した、息子ミシェル・モネの没後、その遺言によりクロード・モネに関する絵画や不動産等が芸術アカデミー(7ガミー・デ・ボザール)に寄贈され、その後それらを維持・管理していくために設立された財団。
系統(出荷)	農家が農協、園芸連を通じて販売すること。
基石茶	大豊町において独特の製法で作られる発酵茶であり、煎茶とはちがひ、蒸す・寝かす(カビ発酵)・漬ける(乳酸発酵)・切る・乾燥の工程で製造されている。国内には、ほかにも発酵茶があるが、基石茶のように2回の発酵を経て製造されるものは非常に珍しい。名前の由来は、約3センチ四方に切った茶をムシロの上に広げて乾燥する様子が、ちょうど基盤に黒い基石を並べたように見えるところから名づけられたとされている。
高性能林業機械	従来のチェーンソーや集材機等に比べ、作業の効率化や労働強度の軽減等の面で優れた性能を持つ林業機械。
こうち型集落営農	過疎化・高齢化が進行する中山間地域を中心に、集落内の合意形成により、有望な園芸品目等を導入し、農業で生活できる所得を確保する仕組み。
こうち環境・安全・安心点検シート	高知県版GAPとして、農業者自らが主体的に生産から出荷までのそれぞれの工程管理を点検し、必要に応じて内容の改善に役立てる「こうち環境・安全・安心点検シートその1」と、農業団体や集出荷場が主体的に流通段階での工程管理を点検し、必要に応じて内容の改善に役立てる「こうち環境・安全・安心点検シートその2」の総称。
国際版画トリエンナーレ展	3年に一度開催され、国際的にも注目される版画コンクール。2008年に行われた第7回国際版画トリエンナーレ展には77ヶ国1,382人が応募。和紙の産地・高知で開催することから出展作品の素材は紙に限定。

用語	解説
子ども農山漁村交流プロジェクト	H20年度からの5年間に、農山漁村で1週間程度の宿泊体験活動（農林漁家での宿泊体験を含む）を全国2万3千校の小学生（5年生）に経験してもらう事業。総務省、文部科学省、農林水産省の連携施策事業として実施している。
コンテンツビジネス	漫画や写真、映像、音楽、コンピュータゲームなど創造的活動によって生み出されたものを活用したビジネス。
コンパクトシティ	様々な機能を中心部に集中させた都市のことで、機能を集めることによって、相乗的な経済交流活動が活発になり、中心市街地の活性化が期待できるとされている。

さ行

用語	解説
再生稲	稲を刈り取った株から再生して出てくる稲のことで、ひこばえ、二番穂とも呼ばれる。牛の飼料として利用するために、肥料や水を与えて成長させる。収穫量は苗から育てた稲の半分程度であるが、育苗や田植えが必要ないことから栽培コストがかからないというメリットがある。
作業道	林道などから分岐し、立木の伐採、搬出、造林などの林内作業を行うために作設される簡易な構造の道路。
実需者	実際に商品を購入して消費する者。例えば、地産地消の取組で、野菜を作る人を生産者、それを材料として購入して客に食事を提供する宿泊施設を実需者という。青果物流通の場合の実需者とは、卸会社、仲卸から先の量販店、量販店の共同仕入れ組織、外食（レストラン等）、中食（惣菜業者等）、食品加工業者（漬物等）、食品問屋等のこと。
実証ほ	開発された新技術や新品種などを、地域に適応できるかどうかを検証するための田や畑などを行う。
J A 出資型法人	J A が出資して設立された法人。県内で設立を進めようとする J A 出資型法人は、担い手が不足している地域などで、地域農業の振興のために、J A が経営を主導して事業（農作業の受託、農業経営など）を行う農業生産法人。
地鶏肉特定 J A S 認定	地鶏肉の品質に関する表示方法や生産方法等についての基準を定めたもので、その過程等について登録機関が認定を行うもの。認定製品には J A S マークを貼付できる。
自伐林家	自己の所有する森林で伐採・搬出などを行い林業を営む林家。
四万十式作業路	表土や現地の石、間伐材やその根株など現地の素材を構造物として使用することにより、自然緑化を促し、環境的にも優れ、安価で耐久性の強い作業路。
遮光ネット	減光や日長の調節、温度上昇抑制などを目的として作られた、ポリエステルなどを素材とする資材。作物の種類や使用する目的により遮光率や色が異なる。
集成材	多数の板材を接合してつくった木材。
重油代替暖房機	重油以外のエネルギー源を使用する暖房機。施設栽培用暖房機のエネルギー源として、木質バイオマス、電気等が検討されている。
重要文化的景観	地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、国民の生活又は生業の理解のために欠くことのできないものを文化的景観といい、その中でも、文化財としての価値から特に重要なものについて、都道府県等の申出に基づき、国が選定したもの。
集落営農	集落単位で農業生産活動の一部又は全部を共同で行う営農形態をいい、この場合において、規約や収支計画・事業計画に基づいて活動する組織を「集落営農組織」という。
主業農家	農業所得を主とし、65歳未満で年60日以上農業に従事している者がいる農家をいう。
種苗（大型・小型）	放流用や養殖用の魚類などの稚魚のこと。県では、ヒラメ、エビ類等の種苗を人工的に生産し放流用として配付している。これまでの放流用種苗のサイズはヒラメ40mm、クマエビ15mmと小型であったが、今後は放流効果を向上させるため、より大きく育成したヒラメ（60mm）、クマエビ（35mm）も放流用種苗として生産する。

用語	解説
食育	生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図られるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身につけるための学習等の取組をいう。
深海縄漁業	水深100m以上の比較的深い水深で、アカムツ等を対象とする延縄（はえなわ）漁業。延縄漁具は、1本の幹縄に多数の枝縄をつけ、枝縄の先端に釣り針をつけた構成となっている。
森林施業プランナー	森林を所有する方に、森林の管理などに必要な施業の方法、間伐等に必要な経費、木材販売見込額などを明らかにした提案書「森林施業プラン」を提示するなど、きめ細かなプランを作成できる人。
森林セラピー	森林浴、森林レクリエーションを通じ、森林が彩なす風景や香り、音色、肌触りなどによる、森のいのちや力を感じるような心理的効果や、森林の地形、自然を利用した医療、リハビリテーション、カウンセリングによる健康回復、維持、増進活動。
森林セラピスト	森林セラピー参加者個々人の、こころと身体の状態を考慮した健康増進や自然治癒力増強に効果的なプログラムのアドバイスやカウンセリングを行うと同時に、参加者の危機管理やアシストする者。
森林認証制度	持続可能な森林経営の行われている森林を第三者機関が評価、認証し、そこから生産された木材などの林産物を区分することにより、消費者がこれらの林産物を選択し、購入できるようにする民間主体の制度。
スラリーアイス	シャーベット状の氷のこと。0℃～-2℃のスラリーアイスで保存した魚介類は、長期間高い鮮度を保持することが分かっている。
生産履歴記帳	JAグループが実施する「生産履歴記帳運動」で、資材の誤った使用を防ぎ、適正に使用するため、主に農薬や肥料の種類、施用時期、使用量などについての記帳、回収、チェックを実施する。
世界ジオパーク	ジオパークとは、地形や地質、それに影響を受ける自然、文化資源などを見どころとする一種の自然公園のこと。ユネスコが支援する世界ジオパークネットワークへは、18か国で57か所が加盟している。
施肥基準	気象や土壌等の条件にあった施肥量や施肥の時期を定めたもの。環境保全型農業の進展には、作物や地域の気象、土壌等の条件にあった過不足のない適正な施肥が重要である。そこで、各都道府県において、施肥量の目安になる施肥の基準値や方法を策定しており、これらの情報を技術指導者等を通じて農業者の方に伝えるための目安となる施肥基準を作成している。
縮伐剪定	将来的に残す樹（永久樹）に隣接する樹（間伐樹）を順次切り詰めていく剪定方法のこと。光や風通し、作業性などの環境を改善し、果実生産力を向上させるために行う。
全木集材システム	伐採現場で枝払いを行わず、枝葉付きの伐倒木をそのまま集材するシステム。
ソニア	地域の森林資源を有効活用するために、木材の生産から加工、販売までを行う、仁淀川流域3町（佐川町、越知町、仁淀川町）等が出資して設立した第三セクター方式の株式会社。

た行

用語	解説
多層被覆	園芸用施設の保温性を高めるため、被覆を重ねる方法の一つ。一般的には、固定式・可動式を区別しない場合もあるが、正式には、固定被覆の場合は被覆枚数を1重・2重と呼び、可動式カーテンの場合は、1層・2層と呼ぶ。
脱水ケーキ	汚泥や水中混濁物質等を脱水機にかけて水分を除去した後に残った固形の物質。主にセメントや肥料の原料などとして再利用されている。
タリフ	運賃や料金表を表す言葉として使われているが、旅行代理店では、各会社から提供される取扱商品の情報を束ねたファイルを指す。
地域コーディネート組織	広域的な観光情報の発信や問い合わせへの対応、着地での旅行手配などをワンストップで行う組織のこと。この組織があると観光客の利便性が格段に向上し、旅行会社も旅行商品を作りやすくなる。また、広域的に観光振興を図る際に中心的な役割を担うことになる。
地球温暖化	人間活動による二酸化炭素やメタンなどの放出量が増大し、大気中の温室効果ガスの濃度が高まることによって起こる現象で、地球の気温が気候の自然な変動の範囲を超えて上昇すること。
中心市街地活性化基本計画	「中心市街地の活性化に関する法律」に基づき、中心市街地の活性化に関する施策を総合的かつ一体的に推進するため、市町村が策定する基本的な計画のこと。内閣総理大臣が認定を行い、認定を受けた基本計画に基づく事業に対して、国より集中的かつ効果的な支援が受けられる。

用語	解説
直販店・直販所	常設店舗であって、生産者又は生産者グループが自らが生産、又は製造したものを直接販売するところ。
土佐はちきん地鶏	いずれも高知県原産の土佐九斤と大軍鶏を交配させたクキンシャモの雄と白色プリマスロックの雌から生まれた高品質肉用鶏。ほど良い歯ごたえと脂質の少ない地鶏本来の旨さが特徴。
特定保健用食品	からだの生理学的機能などに影響を与える保健機能成分を含んでおり、お腹の調子を整えるなど、特定の保健の用途を表示して販売される食品。
篤農家	優れた生産技術を持ち、高収量・高品質を実現することで安定した農業経営を行っている、地域のモデルとなる農家をいう。
特用林産物	林野から産出される木材以外の産物。きのこ、木炭等。
土佐産直サテライトセンター（とさ千里）	大阪在住の県出身の有志等が出資した会社。県産品の販売や地域間交流を行っている。現在、大阪府豊中市新千里北町3丁目1-2-1で営業中。
土佐ジロー	高知県原産の天然記念物土佐地鶏の雄と米国原産のロードアイランドレッドの雌を交配して生まれた卵肉兼用の地鶏。卵は小ぶりながら濃厚な味、肉は適度な歯ごたえがあり深い味わいが特徴。
土佐鷹	高知県農業技術センターで開発された県独自品種のナスで、平成17年8月15日付けで品種登録出願し、同年12月26日付けで出願が受理された。既存の品種に比べて、ボリューム感があり、光沢に優れるなどの特徴を持ち、現在、JA土佐あき管内等を中心に約19haで栽培されている。
土佐・龍馬であい博	2010年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送にあわせて開催する博覧会。高知駅前に誘客の核としてドラマ関連の情報を発信するテーマ館と、観光や物産の情報を一元的に発信する情報発信館を設置するほか、滞在型・体験型観光の推進に向け、県内各地で「自然」や「食」、「歴史」や「文化」などの魅力を活かしたイベントを実施する。
土着天敵	地域に生息している土着の昆虫やクモ等其他生物で、作物に被害を及ぼす害虫の天敵となるもの。土着天敵は、特定防除資材（特定農薬）として指定されている。天敵を活用した防除には、メーカー等によって製品資材化されており、農家がいつでも購入できる状態の天敵を利用する場合と、地域にもともといる土着の天敵昆虫を利用する場合とがある。ハウスなどの閉鎖系空間では購入天敵中心の利用が多いが、ほ場が周りの自然と連続している露地栽培では土着天敵が比較的に利用しやすい。
トレサビリティ	食品の生産から加工・流通・販売までの過程を明確に記録し、商品からさかのぼって確認できるようにすること。また、そのシステム。これにより、事故発生時の原因究明や食品回収、品質管理の向上や効率化、消費者に伝える各種情報の充実等に資することが期待される。

な行

用語	解説
認定農業者	農業経営基盤強化促進法に基づき、効率的かつ安定的な農業経営を目指して、自ら作成した5年後の目標とその改善策を内容とする「農業経営改善計画」が市町村長の認定を受けた農業者をいう。
農業機械銀行	担い手農家が自ら保有する農業機械施設を効率的に利用するため、農業受委託の仲介あっせん、作業料金の決済業務を行う組織。
農作業受委託組織	農地の所有者等から農作業の一部又は全ての作業の委託を受け、委託者に代わって現実に農作業を行う組織。
農薬ドリフト	農薬の散布作業等により、防除の対象となる作物以外に農薬が付着すること。農薬は農薬取締法により、使用対象となる作物がラベルに記載されているが、ドリフトにより対象外の作物に農薬が付着すると、食品衛生法に基づき設定されている残留農薬基準を超過する可能性が高い。
農林漁家民宿	農林漁業や田舎の生活が体験できたり、とれたばかりの新鮮な素材を活用した料理を味わうことができる、農家、林家及び漁家等が経営する宿泊施設。
農林漁家レストラン	農林漁家自ら又は農林漁家との密接な連携の下で、その農林漁家が生産した食材又は地域の食材を使って調理・提供している、当該地域に立地するレストラン。

は行

用語	解説
バイオスタウン構想	域内において、広く地域の関係者の連携の下、バイオマスの発生から利用までが効率的なプロセスで結ばれた総合的利活用システムが構築され、安定的かつ適正なバイオマス利活用が行われているか、あるいは今後行われることが見込まれる地域で、市町村が中心となって、地域のバイオマス利活用の全体プランを作成したもの。
バケット輸送	切り花の鮮度保持を目的として、産地から市場及び生花店に至るまでの流通過程で、出荷する切り花を水を入れた容器（バケット）に立てた状態で荷造りし、絶えず水分補給をしたまま輸送するシステム。
半炭化ペレット	完全に炭化せずに半分炭化することで、石炭ほど良質ではないが効率の良い代替エネルギーとしての利用価値を高めた木質ペレット。
氷感庫	0度以下でも凍らない冷蔵庫。食材等を凍らせることなく氷点下保存ができ、鮮度の低下を抑えつつ長期保存ができる。
フラフ	男の子の健やかな成長を願って、端午の節句に高知県内の高知市から東部の海岸地域で主に立てられる大漁旗のようなもの。絵柄は、金太郎や武者絵が多い。
ブルーツーリズム	漁村に滞在して、漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ余暇活動のことをいう。
フルオープンハウス	梅雨時期の長雨による病害対策として行われている雨よけ栽培では、ハウス内温度が非常に高温になるため、天井部被覆資材が開放となるように巻き上げ可能な構造になっているハウスをいう。
プレカット	木造住宅の建設において、従来大工が手で刻んでいた木材の継手・仕口などを、工場に設置された自動工作機械で加工すること。
ポータルサイト	インターネットに接続するときに、玄関口となるウェブサイト。
ホールクロップサイレージ（WCS）	稲の子実が完熟する前に刈り取り、ロール状にしたものを、長期保存を可能とするために乳酸菌を加え、ビニールフィルムで包みサイレージ（発酵）化した牛の飼料のこと。〈「稲発酵粗飼料」と同義語〉

ま行

用語	解説
前処理加工	魚類の場合では、料理や加工品の材料とするために、魚のうろこを剥ぎ、エラや内臓あるいは頭部を除いた状態やさらに3枚におろしたり、切り身の状態に加工することをいう。下ごしらえのこと。
木質バイオマス	バイオマスとは再生可能な生物由来の有機性資源。その中で、樹木からなるバイオマスのことを木質バイオマスという。樹木の木部、樹皮、葉などで、林地に残された材や製材工場の残材、建築解体木材も含む。
木質ペレット	木材を粉碎、圧縮、成型した固形燃料で、長さは1～2cm、太さは6～12mm程度の円筒状のもの。
森の工場	一団の森林を対象に林業事業者が森林所有者と森林の管理に関する協定や受委託契約を結び、計画的・効率的に間伐などの森林整備を実施し、収益や安定的な雇用の確保等を図りながら、持続的な林業経営を行う森林の団地。

や行

用語	解説
ゆい（結い）	昔からの労働慣行。個人間でお互いの労働力を貸し合い、労働を補完すること。
有機JAS（有機JAS認証制度）	農林水産大臣に登録を受けた第三者機関（登録認定機関）が、有機農産物等の生産工程管理者（農家や農業生産法人等）や製造業者を認定し、認定を受けた者は、有機農産物や有機加工食品について、有機JAS規格に適合しているかどうかを格付けし、その結果、適合していると判断したものに有機JASマークを付すことができる制度。有機JASマークがない農産物に「有機」や「オーガニック」等の表示を付すことは法律で禁止されている。
有機農業	化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと、遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。

ら行

用語	解説
ランドオペレーター機能	旅行者が旅行先で利用する宿泊施設、移動手段、食事、ガイドなどを事前に手配し、旅行中は旅程を管理、旅行後は旅行代金の収受と支払い等の清算を行うなど、旅行先での旅行を円滑に実施するための総合的な機能。
林業事業体	森林所有者などからの委託又は立木の購入等により、造林、伐採などの林業作業を行う森林組合、素材生産業者など。世界農林業センサスでは「林業サービス事業体等」に相当する。
れいほくスケルトン	高知県の嶺北地方で生産されたスギ材を100%使用した、住宅の基本構造体のキット商品。
れいほく八菜・れいほく八恵・れいほく八花	嶺北地区で栽培された野菜、花き、果樹、特産品などのブランド名。「八」は末広がりの意味。八菜・八花は、環境に配慮した栽培方式で生産した、米ナス、パプリカ、スナップエンドウ、プチヴェールなど10品目の野菜と、スタービューティ、ノーブル、オリエンタル系ユリなどの花。八恵は、嶺北の山々から採れるユズやギンナン、モモなどの果樹とゼンマイ、お茶などの特産品とこれらの加工品のこと。
歴史的風致維持向上計画	「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（愛称：歴史まちづくり法）」に基づき、歴史的風致（地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境）の維持及び向上を図るための計画。佐川町が作成し、H21年3月に国の認定を受けた。
レンタルハウス	農協等が整備し、農業者にレンタルするハウスのこと。県のレンタルハウス整備事業では、県、市町村が補助を一定の割合で行っている。

『地域アクションプラン』推進経過 (H21年度)

4月	上	<p>県内7地域に産業振興推進地域本部を立ち上げ(安芸、物部川、高知市、嶺北、仁淀川、高幡、幡多)</p>
	中	
	下	
5月	上	<p>【産業振興推進地域本部員 メンバー構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県職員 ・地域産業振興監等 ・出先機関長(農・林・水) ・本庁関係課長(商工・観光) ・地域支援企画員
	中	
	下	
6月	上	<p>【実行支援チーム メンバー構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県職員 ・出先機関職員 ・地域支援企画員 ◆市町村職員 ◆関係団体職員
	中	
	下	
7月	上	<p>知事による地域住民説明会(県内6地域)</p>
	中	
	下	
8月	上	<p>高知県産業振興計画(産業成長戦略及び地域アクションプラン)の説明と意見交換</p>
	中	
	下	
9月	上	<p>【地域APフォローアップ会議 メンバー構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆市町村長 ◆地域関係団体の長 ◆地域住民の代表者
	中	
	下	
10月	上	<p>①地域アクションプランフォローアップ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域APの進捗状況の確認 ・産業成長戦略の進捗状況の確認(情報共有) ・地域APの追加、修正等に関する意見交換 他
	中	
	下	
11月	上	<p>第1回産業振興計画フォローアップ委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の検証、評価 ・修正・追加についての検討 ・平成22年度予算編成に向けての提案
	中	
	下	
12月	上	<p>②地域アクションプランフォローアップ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域APの進捗状況の確認 ・産業成長戦略の進捗状況の確認(情報共有) ・地域APの次年度の改定に向けた意見交換 他
	中	
	下	
1月	上	<p>第2回産業振興計画フォローアップ委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興計画の取り組みの成果等の検証、評価 ・産業成長戦略の改定についての検討
	中	
	下	
2月	上	<p>第3回産業振興計画フォローアップ委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域アクションプランの成果と今後の展開 ・計画改定案の最終確認 ・H22年度のフォローアップの進め方 等
	中	
	下	
3月	上	<p>地域本部会議や推進本部会議で四半期毎に進捗状況を確認</p>
	中	
	下	

実行支援チームが進捗管理シートをもとにPDCAサイクルによる進捗状況を定期的に点検・フォローアップ

※ 上記以外にも関係各会議等で適宜進捗状況を確認

『地域アクションプラン』推進経過（H22年度）

4月	上	<p>県内7地域に産業振興推進地域本部を立ち上げ(安芸、物部川、高知市、嶺北、仁淀川、高幡、幡多)</p>	
	中		
	下		
5月	上	<p>【産業振興推進地域本部員 メンバー構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県職員 ・地域産業振興監等 ・出先機関長(農・林・水) ・本庁関係課長(商工・観光) ・地域支援企画員 	<p>【実行支援チーム メンバー構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆県職員 ・出先機関職員 ・地域支援企画員 ◆市町村職員 ◆関係団体職員
	中		
	下		
6月	上	<p>地域アクションプラン取組事例発表シンポジウム (安芸・物部川・高知市・嶺北・仁淀川・高幡・幡多)</p>	<p>・産業振興計画の説明</p> <p>・実践者による地域アクションプランの取組事例の発表</p> <p>・実践者及び知事によるパネルディスカッション</p>
	中		
	下		
7月	上		
	中		
	下		
8月	上	<p>【地域APフォローアップ会議 メンバー構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆市町村長 ◆地域関係団体の長 ◆地域住民の代表者 	<p>①地域アクションプランフォローアップ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域APの進捗状況の確認 ・産業成長戦略の進捗状況の確認(情報共有) ・地域APの追加、修正等に関する意見交換 他
	中		
	下		
9月	上	<p>第1回産業振興計画フォローアップ委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の検証、評価 ・修正・追加についての検討 ・平成23年度予算編成に向けての提案 	<p>地域本部会議や推進本部会議で四半期毎に進捗状況を確認</p>
	中		
	下		
10月	上		
中			
下			
11月	上		
中			
下			
12月	上		
	中		
	下		
1月	上	<p>第2回産業振興計画フォローアップ委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興計画の取り組みの成果等の検証、評価 ・産業成長戦略の改定についての検討 	
	中		
	下		
2月	上	<p>②地域アクションプランフォローアップ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域APの進捗状況の確認 ・産業成長戦略の進捗状況の確認(情報共有) ・地域APの次年度の改定に向けた意見交換 他 	
	中		
	下		
3月	上	<p>第3回産業振興計画フォローアップ委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域アクションプランの成果と今後の展開 ・計画改定案の最終確認 ・H23年度のフォローアップの進め方 等 	
	中		
	下		

実行支援チームが進捗管理シートをもとにPDCAサイクルによる進捗状況を定期的に点検・フォローアップ

※ 上記以外にも関係各会議等で適宜進捗状況を確認

地域アクションプランフォローアップ会議 委員名簿

(敬称略)

【安芸地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市町村長	小松 幹侍	室戸市長	
	松本 憲治	安芸市長	座長
	澤山 保太郎	東洋町長	
	齊藤 一孝	奈半利町長	
	安岡 雅徳	田野町長	
	有岡 正幹	安田町長	
	大寺 正芳	北川村長	
	上治 堂司	馬路村長	
	竹内 強	芸西村長	
関係団体の代表	窪田 勲	土佐あき農業協同組合 代表理事組合長	
	東谷 望史	馬路村農業協同組合 代表理事組合長	
	山本 賢誓	芸東森林組合 代表理事	
	田中 静夫	高知東部森林組合 代表理事組合長	
	藤田 春雄	安芸漁業協同組合 代表理事組合長	
	多田 典正	高知県漁業協同組合 芸東ブロック理事	
	八木 正人	室戸市商工会 会長	
	辻 重昭	中芸地区商工会 副会長	
	島田 信雄	社団法人 室戸市観光協会 会長	
	畠中 純水	社団法人 安芸市観光協会 会長	
地域住民の代表	西岡 尚宏	(東洋町在住)	
	木下 善智	(奈半利町在住)	
	横田 健一	(芸西村在住)	
	山本 美栄	(安芸市在住)	

(敬称略)

【物部川地域】

	氏名	所属等	備考
市町村長	橋詰 壽人	南国市長	座長
	仙頭 義寛	香南市長	
	門脇 楨夫	香美市長	
関係団体の代表	高田 幸一	南国市農業協同組合 代表理事組合長	
	小笠原 英彦	長岡農業協同組合 代表理事組合長	
	中沢 猛男	十市農業協同組合 代表理事組合長	
	西内 龍右	土佐香美農業協同組合 代表理事組合長	
	野島 常稔	香美森林組合 代表理事組合長	
	小松 律男	物部森林組合 代表理事組合長	
	志磨村 公夫	高知県漁業協同組合 中央ブロック常勤理事	
	坂本 源一	南国市商工会 会長	
	畠中 義雄	香南市商工会 会長	
	寺村 勉	香美市商工会 会長	
地域住民の代表	安岡 宏	香南市観光協会 会長	
	中屋 宏二	(南国市在住)	
	島内 俊	(香南市在住)	

16名

(敬称略)

【高知市地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市町村長	岡崎 誠也	高知市長	座長
関係団体の代表	垣内 秀明	高知市農業協同組合 代表理事組合長	
	川島 光明	高知春野農業協同組合 代表理事組合長	
	鎌倉 寛光	高知市森林組合 代表理事組合長	
	野々村 重利	高知県漁業協同組合 副組合長理事	
	岡崎 雄幸	春野町漁業協同組合 代表理事組合長	
	高橋 淳一	高知商工会議所 専務理事	
	横川 東洋	春野商工会 会長	
	吉野 和守	高知県食品工業団地事業協同組合 理事長	
	田村 光政	社団法人 高知県工業会 常務理事・事務局長	
	松尾 徹人	社団法人 高知市観光協会 会長	
地域住民の代表	内田 洋子	(高知市在住)	
	泉 真弓	(高知市在住)	

13名

(敬称略)

【嶺北地域】

	氏名	所属等	備考
市町村長	今西 芳彦	本山町長	座長
	岩崎 憲郎	大豊町長	
	西村 卓士	土佐町長	
	岩崎 敬太郎	大川村長	
関係団体の代表	西村 行雄	土佐れいほく農業協同組合 代表理事組合長	
	稲田 繁治	大豊町森林組合 代表理事組合長	
	大石 哲雄	本山町商工会 会長	
	小笠原 春行	大豊町商工会 会長	
	高橋 豊明	土佐地区商工会 会長	
	川村 雅士	特定非営利活動法人 土佐さめうら観光協会 理事長	
地域住民の代表	細川 茂幸	(本山町在住)	
	佐々木 和子	(大豊町在住)	

12名

(敬称略)

【仁淀川地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市 町 村 長	板原 啓文	土佐市長	座長
	塩田 始	いの町長	
	大石 弘秋	仁淀川町長	
	榎並谷 哲夫	佐川町長	
	吉岡 珍正	越知町長	
	戸梶 眞幸	日高村長	
関 係 団 体 の 代 表	馬場 義人	土佐市農業協同組合 代表理事組合長	
	伊藤 喜男	コスモス農業協同組合 代表理事組合長	
	西内 徳幸	高知中央森林組合 代表理事組合長	
	日浦 郷一	仁淀川森林組合 代表理事組合長	
	上野 浩功	高知県漁業協同組合宇佐統括支所 統括支所長	
	森澤 英世	土佐市商工会 会長	
	西岡 寅八郎	いの町商工会 会長	
	藤原 陽三	仁淀川町商工会 会長	
	永田 耕朗	佐川町商工会 会長	
	坂本 健常	越知町商工会 会長	
	横山 泰昌	日高村商工会 会長	
	岡林 弘	いの町観光協会 会長	
	岡林 友一	越知町観光協会 会長	

19名

(敬称略)

【高幡地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市 町 村 長	笹岡 豊徳	須崎市長	座長
	池田 洋光	中土佐町長	
	矢野 富夫	禰原町長	12/21から
	池田 三男	津野町長	
	高瀬 満伸	四万十町長	
関 係 団 体 の 代 表	西森 慶郎	土佐くろしお農業協同組合 代表理事組合長	
	中平 紀善	津野山農業協同組合 代表理事組合長	
	武政 盛博	四万十農業協同組合 代表理事組合長	
	戸田 昭	津野町森林組合 代表理事組合長	
	中越 利茂	禰原町森林組合 代表理事組合長	
	福田 唯志	高知県漁協池ノ浦支所 委員長	
	清岡 稔男	久礼漁業協同組合	
	田部 博史	須崎商工会議所 会頭	
		須崎市観光協会 会長	
	松下 裕之	中土佐町商工会 会長	
	新谷 章男	禰原町商工会 会長	
	山本 昇平	津野町商工会 会長	
	松下 和孝	四万十町商工会 会長	
下元 昇	社団法人 四万十町観光協会 会長		
地 域 住 民 の 代 表	矢野 博正	(禰原町在住)	
	田中 隆博	(中土佐町在住)	

20名

(敬称略)

【幡多地域】

	氏 名	所 属 等	備 考
市町村長	中西 清二	宿毛市長	
	杉村 章生	土佐清水市長	
	田中 全	四万十市長	座長
	柴岡 邦男	大月町長	
	杉本 嘉宏	三原村長	12/25から
	大西 勝也	黒潮町長	
関係団体の代表	佐竹 勝	高知はた農業協同組合 代表理事理事長	
	岸本 四郎	幡東森林組合 代表理事組合長	
	浦尻 和伸	すくも湾漁業協同組合 代表理事組合長	
	和田 郁生	高知県漁業協同組合 清水ブロック常勤理事	
	岡山 静夫	四万十川中央漁業協同組合 組合長	
	沖 階吉	四万十川下流漁業協同組合 代表理事組合長	
	田村 章	宿毛商工会議所 会頭	
	廣田 勝	土佐清水商工会議所 会頭	
	福田 充	中村商工会議所 会頭	
	長山 誠久	大月町商工会 会長	
	小八木 喜尊	三原村商工会 会長	
	小笠原 武	黒潮町商工会 会長	
	浜田 敦夫	四万十市西土佐商工会 会長	
藤近 馨	幡多広域観光協議会 会長		
民地域 代表住	中脇 裕美	(四万十市在住)	

21名

変わろう・変えよう・産業と暮らし
高知県産業振興計画 **ver.3**

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》

平成 23年3月
高知県 産業振興推進部 計画推進課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2-20

TEL 088-823-9334

FAX 088-823-9255

E-mail:120801@ken.pref.kochi.lg.jp

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/120801/>